○破産手續ノ債權調査會ニ於テ異議ヲ受ケタル優先權ノ確定ヲ求ムル訴訟ハ總テノ共同訴訟人ニ對シ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノナレハ其共同訴訟人中ノ或者カ期日ヲ懈怠シタル場合ニハ民事訴訟法第五十條第四項ノ規定ヲ適用スヘキモノトス　四四

○第一回口頭辯論ノ期日ニ出頭セサリシ訴訟人ニ第二回期日ノ呼出ヲ發セサルニモ拘ハラス當日出頭セサリシ懈怠ヲ責メ他ノ出頭者ニ代理ヲ任シタルモノト看做シタルハ不法ノ裁判ナリ　二六　二

（同主旨）

共同訴訟人中ノ或人ノミカ期日ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做ストノ規定ハ期日ノ送達ヲ受ケサル共同訴訟人ニ適用スルコトヲ得ス　二五　四　九一

○民事訴訟法第五十條第五項ハ同級審ニ於ケル訴訟手續ヲ規定シタルモノニシテ上級審ノ訴訟手續ヲ定メタルモノニ非ス　二九　九　九七

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ於テ共同訴訟人中ノ一人カ爲シタル上訴ハ他ノ共同訴訟人ノ爲メ判決ノ確定ヲ妨クル效力ヲ生ス從テ他ノ共同訴訟人ハ形式上上訴ヲ提起セサルニ拘ハラス其訴訟ノ當事者タルヘキモノナレハ裁判所カ之ニ對シ送達及ヒ呼出ヲ爲スハ當然ナリ　三〇　八　二三

○民事訴訟法第五十條第五項ニ於テ懈怠シタル共同訴訟人ニモ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スハ其訴訟人ヲシテ何時タリトモ訴訟手續ニ再ヒ加ハルノ便宜ヲ得セシムル爲メニ外ナラス故ニ懈怠シタル訴訟人カ呼出ナキニ拘ハラス何等ノ異議ヲモ挾マスシテ口頭辯論ニ加ハリタル以上ハ送達及ヒ呼出ナキコトヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　三六　二七〇

○權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴件ニ在リテハ控訴裁判所ハ第一審判決ヲ受ケタル共同訴訟人總員ニ對シテ民事訴訟法第五十條ノ手續ヲ盡ササルヘカラス　三九　九三〇

○共同訴訟人中ノ或者カ上訴ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ民事訴訟法第五十條第五項ニ依リ他ノ上訴セサル者ニ對シ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要スルハ其共同訴訟人總員ニ對シテ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ時ニ限ルモノトス　三九　一〇三四

第三節　第三者ノ訴訟參加

○本訴訟ノ原告カ主參加人ノ要求ニ贊同シタルト同時ニ原告ハ其從參加人ト爲リ主參加訴訟ハ自然消滅シテ主參加人ハ本訴訟ノ原告ト爲リ本訴訟ノ被告ハ其對手人ト爲リタルモノナルカ故ニ裁判所カ特ニ併合ヲ命セス一箇ノ判決ヲ以テ裁判シタルハ相當ニシテ訴訟法則ニ違反シタ

ルモノニ非ス

（第五十一條）『第五十一條』

○執行參加ノ訴ニ於テ債務者ヲ共同被告ト爲ストキハ强制執行ニ對スル消極的異議ノ訴ニ積極的所有權確認訴訟ヲ包含スルモノト推定セラル而シテ執行參加ノ當事者雙方ヲ共同被告ト爲シ所有權確認ノ主參加訴訟ヲ提起スルハ執行參加ノ當事者間ニ爭アル所有權ノ確認ニ付キ自己ニ所有權アルコトヲ確認セシメントスルモノナルヲ以テ此主參加訴訟ハ適法ナリトス

○原告カ被告ニ對シテ或行爲ヲ差止ムル權利アリト主張シ其行爲ヲ爲サルコトヲ請求シタル場合ニ主參加人カ自己ノ爲メニ其行爲ヲ爲サシムル權利アリト主張シ被告ニ對シテ其行爲ノ實行ヲ請求シ且同時ニ原被兩造ニ對シテ之ニ關スル權利確認請求ノ訴ヲ起スカ如キハ固ヨリ妨ナキ所ニシテ民事訴訟法第五十一條ニ適合セサルモノト謂フヲ得ス

○原告カ被告ニ對シ家屋並ニ其附屬物ヲ除去シテ地所ノ明渡ヲ爲スヘキコトヲ請求シタル場合ニ第三者カ原被兩造ヲシテ其家屋及ヒ附屬物ニ付キ所有權アルコトヲ確認セシメントスル訴訟ハ主參加ノ形式ニ依リテ之ヲ提起スルヲ得ス

二九	二		四
三四	九	二三	
三七		五〇二	
四〇		四四七	

○主參加訴訟ハ常ニ必スシモ主參加被告ニ對シ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノト云フヲ得ス權利關係カ合一ニノミ確定スヘキヤ否ヤハ其訴訟事件ノ具體的內容ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス

○民事訴訟第五十一條第一項ニ依ル主參加訴訟ハ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノナルトキニ限リ同法第五十條ニ規定セル必要的共同訴訟ニ屬スルモノトス

○主參加人ノ訴カ本訴訟ノ當事者雙方ニ對シ所有權ノ確認ヲ求ムルニ在ルトキハ民事訴訟法第五十條ニ規定セル必要的共同訴訟ニ屬スルモノトス

○第三者カ民事訴訟法第五十一條第二項ノ規定ニ依リ共同訴訟ヲ必要トシテ訴ヲ提起スルモ裁判所ニ於テ共謀ニ出テタル事實ヲ認メ難シト爲シ其請求ヲ排斥スルトキハ當初必要的共同訴訟トシテ採用スルモ裁判ノ結果權利關係合一ニ確定セサル場合アルモノトス

（第五十二條）『第五十二條』

○當事者間ノ係爭目的物件ニ對シ其所有權ヲ主張シ之カ名義切換ヲ請求スル主參加申立アルトキハ本訴訟ノ辯論ハ民事訴訟法第五十二條第一項ニ依ルモ又ハ同法第百二十一條ノ規定ニ依ルモ主參加訴訟ノ完結ニ

三	五	四七五	
六	四	一〇二一	
六		一〇三一	
三九		四八六	
六	一	一一一	

至ルマテ之ヲ中止スルヲ相當トス

『第五十三條』

（第五十三條）

（理）（民訴十二）

○買主カ買受物ノ追奪セラレントスル訴訟アル場合ニ於テ賣主其訴訟ニ參加シ買主ノ爲メ防禦ノ方法ヲ提出シ賣買代金返還ノ請求ニ應セサルコトヲ得ルナリ廼チ其理由果シテ正當ナレハ代金返還ノ義務ナシ然ラサレハ損害賠償ノ責ニ當ラサルヘカラス抑追奪擔保ノ義務ハ賣渡シタル物カ追奪セラレタルト同時ニ生スト雖モ賣主カ買主ニ賣買代金ニ相當スル金額ヲ支拂フニ依リ賣買ハ解除スルモノニ非ス之カ損害ヲ賠償スルニ過キサルノミ

○從參加人ハ權利拘束ノ繼續中當事者ノ一方ヲ補助スル爲メ自ラ進テ其訴訟ニ附隨スルモノニシテ審級ノ如何ニ拘ハラス當然當事者タルヘキモノニ非ス故ニ從參加人ニ對シ提起セル控訴ハ不適法ナリ

○第一審ニ於テ從參加ノ申請アリタル者ニ對シ異議ナク判決ヲ受ケタル後之ヲ對手者ノ一人トシテ控訴ヲ提起シタルトキハ第二審ニ於テ更ニ從參加ノ申請ナキモ從參加人タル資格ヲ有スルモノトス

○民事訴訟法第五十三條以下ニ規定シタル訴訟ノ從參加ハ主參加ト異ナリ他ノ當事者間ニ於ケル訴訟ニ依リテ權利上利害ノ關係ヲ有スル者カ

二八　一　七一
二七　三三
二九　四　二一
三〇　五　五五

原告若クハ被告ニ附隨シ一方ノ訴訟行爲ヲ補助スルコトノミヲ目的トスルモノニシテ參加人自ラ獨立シテ當事者ト爲リ又ハ共同訴訟人ト爲ルモノニ非ス

（理）（民訴十五）

○債權確認訴訟ノ被告ニ對シテ債權ヲ有シ被告カ敗訴シタルトキ其他ノ財產ヲ以テ十分ニ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサルニ至ルカ如キ地位ニ在ル第三者ハ民事訴訟法第五十三條ニ所謂權利上利害ノ關係ヲ有スル者ニ該當ス

○他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ニ於テ其目的物ヲ自己ノ爲メニ請求スルコトナク唯原告ノ主張セル債權ハ自己カ先キニ讓受ケタルモノニシテ讓渡人ノ爲シタル契約解除ノ告知ハ無效ナル旨ヲ主張シ以テ被告ヲ補助セントスル場合ハ從參加ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ主參加ノ手續ニ依ルヘキモノニ非ス

（理）（民訴十四）

○從參加ノ要件タル權利上ノ利害關係トハ自己ノ補助セントスル當事者ノ敗訴ニ因リ自己ノ權利若クハ法律上ノ地位ニ不利益ヲ被ムルヘキ地位ニ在ルコトヲ謂フモノニシテ必スシモ本訴訟ノ判決カ直接ニ其者ニ對シテモ效力ヲ及ホシ實體權ニ影響ヲ生スル場合ニ限ルモノニ非ス

○本訴訟カ被告先代ニ對シ債權ヲ有スト主張スル原告ヨリ被告ニ對シ其

三八　一七七二
四一　八八六
四二　九八一
四四　二〇〇〇

○家督相續ニ對スル限定承認ノ無效確認ヲ請求スル場合ニ於テ原告ト同シク被告先代ニ對シ債權ヲ有スル者ハ從參加ノ要件タル權利上ノ利害關係ヲ有スルモノトス

（第五十四條）

『第五十四條』

○從參加人ノ陳述カ主タル被控訴人ノ陳述ト相牴觸スルトキハ主タル被控訴人ノ陳述ヲ以テ標準トス

○從參加人ハ其補助スル當事者ノ爲メニ存スル期間內ニ上訴ヲ爲スノ權利ヲ有スト雖モ元來從參加人ハ訴訟當事者一方ヲ補助スル目的ヲ以テ訴訟ニ干與スルモノニシテ固ヨリ訴訟當事者ノ地位ニ立ツモノニ非サレハ主タル當事者ノ意思ニ反シテ爲シタル從參加人ノ上告申立ハ不適法ナリトス

○被告ト從參加人ノ申立相牴觸スルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ヲ標準トシテ判斷スベキモノトス

（第五十五條）

『第五十五條』

○民事訴訟法第五十五條ハ專ラ補助ヲ受ケタル當事者ト從參加人トノ關係ノミヲ規定シタルモノニシテ補助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ相手方ト從參加人トノ間ニ確定判決ノ效力ヲ及ホサシムル法意ニ非ス

（第五十七條）

『第五十七條』

○口頭辯論期日ニ從參加人ヲ呼出サスシテ爲シタル判決ハ不法ナリ

○第一審ニ於ケル從參加ハ第二審ニ於テモ當然其效力ヲ存續スヘキモノナレハ第一審ノ從參加人ニ對シテハ第二審裁判所ハ總テノ口頭辯論期日ニ之カ呼出ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

（第五十九條）

『第五十九條』

○民事訴訟法第五十九條ノ所謂擔保又ハ賠償ノ責任ナキ第三者ハ訴訟ノ告知ヲ受ケ其訴訟ニ參加セサルモ尙ホ其裁判ヲ不當ナリト主張スルコトヲ得

○會社ノ無限責任社員ハ該社ノ債務ニ付キ縱令形式上訴訟ニ於テ共同被告ノ地位ニ立タスト雖モ實體上義務共通ノ關係アルモノナレハ該社員ノ一人カ會社ノ債權者ヨリ訴ヲ受クルニ當リ他ノ無限責任社員ニ對シ訴訟參加ノ告知ヲ爲スヲ得ヘシ縱令其告知ヲ爲サスシテ訴訟終了シ未タ債權者ニ對シ其債務ヲ辨濟セサル前ト雖モ尙ホ共同シテ其債務ノ負擔ヲ請求スル權利アリ

（第六十一條）

『第六十一條』

○訴訟告知ノ申出ハ本訴訟進行ノ妨ト爲ラサルカ故ニ裁判所ハ其申出ア

ルニ拘ハラス本訴訟ノ辯論ヲ終結シ得ルモノトス　三六　四三七

○訴訟告知書提出ノ當日本訴訟ノ辯論ヲ終結シタル場合ニ於テハ該告知書ヲ被告知者ニ送達セサルモ敢テ本訴訟ノ判決ニ影響ヲ及ホスコトナシ　三六　四二七

（第六十二條）

『第六十二條』

○物ノ所有權ヲ主張シテ其占有者ニ對シ之カ回復ヲ請求スル場合ニ於テ占有者カ寺院ノ住職ニシテ寺院ノ名ヲ以テ占有スルトキハ占有者ハ民事訴訟法第六十二條ニ依リ指名參加ノ申立ヲ爲シ寺院ヲシテ訴訟ヲ引受ケシメ其訴訟ヨリ脫退スルコトヲ得ルモノトス　五　二一〇六

○如上ノ場合ニ於テ占有者カ同條所定ノ權利ヲ行使セサルトキハ其占有ニ正當ノ權原ナキ限リ占有資格カ住職タル一事ヲ以テハ起訴者ノ請求ヲ排斥スルコトヲ得サルモノトス　五　二一〇六

第四節　訴訟代理人及ヒ輔佐人

○訴訟書類ノ送達受取人ハ民事訴訟法第六十三條以下ノ規定ニ從フヲ要セサルヲ以テ何人ニ代理セシムルモ妨ナキモノトス　三四　二

○民事訴訟法ニ於テ特ニ當事者本人ノ行爲ヲ必要トスル場合ニハ單ニ當事者ノ文字ヲ用ヰスシテ必ス當事者本人相手方本人若クハ當事者自身ノ文字ヲ用ヰ他人ヲシテ自己ニ代ラシムルコトヲ許ササルノ意ヲ明示スルヲ例トス　三八　九八七

○訴訟代理人トハ訴訟當事者又ハ其法律上代理人ノ委任ニ因リ訴訟行爲ヲ爲ス者ヲ指稱スルヲ以テ株式會社ノ取締役ハ訴訟代理人ニ非ス從テ取締役カ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スルモ之ヲ以テ復代理人ナリト云フヲ得ス　四四　三二五

（第六十三條）

『第六十三條』

○訴訟代理人選定ノ委任ハ特別委任ヲ以テ之ヲ明言スヘキ旨ノ法則ナケレハ委任ノ旨趣汎博ニシテ受任者カ訴訟代理人ヲ選任スルノ權限ヲモ包含スルコトヲ認メ得ヘキ場合ニハ其權限アルコトヲ認定シ得ルモノトス　三九　二一〇八

○受任者カ自ラ訴訟代理人ト爲ルニ非スシテ本人ノ爲メニ訴訟代理人ノ選定ノミヲ爲ス場合ノ如キハ民事訴訟法第六十三條ノ相關セサル所ナレハ辯護士ニ非サル者ト雖モ本人ノ爲メニ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選定スルノ委任ヲ受クルハ違法ニ非ス　三九　二一〇八

○共同訴訟ニシテ權利關係カ合一ニノミ確定スヘキトキニ於テ法律上其同訴訟人中ノ或人カ期日ヲ懈怠シタルモ其懈怠セサル者ニ代理ヲ委任

シタルモノト看做スヘキハ法律ノ規定スル所ナルヲ以テ其同訴訟人中ノ一人ニ代理委任ヲ爲スコトニ於テ欠缺アルモ全ク訴ノ提起ナキ場合ト同一ニ論スルヲ得ス

○地方裁判所以上ニ在リテハ共同訴訟人タリト雖モ之ニ訴訟代理ヲ委任スルコトヲ得ス　二六

○民事訴訟法第六十三條ハ法令ニ依リ其權限ノ範圍ヲ規定シアラサル雇人ヲ訴訟代理人ト爲ス場合ヲ規定シタルモノニシテ法令ノ規定ニ因リ特ニ代理權ノ範圍ヲ定メ訴訟行爲ヲ爲スノ權限ヲ與ヘタル場合ヲモ併セテ規定シタルモノニ非ス　二九　四

（參照）本人ニ代リ原告ト爲リ復タ之ヲ代言人ニ委任スルモ法律ノ禁スル所ニ非ス　三五　六

（第六十四條）

『第六十四條』

○辯護士ニ非サル訴訟代理人カ訴訟能力ヲ有スルコト及ヒ當事者ノ親族又ハ雇人ナルコトハ委任ノ内容ヲ爲スモノニ非サレハ此等ノ事項ハ裁判所ノ記錄ニ備フヘキ書面ヲ以テ證スルコトヲ要セサルノミナラス之ヲ證スル書面ヲ提出セサルモ委任ノ欠缺ヲ以テ論スヘキモノニ非ス　二四　一　一三五

○訴訟代理人カ私署證書ニ依リ訴訟委任ヲ受ケタル場合ニ於テ相手方ノ請求アルニ拘ハラス委任狀ノ認證ヲ爲スコト能ハサル以上ハ適法ノ委任アルモノト認ムルヲ得サレハ其訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ヲ有效ト爲スコトヲ得サルモノトス　六　一八六七

（第六十五條）

『第六十五條』

○方式ノ送達ヲ受ケサルモ甘シテ之カ答辯ヲ爲スハ之ヲ受クルモノノ隨意タリ決シテ法ノ禁スル所ニ非ス又控訴ヲ爲スノ委任ヲ爲シタル以上ハ相手方ノ附帶控訴ニ對シ反訴ノ意思アルコト自ラ明瞭ナルニ於テハ民事訴訟法第六十五條第一項ニ屬スヘキモノニシテ敢テ特別ノ委任ヲ要セス　五

○民事訴訟法ニ於テ認諾ト稱スルモノハ請求ヲ認諾スルノ謂ニシテ即チ一方ノ當事者カ對手方ノ請求ニ承服シ其爭訟ヲ止息スルニ在リ而シテ爭訟ヲ止息スル爲メノ認諾ト抗爭ヲ事トスル訴訟代理トハ其旨意氷炭相容レス認諾ヲ以テ訴訟代理ノ目的ヲ達スル必要若クハ直接ノ結果ト看做スコトヲ得サルヨリ法律カ認諾ニ對シ特別委任ヲ必要トスル所以ナリ（民訴六五條二項）然ルニ當事者一方ノ代理人カ原公廷ニ於ケル申立ハ之カ負擔ヲ認メタルノミニテ其請求ニ承服セス却テ計算上對手者ヨリ受取ルヘキ部分アリト抗爭シタルモノナレハ此所爲ハ民事訴訟法　二七　九五　二六八

上之ヲ稱シテ自白ト云フヘクシテ認諾ト云フヘキモノニ非ス隨テ特別委任ノ必要ナキコトヲ知ルヘシ

○反訴取下ヲ承諾スル如キハ普通ノ訴訟委任中ニ包含ス　二七

○假處分申請ニ付テノ訴訟代理人ハ其決定ニ對スル相手方ノ異議申立ニ對シ民事訴訟法第六十五條ニ從ヒ當然答辯ヲ爲ス資格ヲ有ス　二八　二　一八

○證書訴訟ヲ止メ通常訴訟手續ニ繫屬セシムルカ如キハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ規定セル訴訟行爲ニ非サルヲ以テ同條第一項ノ範圍ニ入ルヘキモノトス故ニ證書訴訟ノ委任ハ該訴訟カ通常訴訟トシテ繫屬スル場合ニ於テモ亦有效ナリ　三〇　三　九二

○訴訟代理人ハ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外委任ヲ受ケタル事件ニ付キ一切ノ攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得從テ契約ノ解除カ必要ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ナル以上ハ訴訟代理人ハ相手方ニ對シ契約ヲ解除スルノ權限ヲ有ス　三三　三　六〇

（同旨）

訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外訴訟委任ヲ受ケタル事件ニ關シテ一切ノ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ必要ナル攻擊方法ヲ提出シ又相手方ノ抗辯ヲ受ケ之ニ對シ適宜防禦答辯ヲ爲シ得ヘキモノトス　三八　一七一八　三五　一〇　一五四

訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ必要ナル一切ノ訴訟行爲ヲ爲シ特ニ適宜ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ提出スル權限ヲ有スルモノナレハ親權ヲ行フ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ借財ヲ爲シタル行爲取消ノ意思ヲ表示シ以テ防禦ノ方法ト爲サントセハ固ヨリ之ヲ爲スコトヲ妨ケス　三六　八二四

訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外受任ノ事件ニ付キ一切ノ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ訴訟上必要ナル攻擊又ハ防禦方法ヲ提出シ得ルト同時ニ相手方ノ攻擊若クハ防禦ニ對シテハ代理人トシテ其衝ニ當ルヘキモノトス故ニ當事者ノ一方ヨリ爭ニ係ル法律行爲ヲ取消スノ意思ヲ表示シテ防禦抗辯ヲ爲ストキハ相手方ノ訴訟代理人ニ於テ之ヲ受クヘキハ當然ナリ　三八　一三三五

○控訴提起ノ委任ヲ受ケタル代理人ハ被控訴人カ爲シタル附帶控訴ノ申立ニ對シテ相當ノ防禦方法ヲ提出シ得ヘキハ勿論其附帶控訴ニ關スル準備書面ノ送達ヲ受クル權限アリ　四三

（刑）

○詐欺取財ノ被害者カ訴訟代理人ニ對シ賣買契約ヲ取消ス旨ノ意思ヲ明示シテ其取消ノ委任ヲ爲ササルモ賣買ノ成立ヲ證スヘキ抵當登記ノ抹消及ヒ其證書取戻ノ請求ヲ委任スルニ於テハ該契約ヲ存在セシメサル意思ヲ默示シテ之カ取消ヲモ訴訟委任ノ範圍ニ包含セシメタルモノト解スルヲ相當トス　四三　五三三　二〇四九

○訴訟委任ハ當該審級ノ終了迄ニ限ラルヘキモノニシテ普通委任ヲ受ケ

○タル訴訟代理人カ强制執行ヨリ生スル訴訟行爲ヲ爲シ得ルコトハ民訴訟法第六十五條第一項ニ定ムル委任ノ範圍ニ屬スルカ爲メナレハ審級終了ノ問題ト交渉スル所ナシ　四五　三六〇

○訴訟事件カ一旦其審級ヲ離脱シタルト否トヲ問ハス苟モ其審級ニ繫屬スル限ハ其委任ニ基ク權限ヲ行使スルコトヲ得從テ差戻後ニ於テモ舊訴訟代理人ハ其審級ニ於ケル訴訟行爲ヲ爲シ得ルモノトス　四五　三五〇

○民事訴訟法カ訴訟當事者ニ認許スル相殺ノ抗辯ハ相手方ノ請求ニ對スル防禦ノ方法ニシテ一ノ訴訟行爲タル性質ヲ有スルモノトス從テ訴訟代理人ノ代理權中ニハ相手方ニ對シテ此抗辯ヲ提出スルノ權限竝ニ相手方ヨリ其抗辯ヲ對抗セラルルノ權限ヲ包含スルモノトス　元　一〇七五

（同主旨）

相殺ヲ以テ抗辯方法ト爲スヘキ場合ニ於テハ特別ノ意思表示ヲ須タスシテ其相殺ヲ爲ス行爲ハ當然訴訟委任中ニ包含スルモノトス　三四

訴訟代理人ハ特別委任ヲ要スル事項ヲ除クノ外委任ヲ受ケタル事件ニ付キ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲シ特ニ適宜ノ攻擊又ハ防禦方法ヲ提出シ得ルト同時ニ相手方ノ攻擊又ハ防禦ニ對シ自ラ其衝ニ當ルヘキモノトス從テ相手方ノ攻擊ニ對スル防禦トシテ相殺ノ意思表示ヲ爲シ又相手方ノ爲シタル意思表示ヲ受クルノ權限ヲ有ス　二　四四　三九　三二八

○地料增額請求ノ意思表示ヲ爲スニ付キ特定ノ方法アルニ非サレハ裁判外ハ勿論裁判上相手方ニ對シ訴狀其他一定ノ申立書又ハ口頭辯論ニ於テ攻擊防禦ノ方法トシテ爲スヲ妨ケス而シテ一定ノ申立書ヲ以テ爲ス增額請求ノ意思表示ハ其書面カ相手方又ハ其訴訟代理人ニ送達セラレタルトキニ於テ訴訟行爲ト同時ニ民法上法律行爲ノ效力ヲ生スルモノトス　六　一三八

○賣買行爲ヲ取消シ其物件ノ原狀回復ヲ求ムル訴訟ニ於テ法律行爲取消ノ意思表示ハ攻擊防禦ノ方法トシテ訴訟代理人ニ於テ當然之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　六　五七〇

○民事訴訟法第六十五條第一項ハ訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ要スル同條第二項列記ノ行爲ヲ除クノ外訴訟ニ關スル總テノ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル旨趣ナリトス　六　一六九八

○訴訟費用額確定決定ハ訴訟ノ第一審ニ繫屬シタル裁判所ニ於テ爲スヘキモノニシテ費用額ノ確定決定ノ送達ヲ受クルハ第一審ニ於ケル訴訟行爲タルノミナラス其行爲ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ該當セサルヲ以テ第一審ノ訴訟委任ヲ受ケタル訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルコトナクシテ該決定ノ送達ヲ受クル權限ヲ有スルモノトス　六　一六九八

○民事訴訟法第六十五條第一項ノ外同條第二項列記ノ事項ニ付キ特別委任ヲ受ケタル訴訟代理人ハ訴訟カ如何ナル審級ニ在ルト又上級審ヨリ下級審ニ差戻若クハ移送セラレタルトヲ問ハス其訴訟ノ完結ニ至ル迄訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　六　二一三六

（同手續）

民事訴訟法第六十五條第一項ノ普通委任ノ外同條第二項ノ特別權限ヲ委任セラレタル代理人ハ訴訟ノ如何ナル審級ニ在ルト又上級審ヨリ下級審ニ差戻シ又ハ移送セラレタルトヲ論セス總テ其訴訟ノ完結ニ至ルマテ訴訟行爲ヲ爲シ得ルモノトス　二八　二　六三

○民事訴訟法第百九十六條第一項第三號ニ基キ損害賠償ヲ求ムルハ最初ノ訴ト獨立シテ之ヲ請求スルニ非スシテ最初求メタル物ニ代ヘ補充的ニ之ヲ請求スルモノナレハ訴訟代理人ニ更ニ特別ナル授權ヲ要トスルモノニ非ス　六　二二六一

○訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スルモノヲ除ク外受任ノ事件ニ付キ一切ノ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ訴訟上必要ナル攻擊又ハ防禦方法ヲ提出スルコトヲ得ルモノトス　七　五九九

○法律行爲取消ノ意思表示ニ付テハ法律上何等形式ノ定ナケレハ防禦カ法トシテ之ヲ爲スモ妨ナキヲ以テ訴訟代理人ハ訴訟上係爭法律行爲ヲ取消ス意思表示ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　七　五九九

○訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ和解又ハ抛棄ヲ爲スコトヲ得サルハ訴訟法第六十五條第二項ノ規定スル所ナリ然ラハ此委任ヲ受ケタル證左ナキ以上ハ縱令裁判所ヨリ下付シタル和解調書即チ公正ノ證書ナリト雖モ其效力ヲ對手人ニ及ホスコトヲ得ス　二六　一　六四

○當事者ノ一方ヨリ控訴ニ關スル一切ノ訴訟行爲ヲ委任セラレタル代理人ハ其相手方ヨリ提起シタル控訴ニ付テモ亦當然之ニ對スル訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　四　一　四三〇

（第六十七條）

『第六十七條』

○數人ノ訴訟代理人カ其同シテ訴訟行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ代理人ノ一人カ代理權限ヲ有スルトキハ他ノ代理人ニ付キ代理權限ノ欠缺アルモ其訴訟行爲ハ有效ナリトス　三　三七九

○訴訟代理人數人アルトキハ委任ニ別段ノ定ナキ限リ其同若クハ各別ニテ代理スルコトヲ得ルモノナレハ其一人ノミニ對シテ期日ノ呼出ヲ爲スモ違法ニ非ス　四　一五〇八

○訴訟代理人數人アリテ委任ニ別段ノ定ナキトキハ各別ニ代理スルコトヲ得ルモノナレハ其一人ノミ呼出ヲ受ケ出頭シ辯論ヲ爲スモ訴訟手續

ニ瑕疵ナキモノトス

（第六十八條）『第六十八條』

○本人ノ意思ニ反シテ爲シタルコトノ立證ナキ限ハ訴訟代理人ノ爲シタル事實上ノ陳述ハ本人ノ意思ニ出テタルモノト認ムヘキモノトス

○訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於ケル期日又ハ期間遵守ノ有無ハ訴訟委任ノ範圍内ニ在ルモノハ其訴訟代理人ニ付キ之ヲ定ムルヲ當然トス

（第六十九條）『第六十九條』

○法律上代理ノ變更ニ依ル委任ノ消滅ハ之ヲ通知セサレハ相手方ニ對シテ其效力ヲ生セス

（同左ノ旨）

訴訟代理委任ノ消滅ハ之ヲ相手方ニ通知スルマテ其效ナシ故ニ本人ノ出廷ノミヲ以テ相手方ニ對シ委任ノ消滅アリト看做スヲ得ス

死亡ニ由ル代理委任ノ消滅ハ其消滅ヲ通知スル書面ヲ受訴裁判所ニ提出シ相手方ニ送達セシムルマテハ其效ヲ生セサルモノトス

○民事訴訟法第六十九條ノ規定ハ委任者ト受任者トノ間ニ於ケル訴訟代理ノ委任消滅シ通知ヲ爲スニ非サレハ相手方ニ於テ其代理委任消滅ヲ知ル能ハサルヲ常トスル事由ノ生シタル場合ニ適用スヘキモノニシテ

法律ヲ以テ或能力ヲ制限シ授權ヲ必要ト定メタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○當事者カ訴訟代理人ヲシテ訴訟行爲ヲ爲サシムル場合ニ於テハ該當事者中ニ訴訟能力若クハ法定代理人ノ變更ヲ生スルコトアルモ其代理委任消滅ニ關スル通知書ノ提出アル迄ハ裁判所ハ依然トシテ其訴訟手續ヲ進行スルコトヲ得ヘシ

○當事者ノ法定代理人カ訴訟代理人ヲシテ訴訟行爲ヲ爲サシムル場合ニ於テ訴訟中其代表權ヲ喪失シタルニ拘ハラス委任消滅ノ通知ヲ爲ササル以上ハ判決ハ依然代理人ニ對シテ之ヲ言渡スヘキモノトス

（同左ノ旨）

訴訟代理委任ノ消滅ハ之ヲ裁判所ニ届出テ其通知書ヲ相手方ニ送達セサレハ效力ヲ生セス隨テ其訴訟代理人ノ受ケタル判決ハ有效ナリ

當事者ノ法律上代理人カ訴訟中變更シタルニ拘ハラス其申立書ヲ提出シタルハ口頭辯論終結後ニ係リ且右代理人ヨリ委任消滅ニ關シテ適法ナル通知ヲ爲サス及ヒ後ノ法律上代理人カ訴訟受繼ノ手續ヲ爲ササル以上ハ判決ハ前法律上代理人ニ對シテ之ヲ言渡スヘキモノトス

○民事訴訟法第六十九條及ヒ同第百八十三條第一項ニ定メタル委任消滅ノ通知ニ付テハ一定ノ方式存セサルヲ以テ專實上其通知ノ效果アラハ相手方ニ對シテ委任消滅ノ效ヲ生スルモノトス

○民事訴訟法第六十九條及ヒ第百八十三條ノ規定ハ破産ノ場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

（第七十條）

『第七十條』

○訴訟代理人トシテ適法ノ委任ヲ受ケタル甲者カ乙者ト共ニ出廷シテ判決ノ基本タル口頭辯論ヲ爲シタル以上ハ縱令乙者ノ代理權ニ欠缺アルモ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

○當事者カ第二審ニ提出セル代理委任狀ニ不適式ノ點アルモ正當ノ委任ヲ受ケタル訴訟代理人カ上告審ニ於テ前審ノ代理人ノ訴訟行爲ヲ追認シタル以上ハ相手方ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○下級審ニ於テ適法ノ委任ナキ訴訟代理人カ爲シタル訴訟行爲ト雖モ上級審ニ至リ本人ノ追認ヲ受クルトキハ當初ニ遡テ有效ト爲ルモノトス

（同主旨）

下級審ニ於テ適法ノ委任ナキ訴訟代理人ノ爲シタル訴訟行爲ト雖モ本人カ上級審ニ於テ之ヲ追認スルトキハ當初ニ遡テ有效ナリトス

○民事訴訟法第七十條ニ所謂委任ノ欠缺トハ委任ヲ證スヘキ書面ヲ提出セサルカ又ハ其書面ノ內容上若クハ形式上ノ缺點アルコトヲ指稱スルモノトス

○辯護士ニ非サル訴訟代理人カ訴訟能力ヲ有スルコト及ヒ當事者ノ親族又ハ雇人ナルコトハ委任ノ內容ヲ爲スモノニ非サレハ此等ノ事項ハ裁判所ノ記錄ニ備フヘキ書面ヲ以テ證スルコトヲ要セサルノミナラス之ヲ證スル書面ヲ提出セサルモ委任ノ欠缺ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第七十條末項ハ委任欠缺ノ補正ニ關スル規定ニシテ訴訟行爲ノ追認ニ關スル規定ニ非サレハ同規定ニ依リ訴訟行爲追認ノ時期ヲ論斷スルコトヲ得ス

第五節　訴訟費用

○後見人アル幼者ノ行爲ヲ以テ獨立ノ能力アル者ノ行爲ト同視スヘカラサルハ法理ノ然ラシムル所ナリ故ニ訴訟費用ノ如キモ幼者ノ財產處分權ヲ有スル者ノ許諾ヲ經ルニ非サルヨリハ幼者ノ財產ヲ處理スルコト能ハサルモノトス乃チ幼者ノ承諾ノミニ據テ之ヲ處分スルハ不當ナリ

○後見人罷黜訴訟事件ニ付キ幼者自ラ起訴者ノ一人タル事跡ノ見ルヘキモノナキニモ拘ハラス裁判所ニ於テ其幼者モ亦起訴者ノ一人タルコト明カナリト判定シ幼者ニ訴訟費用ヲ負擔セシメタルハ違法ノ裁判ナリ

○凡ソ敗訴者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルハ其訴訟行爲ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムルニ外ナラス左レハ勝訴者カ辨償ヲ求ムル所ノ

費用ハ現實訴訟ノ爲メニ費シタルモノナルヤ否ヤノ事實ヲ審究スルハ
○其費用額ヲ定ムルニ於テ最モ緊要ノ事ナリトス而シテ訴訟委任ハ書面ノ往復ヲ以テ之ヲ爲シ得ヘク必スシモ面接ヲ要セサルモノナルカ故ニ單ニ事訴訟委任ヲ爲シタル事實ノミヲ以テ輙ク面接委任ヲ爲シタルモノト推定スヘカラサルハ言ヲ竢タス　二八　三〇三
○裁判所カ訴訟費用ノ如キ性質上分割スルコトヲ得ヘキモノニ付キ單純ニ二人以上ノ當事者ニ其負擔ヲ命シタルトキハ其當事者ハ之ヲ平分シテ各自其一部ヲ負擔スルヲ通例トス　三五　一〇　八五
○答辯書ノ提出ハ提出者自ラ裁判所ニ出頭シテ之ヲ爲スコトヲ要スルニ非スシテ郵便其他ノ方法ヲ以テモ亦之ヲ爲シ得ルモノナレハ單ニ答辯書カ提出シアル事實ノミニ依リ提出者ハ其住所ヨリ裁判所マテ往復ノ旅行ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス　三七　五二七
○主タル債務ニ付キ連帶ノ義務アル者ハ之ニ附隨スル債務ニ付テモ亦連帶ノ義務アリ從テ連帶債務者ハ訴訟費用ニ付キ連帶ノ義務ヲ負フモノトス　三八　六九六
○訴訟費用ニ關スル規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノニシテ當事者ノ意思表示ニ因リ之ニ反スル特約ヲ爲スコトヲ許サス從テ訴訟ニ對シ不當ノ抗

爭ヲ爲シタルカ爲メ生スヘキ損害ニ付キ賠償額ヲ豫定スルモ其效ナシ　三八　七六三
○當事者ノ一方カ訴訟費用ノ辨濟ヲ求ムル權利ハ公法ノ規定ニ依リテ發生シタルモノナリト雖モ其性質タル私法上ノ金錢債權ノ一種ニ外ナラサレハ民法ノ規定ニ從ヒ相殺ノ主張ヲ許スモノト解スルヲ相當トス　七　一九四七
○訴訟費用ノ辨濟義務ハ費用額確定決定ヲ經テ始メテ辨濟期到達シ相殺適狀ヲ生スルニ至ルモノナレハ費用額確定決定ヲ經サル以前ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ費用辨濟ノ義務ニ付キ相殺ノ意思表示ヲ爲スモ其意思表示ハ費用額確定決定ノ確定シタル時ニ至リ相殺ノ效力ヲ生セシメンコトヲ目的トスルモノナルヲ以テ無效ナリ

（第七十二條）

『第七十二條』

○訴訟費用ハ必要ニシテ且現ニ費シタルモノナルヲ要スルハ訴訟費用法ノ精神タリ　二八　一二七
○訴訟能力ノ有無ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事柄ニ屬スルニ依リ事實訴訟能力ナキコトニ決スル以上ハ當事者ノ一方カ之ニ關スル抗辯ヲ提出セル時期ノ如何ニ拘ハラス其敗訴ノ費用ヲ總テ敗訴者ニ負擔セシムルハ相當ナリ　七　一九四七　二九　一一　六五
○訴訟代理人カ出廷シタルトキハ其本人自ラ出廷スルト否トハ隨意ノ行

○爲ニシテ必要行爲ニ非ス故ニ本人出頭ノ費用ハ訴訟費用中ニ計算スヘキモノニ非ス　三〇　三　九二

○假住所ナルモノハ本住所ニ非サルヲ以テ開廷ノ節實際本住所ヨリ往復シタル事實アルトキハ其費用ヲ請求シ得ヘキハ當然ナリ　三二　六　一〇三

○受訴裁判所ニ於テ證據調ヲ爲ス場合ナルト受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス場合ナルトヲ問ハス訴訟當事者ハ自ラ其期日ニ出頭シ又ハ訴訟代理人ヲシテ出頭セシムルノ權利ヲ有ス從テ其出頭ノ爲メニ要シタル旅費等ハ權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナルモノト看做ササルヲ得ス　三七　一二九

○裁判所カ原告ノ請求額中一部ヲ認容シタル場合ニ於テ被告ニ全部ノ訴訟費用ヲ負擔セシムルニハ相當ノ理由ヲ付スルコトヲ要ス　四一　四九八

○當事者雙方ノ訴訟代理人ノ申立ニ因リ口頭辯論期日ヲ變更シタルトキハ縱令其申立ノ事由カ勝訴者ノ訴訟代理人ノ差支ニ在ルモ之カ爲メニ生シタル訴訟費用ハ勝訴者ヲシテ負擔セシムヘキモノニ非ス　四三　一三一

○上訴ニ於テ一旦勝訴ノ判決ヲ受ケタルモ差戻後ノ判決ニ於テ敗訴シタルトキハ民事訴訟法第七十二條ニ依リ之ニ訴訟ノ總費用ヲ負擔セシムルモ違法ニ非ス　元　九〇九

○期間經過後ノ附帶控訴カ主タル控訴ノ取下ニ因リテ效力ヲ失ヒタルトキハ其附帶控訴ノ爲メニ必要ナリシ費用ハ控訴人ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス　四〇　二一九

○當該訴訟カ判決ニ依リテ終了スル場合ニ於テハ當事者ノ請求ナキトキト雖モ其判決ヲ以テ敗訴者ニ訴訟費用ノ負擔ヲ命スルヲ常トスルモ之カ爲メニ訴ノ取下ニ因リ判決ヲ爲ササル場合ニ於テ別箇ノ訴訟ニ依リ相手方ニ對シ損害ノ賠償トシテ費用ノ請求ヲ爲シ得サルモノニ非ス　五　一四〇九

○裁判所ノ呼出狀ニ基キ出頭シタル證人ハ其證據決定ノ取消アリタルニ拘ハラス出頭ノ日當及ヒ費用ヲ請求シ得ヘク裁判所ハ之ヲ支給シ訴訟費用トシテ敗訴者ニ負擔セシムルコトヲ得ルモノトス　七　一〇四七

○訴訟ノ目的タル差押カ不法ニシテ相手方之ヲ解除シ目的物ノ消滅シタル爲メ原告カ訴ヲ取下ケタル場合ニ於テハ因テ生シタル費用ハ相手方ノ行爲ニ因リテ生セシメタル損害ナレハ相手方ニ於テ之ヲ賠償スルヲ當然トシ民事訴訟法第七十二條第二項ヲ適用スヘキ限ニ在ラス　五　一四〇九

（參照）

○休暇部ノ審理ヲ申請シ却下セラレタルハ必要ナラサル行爲ニ屬スルカ故ニ其對手者ニ其費用ヲ辨濟セシムヘキ限ニ在ラス　二八　一二七

（第七十三條）

『第七十三條』

○民事訴訟法第七十三條第一項ノ場合ニ於ケル費用分擔ノ割合ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナリト認メタル程度ニ應シ適宜ニ之ヲ定ムヘキモノニシテ必スシモ當事者各方ノ勝敗ノ高ニ按分比例ヲ以テ負擔ヲ命スヘキ旨趣ニ非ス　四二

○民事訴訟法第七十三條第二項ハ前項ヲ適用セサルコトヲ得ルノ職權ヲ裁判所ニ許與シタルモノニシテ裁判所ノ職責トシテ規定シタルモノニ非ス故ニ該條項ヲ適用スルト否トハ全ク裁判所ノ自由ニ屬ス　三六

○控訴ノ一部ヲ棄却シタル場合ト雖モ其部分ニ付キ特ニ訴訟費用ヲ生セサリシトキハ被控訴人ヲシテ費用ノ全額ヲ負擔セシムルモ違法ニ非ス　三九

（同主旨）

控訴審ニ於テ控訴ノ一部ヲ正當ト認メ他ノ一部ヲ不當トシテ之ヲ棄却セル場合ニ其不當ト爲シタル控訴ノ一部ニ付キ特別ニ費用ヲ生セサリシモノト認ムルトキハ裁判所ノ意見ニ因リ其一部ノ敗訴者ニ對シ費用全部ノ負擔ヲ命スルモ違法ニ非ス

○債權者カ同一債務ノ債務者全員ヲ共同被告トシテ連帶辨濟ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ原告ノ要求額ヲ是認セル以上ハ縱シヤ連帶辨濟ノ請求ヲ斥ケテ分擔辨濟ヲ命スルモ其要求ハ民事訴訟法第七十三條第二項ニ所謂格外ニ過分ナルニ非サルモノトス　四三

（第七十四條）

『第七十四條』

○民事訴訟法第七十四條ノ規定ハ被告カ直ニ原告ノ請求ヲ認諾シタル場合ニ限リ適用スヘキモノトス　三三

（第七十五條）

『第七十五條』

○辯論期日ヲ變更セシメタル原告若クハ被告ト雖モ自己ノ過失ニ因ルニ非サレハ之カ爲ニ生シタル費用ヲ負擔スヘキモノニ非ス　四

（第七十六條）

『第七十六條』

○印紙貼用不足ノ論告ハ原判決ヲ破毀スルヲ得スト雖モ理由アル申立ニシテ被上告人ノ過失ニ原因スルモノナレハ被上告人ハ訴訟費用ヲ償フノ責ヲ免ルルコトヲ得ス　二七

○民事訴訟法第七十六條ハ無益ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタル原告若クハ被告ヲシテ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラス訴訟費用ヲ負擔セシメ得ルノ規定ニシテ其費用ヲ負擔セシムルト否トハ專ラ裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス　三七

（同主旨）

無益ナル攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタル當事者ヲシテ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラス

其方法ノ費用ヲ負擔セシムルト否トハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ縱令其負擔ヲ命セサルモ之ヲ不法ト云フヘカラス

（第七十八條）

『第七十八條』

○民事訴訟法第七十八條ニ謂フ本案ノ終局判決トハ控訴ヲ受ケタル裁判所カ第一審ノ裁判ヲ廢棄セサル部分即チ控訴棄却ノ裁判ヲ指稱スルニ非スシテ差戻ヲ受ケタル裁判所カ更ニ爲スヘキ終局判決ヲ指稱スルモノトス　三七　九八三

○民事訴訟法第七十八條第二項ハ裁判官ニ於テ事情ニ因リ勝訴者タル原告若クハ被告ヲシテ上訴費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔セシメ得ルコトヲ規定シタルモノニシテ必スシモ之ヲ負擔セシメサルヘカラストノ規定ニ非ス　三六　七八二

（同三七日）

民事訴訟法第七十八條第二項ニハ原告若クハ被告ニ上訴費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔セシムルコトヲ得トアリテ勝訴者ニ費用ヲ負擔セシムルト否トハ專ラ裁判所ノ意見ニ任セタルモノナリ　三六　二二三

○民事訴訟法第七十八條第二項ハ其第一項ノ規定ヲ承ケ上訴ニ因リ裁判ヲ廢棄若クハ破毀スル場合ニノミ適用セラルヘキモノトス　三五　一四九　三九　一三六六

（第七十九條）

○民事訴訟法第七十八條第二項ニ該當スル場合ニ於テ同條項ヲ適用スルト否トハ裁判所ノ自由裁量ノ範圍ニ屬スルヲ以テ裁判所カ同條項ヲ適用セサルモ法律ニ違背セルモノト謂フヲ得ス　七　一〇〇五

『第七十九條』

○訴訟費用ハ和解契約ノ成立スルト否トニ因リテ其負擔ノ結果ヲ異ニスヘキモノナレハ該契約ノ成否ニ付キ當事者間ニ爭アル以上ハ先ツ之ヲ判定セサルヘカラス　三七　一五一四

（第八十條）

『第八十條』

○裁判所カ訴訟費用ノ如キ性質上分割スルコトヲ得ヘキモノニ付キ單純ニ二人以上ノ當事者ニ其負擔ヲ命シタルトキハ其當事者ハ之ヲ平分シテ各自其一部ヲ負擔スルヲ通例トス　三五　一〇　八五

○地主ト永小作人間ノ關係ノ如キ不可分的ノモノニ在テハ訴訟費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ヲ生スルコト當然ナリ　三六　二二九五

○民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同訴訟人カ訴訟ノ目的タル債務ニ付キ實體法上連帶責任ヲ負フトキハ訴訟費用ニ付テモ亦連帶義務ヲ負ハシムルノ法意ナリトス　四三　四六五

（第八十二條）

『第八十二條』

○本訴ト反訴トハ別箇獨立ノ訴ナルヲ以テ反訴ノ判決ニ對シ不服申立ヲ爲スモ本訴ノ判決カ當然其申立中ニ包含スルモノト云フヲ得ス故ニ如上ノ場合ニ於テ本訴ノ訴訟費用ノミニ付キ爲シタル不服申立ハ民事訴訟法第八十二條ニ違背シ許スヘキモノニ非ス　四四

○本案ノ裁判ニ對スル上告ノ理由ナキトキハ訴訟費用ノ裁判ニ對スル不服ノ申立ハ採用スヘカラサルモノトス　三

（同主旨）上告ノ理由總テ相立タサルトキ訴訟費用不服ノ申立ハ民事訴訟法第八十二條第一項ニ從ヒ採用スヘカラサルモノトス

○訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ヲ要セスシテ費用ノ點ノミニ付キ裁判ヲ爲シタル場合ナルト將タ本案ノ裁判ト共ニ費用ノ裁判ヲ爲シタル場合ナルトヲ問ハス獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルヲ原則トス　六

（同主旨）訴訟費用ノミノ裁判ニ對シ上訴スルコトヲ得サルモノトス

○訴訟費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ヲ爲ササルヲ不當トスル理由ヲ以テスルトキト雖モ此場合ニ限リ不服ノ申立ヲ許スヘキ

二六　二　一〇八

二六　二　一五五九

（刑）

明文ナケレハ亦之ヲ許ササルモノトス

（第八十三條）

〔第八十三條〕

○執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ規定ニ於ケル費用ノ辨濟ヲ負擔スヘキ決定ヲ受ケタルカ如キ場合ノ外ハ常ニ公務上ニ關シ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス　三五　六　一一六

（同主旨）執達吏ノ行爲ニ對シ當事者一方ヨリ異議ノ申立ヲ爲シ其行爲ノ取消ヲ命セラルルコトアルモ執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ如キ場合ノ外ハ利害ノ關係ナキヲ以テ之ニ對シ不服ヲ唱ヘ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

○訴訟費用額確定決定申請ノ費用ハ之ヲ執行費用ト謂フヲ得ス　二五　三　一四

○訴訟費用額確定ノ手續ハ單ニ訴訟費用額ヲ確定スル裁判ヲ爲スニ止マリ訴訟費用ノ辨濟ヲ求ムル權利カ辨濟其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルヤ否ヤヲ裁判スルモノニ非ス從テ訴訟費用ノ負擔ヲ命セラレタル當事者ハ該手續ニ於テ訴訟費用額確定ノ裁判前訴訟費用ヲ完濟シタルコトヲ事由トスル抗辯ヲ主張スルコトヲ得ス　五　一一三七

○訴訟費用額確定ノ申請ハ民事訴訟法第七十二條第二項及ヒ上訴ノ取下ノ場合ヲ除ク外執行シ得ヘキ裁判ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク訴訟　六　七二六

費用ノ辨濟ヲ求ムル權利カ辨濟其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルヤ否ヤハ之ヲ問ハサルモノトス

（第八十五條）

『第八十五條』

○訴訟費用ノ負擔額ハ確定判決ニ掲クル訴訟費用ノ言渡ニ基キ之ヲ確定スヘク其内容ノ如何ヲ審査シテ之ヲ取捨スヘキモノニ非ス　六

第六節　保證

（第八十七條）

『第八十七條』

○第三者カ假處分申請者ノ爲メ保證トシテ現金又ハ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テモ保證債務ヲ負擔シタルモノト爲スヘキ理由ナシ　三五

○訴訟上ノ保證ハ當事者ノ一方ヲシテ其行爲ニ因リ相手方ニ生スルコトアルヘキ損害ヲ償フ爲メニ擔保トシテ立テシムルモノナレハ其保證トシテ金錢又ハ有價證券ノ供託セラレタル場合ニ於テ相手方カ損害ノ賠償ヲ受クヘキトキハ右ノ供託物ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノトス　二

（同主旨）

訴訟上ノ保證ハ當事者ノ一方ヲシテ其訴訟行爲ニ因リ他ノ一方ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ之ヲ立テシムルモノナレハ保證トシテ現金又ハ有價證券ノ供託セラレタル場合ニ　二

於テ他ノ一方カ損害ノ賠償ヲ受クヘキトキハ物的擔保ヲ供託物ヨリ優先シテ之ヲ受クルコトヲ得　二

第七節　訴訟上ノ救助　二五

○訴訟上救助ノ申請中ニ上告期限ヲ經過スルモ之カ期間ノ進行ヲ停止スヘキ規定ナキヲ以テ猶豫ヲ與フヘキ限ニ在ラス　三

○訴訟救助ノ申請ニシテ許容セラレサルトキハ之ト共ニ提出セル無印紙ノ訴訟書類ハ無效ナルカ故ニ民事訴訟用印紙法第十一條ノ注意ヲ爲スヲ要セス其書類ヲ却下スヘキモノトス　一

○訴訟上ノ救助ノ申請ヲ許否スル決定ニ理由ヲ付セサルモ違法ニ非ス　三〇

（同主旨）

訴訟上救助申請等ノ決定ヲ爲スニ付テハ必ス理由ヲ付セサルヘカラストスル一定ノ法條ナキニ依リ原裁判所カ其決定ヲ爲スニ當リ何等理由ヲ說明セサリシトテ之カ爲メ必ズシモ不法トスルヲ得ス　三

○訴訟上ノ救助ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ自然人ノミニ適用スヘキモノニシテ法人ニ適用スヘキモノニ非ス（同一判例三八年一一一頁）　二七

（第九十一條）

『第九十一條』

○訴訟上救助ハ其目的トスル權利ノ伸張ニ見込ナキトキハ之ヲ付與スヘ　四一

キモノニ非ス

○原告カ相當印紙ノ貼用ナキ訴狀ヲ提出シ口頭辯論期日呼出狀ノ送達アリタル後死亡ニ因リ訴訟手續中斷セラレタル場合ニ於テ其受繼ヲ爲シタル者ハ訴狀ニ印紙ヲ貼用スヘキ義務ヲモ承繼スヘキモノナレハ受繼者ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ申請シ其付與ノ決定アリタル以上ハ原告自身訴訟上ノ救助ヲ得タル場合ト同シク右訴狀ハ有效ニシテ提起シタル訴モ亦無效ニ非サルモノトス

二九　一　九

（第九十三條）

『第九十三條』

○訴訟費用救助ノ申請ハ訴訟ノ提起ト同時ニ爲スヘキモノトス

○民事訴訟法第九十三條第二項ノ規定ニ適セサル證明書ハ訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ事實ヲ證明スルニ足ラス

二九　六　五九

五

（第九十四條）

『第九十四條』

○第一審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ト雖モ第二審ニ於テ之ヲ受ケサリシトキハ無資力ノ狀態繼續スルモノト認ムルコトヲ得ス故ニ第二審ニ於テ救助ノ申請ヲ爲スニ當リテハ更ニ無資力ヲ證明セサルヘカラス

三五　五　一七

○下級裁判所ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ同裁判所ノ闕席判決ニ至ル迄ノ訴訟手續ニ不法アリトシテ抗告ヲ爲スニ付テハ更ニ抗告裁判所ニ訴訟上ノ救助ヲ申請スルコトヲ要セス

四一　一六

（第百一條）

『第百一條』

○裁判所カ檢事ノ意見ヲ聽カスシテ訴訟上救助ノ付與ニ關スル申請ニ付キ決定ヲ爲スハ不當ナリト雖モ之ヲ以テ其決定ヲ取消スノ理由ト爲スニ足ラス

四二　九五

第三章　訴訟手續

○責問權喪失ノ規定ハ民事訴訟法上其明文ナキモ之ヲ認メサルモノニ非ス

三六　九七

第一節　口頭辯論及ヒ準備書面

○形式上ノ異議申立又ハ抗告申立ノ如キハ片面的ノモノニシテ常ニ其申立書ニ相手方ヲ定メテ揭クルコトヲ要セス

七　四八

○辯論數日ニ渉リ前回ノ辯論ニ臨席シタル判事ニ交迭アリテ最終ノ辯論ニ新ナル判事加ハリタルトキ事實上法律上ノ陳述及ヒ證據調ノ顚末等總テノ訴訟材料ヲ更ニ提出シ自己ニ於テ必要ト思料スル限リ辯論ヲ繰返シ自己ノ主張ニ利益ナル心證ヲ判事ニ得セシムルコトニ注意スルカ

三五　一二六

如キハ各當事者ノ應ニ執ルヘキ務ニシテ判事ハ此場合ニ於テモ亦不干涉主義ノ原則ニ依リ當事者ノ爲シタル辯論中不明瞭ナル部分ヲ釋明セシムル迄ニ止マリ辯論シタル事項ニ對シ判斷ヲ與フルヲ以テ足レリトス

○訴訟當事者カ自己ノ爲メ利益ニシテ相手方ニ不利益ナル事實ヲ供述シタル場合ニハ相手方ニ於テ之カ取消ヲ拒ムヘキ理由ナケレハ裁判所モ亦其取消ヲ許容セサルヘカラス

（第百三條）

『第百三條』

○控訴ノ判決カ上告ニ因リ破毀セラレ控訴審ニ差戻又ハ移送セラレタル場合ニ於テ當事者カ前控訴審ニ提出シタル請求ノ擴張減縮又ハ攻擊防禦ノ方法等ニ關スル總テノ書類ハ唯書面又ハ準備書面トシテ記錄中ニ存在スル迄ニ付キ差戻又ハ移送ニ依リ繫屬シタル控訴審ニ於テ右等ノ書類ニ基キ更ニ口頭ヲ以テ各當事者ヨリ之カ旨趣ヲ演述スルニ非サレハ其效果ヲ發生スルコトナシ

○原告ハ自己ニ不利益ナル事實上ノ陳述ヲ訴狀ニ掲ケタルモ口頭辯論ニ於テ之ヲ更正シタル以上ハ之カ爲メ訴ノ原因ニ變更ヲ來ササルトキハ勿論縱令變更ヲ來スモ相手方ニ於テ異議ナキトキハ裁判所ハ訴狀ニ掲

三六　九四

三八　七九

三六　一三八二

ケタル原告ノ陳述ヲ援テ原告ニ不利益ナル判斷ヲ爲スヲ得サルモノトス

（第百五條）

『第百五條』

○準備書面及ヒ判決ニ原告「何某外幾名」ト記載シタル場合ニ於テ其幾名ノ何人ナルヤハ訴狀添附ノ委任狀ニ總體ノ原告氏名住所等存スルヲ以テ訴狀ニ之カ表示ヲ掲ケタルモノト看做スコトヲ得ヘキカ故ニ民事訴訟法第百五條第一號第百九十條第一項第一號及ヒ第二百三十六條第一號ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○訴訟代理人カ未タ法廷ニ於テ陳述シタルニ非スシテ唯其準備書面ニ記載シタル事實ノ如キハ本人ハ勿論代理人モ亦自由ニ之ヲ取消シ若クハ更正スルコトヲ得ルモトス

○民事訴訟法第百五條第六號ニ所謂捺印ニハ必スシモ實印ヲ用ユルノ規定ナキニ依リ署名者ノ印章ナル上ハ其如何ナルモノヲ使用スルモ訴狀ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○民事訴訟法第百五條第六號ニ謂フ署名トハ記名ノ謂ニシテ自署ノ謂ニ非ス

（第百六條）

『第百六條』

四　一〇九八

二八　一　六〇

三五　九　一二三

二九　二　一〇

三六　九五八

○訴ヲ以テ契約ノ解除ヲ求ムヘキモノニ非サルモ他ノ請求ト同時ニ訴狀ニ解除ノ意思ヲ併記スルハ妨ナキモノトス　三四　四　七三

（第百十條）

『第百十條』

○口頭辯論ノ期日當事者ノ一方闕席シ他ノ一方カ出廷シタルトキ調書中其出廷シタル者カ何等ノ申立ヲ爲シタル事蹟ナキトキハ口頭辯論ハ開始セラレサルモノト見ルノ外ナシ故ニ其開始ナキニ拘ハラス職權調査ノ結果ニ依リ直ニ言渡シタル判決ハ違法ナリ　三一　三　一五八

（第百十一條）

『第百十一條』

○明カニ爭ハサル所ノ事實　自白シタルモノト看做スコトハ法律ノ命スル所ナルヲ以テ明カニ爭フタルヲ事實ヲ表示セサル限ハ上告ノ理由ト爲ラス　二六　二　七九

○對手者ノ陳述ニ反對若クハ相異ノ點アルニモ拘ハラス抗辯セサルトキハ民事訴訟法第百十一條第二項ニ依リ其事實ヲ爭ハサルモノト看做スヘキモノトス　二九　三　一三三

（同主旨）

相手方ノ主張ニ對シ辯駁セサルトキハ之ニ異議ナキモノト看做サルルハ訴訟手續上當然ノ結果ナリトス　二八　三　一二〇

○相手方カ起訴者ノ主張事實ヲ爭ハサル場合ニ於テ起訴者ニ對シ立證ヲ要メタル判決ハ違法ナリ　三八　一六七八

○自白ノ取消スヘカラサルハ當事者ノ爲シタル明示ノ自白ニ限ルモノニシテ民事訴訟法第百十一條ニ依ル自白ハ取消スヘカラサルモノニ非ス　四五　一七六

○不知ノ答述ヲ採用シ且判決ノ要點ニ理由ヲ付セサル裁判ハ破毀ノ原由アルモノトス　二五　一　三九

○係爭立木ノ一部ノ伐採カ當事者自身ノ行爲又ハ自己ノ實驗シタルモノニ係ルトキハ該立木中何レノ部分ヲ伐採シタルヤハ其當事者ノ當然知ルヘキ事實ニシテ民事訴訟法第百十一條第三項ニ依リ不知ノ陳述ヲ許ササルモノトス　三九　一九九

（第百十二條）

『第百十二條』

○裁判所ハ其係爭事實ノ範圍内ニ於テ何レノ主張スル事實カ正當ナルヤヲ判斷スヘキモノニシテ敢テ其範圍外ノ事項ニ干渉シ職權上調査スヘキモノニ非ス　三五　六　三四

○約束手形ニ支拂地ノ記載アルヤ否ヤハ當事者間ノ爭點ト爲ラサル場合ニ於テハ裁判所ノ職權ヲ以テ之カ調査ヲ爲スノ要ナシ　三六　一二五一

○約束手形ニ振出地ノ記載ヲ欠クヤ否ヤハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘ

○キ事項ニ非サレハ當事者間ニ爭ノ存セサル以上ハ裁判所ハ自ラ進テ之ヲ調査シ其手形ノ效力ノ有無ヲ判斷スヘキモノニ非ス

○一定ノ申立ト訴ノ原因ト相副ハサル場合ハ所謂不明瞭ナル申立ナルヲ以テ裁判所ハ當事者ヲシテ之ヲ釋明セシムルノ任務アリトス

○第一審廷ニ共有山林分割ノ履行訴訟ヲ提起シ控訴審ニ至リ一定ノ申立ヲ變更シ「總テノ山林ヲ分割シ其三分ノ二ヲ控訴人ニ取得セシムヘシ」トノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ先ツ其不明瞭ナル申立ヲ釋明セシメ若シ其申立ニシテ確認訴訟ニ改ムルノ旨趣ナリトセハ確認訴訟トシテ之ヲ許シ得ヘキ事件ナルヤ否ヤヲ調査シ以テ相當ノ判決ヲ與フヘキモノトス

○裁判所ハ當事者ノ申立ニ不明瞭ノ點アルトキハ之ヲ釋明セシメ又其主張事實ニ不十分ノ廉アルトキハ之ヲ補充セシメサルヘカラス從テ其不明瞭又ハ不十分ナルコトヲ理由ト爲シ直ニ敗訴ヲ言渡スカ如キハ不法ナリ

○（同左）

一定ノ申立ニ對スル辯明ニ因リ訴旨ノ如何ヲ確メ得ヘキ場合ニ於テ裁判所カ其辯明ヲ採ラス單ニ申立ノ文字ニ拘泥シ訴旨ヲ判斷シタルハ不法ナリ

○一定ノ申立カ不明瞭ナルトキハ訴判所ハ民事訴訟法第百十二條第二項ノ規定ニ從ヒ其不明瞭ナル點ヲ釋明セシメタル上判決ヲ爲スヲ相當ノ手續ナリトス

○民事訴訟法第百十二條第二項及ヒ第百十七條ハ主トシテ裁判所ノ職權ヲ定メタルモノナレトモ訴訟事件ノ關係ニ依リ未タ裁判ヲ爲スニ熟セサルトキハ裁判所ハ此等ノ規定ニ從ヒテ檢證鑑定等ヲ命スルノ權ヲ有スルト同時ニ亦其義務ヲ負フモノトス

○裁判所カ當事者ノ主張シタル事實ノ不明瞭ナルトキニ於テ之ヲ釋明セシムルハ其權利タルト同時ニ亦義務ナルヲ以テ判決ニ影響スヘキ事實主張ノ不明瞭ナル場合ニ之カ釋明ヲ爲サシメサルハ違法ナリトス

（反對）

○民事訴訟法第百十二條ハ總テ裁判長ニ注意ヲ訓示シタル法條ナレハ之ニ準據セサルコトアルモ判決ノ瑕疵ト爲ラス

（第百十四條）

『第百十四條』

○本人訊問ノ決定ヲ爲サスシテ呼出狀ヲ送達シタルハ其當ヲ得サルモ其期日ニ出頭シ何等ノ異議ヲ述ヘスシテ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ毫モ當事者ノ防禦權利ヲ害スル所ナキヲ以テ之カ爲メ其判決ヲ破毀スル

（第百十七條）

『第百十七條』

○職權ヲ以テ命シタル鑑定人カ宣誓ヲ爲ス際必スシモ當事者ノ立會ヲ要セス又鑑定人ハ常ニ鑑定書ノ說明ヲ爲ササルヘカラサル義務ナシ

○裁判所ハ民事訴訟法第百十七條ニ依リ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スル場合ニ於テ其申立以外ノ事項ニ付キ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得

○裁判所ハ鑑定及ヒ檢證ヲ命スルノ職權ヲ有ス從テ當事者ノ一方ノ申立ニ因ル鑑定若クハ檢證中他方ノ援用セサルモノト雖モ其者ノ爲メニ之ヲ採用スルコトヲ得

（同主旨）

裁判所ハ檢證及ヒ鑑定ヲ命スルノ職權アルヲ以テ縱令當事者ニ於テ援用セサル檢證調書又ハ鑑定書ヲ心證ニ供スルモ違法ニ非ス

○鑑定ハ裁判所カ必要ト認ムル場合ニ之ヲ命スルモノトス從テ鑑定ヲ必要トセサルトキハ縱令當事者ノ申請アルモ之ヲ排斥スルコトヲ得

（同主旨）

裁判所ニ於テ鑑定ヲ必要トセサルトキハ縱令當事者ノ申立アルモ之ヲ排斥スルコトヲ得ヘシ

○鑑定及ヒ檢證ハ他ノ證據ト異ナリ裁判所ノ職權ヲ以テ命スルコトヲ得

二八　三　六三
三五　四　四九
三九　六八七
三三　四　七九
三九　七二九
三六　一六六

ヘキモノナレハ縱令當事者ノ申出アルモ自由ニ之ヲ却下スルコトヲ得而シテ其申立ヲ却下シタル理由ノ如キハ之ヲ判決ニ說示スルノ要ナシ

○裁判所ハ訴訟物ノ價格ヲ算定スルニ付キ必要アル場合ニハ民事訴訟法第百十七條ニ依リ職權上鑑定ヲ命スルコトヲ得ヘシト雖モ當事者ニ於テ立證ヲ爲スノ責任ヲ有スル場合ニ於テハ必スシモ進テ職權上鑑定ヲ爲サシメサルヘカラサル職責ヲ有スルモノニ非ス

○訴訟記錄中ニ存スル既成ノ鑑定ノ結果ハ縱令當事者ノ援用セサル場合ト雖モ之ヲ參酌シテ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルモノトス

（第百十八條）

『第百十八條』

○訴訟ノ併合審理ヲ命シタル後其決定通リ履行セサルトキハ更ニ分離シテ審理スヘキコトヲ命スルハ當然ナルモ此手續ヲ爲サス分離ノ上審理判決シタリトテ訴訟手續ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○適法ナル訴ニ附帶シ不適法ナル請求ヲ併セ之ヲ提起シタル場合ニ於テ裁判所ハ之ヲ分離シテ其不適法ナル請求ノ一部ノ訴ヲ却下シ他ノ適法ナル請求ノ本案ニ對シ審判ヲ爲スハ妨ナキモノトス

（第百十九條）

『第百十九條』

○民事訴訟法ニ所謂數箇ノ獨立ナル攻擊又ハ防禦ノ方法トハ孰レモ相互

四二　四五八
七　二七二
七　八〇
三〇　五　九六
三四　二　四四

○ニ相對的無關係ナル法律上ノ判斷ヲ爲サシムルモノヲ云フ故ニ辯論中ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス民事訴訟法第百十九條ノ規定ニ從ヒ何時ニテモ之ヲ制限シ得ヘク又辯論ノ終結後ハ同法第二百三十條第二項ノ規定ニ依リ其間適切ナリト思料スル一箇ニ對シテノミ判斷ヲ與フルコトヲ得ヘシ　三一　二　三七

○相續財産ノ取戻ヲ請求スル訴訟ニ於テ相手方ノ抗辯ニ對シ其賣買ハ僞造證書ニ出テタルカ若クハ虚僞ノ意思表示ニ出テタルモノナリトノ起訴者ノ主張ハ民事訴訟法ニ所謂數箇ノ獨立ナル攻擊方法ニシテ請求ノ原因ニ非ス故ニ其方法二者相容レサルニ拘ハラス同時ニ提出スルヲ妨ケス　三五　二　二三

（第百十八條）

○同一ノ請求ヲ維持スルカ爲メニ數箇ノ獨立ナル攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ヘキハ民事訴訟法第百十九條ノ認ムル所ナレハ數箇ノ訴ノ原因ヲ主張スルコトヲ妨ケス　四四　九二〇

（第百二十條）

『第百二十條』

○民事訴訟法第四十八條ハ當事者ニ訴訟ノ併合ヲ許シ同法第百二十條ハ裁判所ニ訴訟ノ併合ヲ許シタル規定ニ係レリ此規定ニ基キ訴訟ヲ併合シタル結果ハ兩者同一ノ效力ニ歸ス便チ第一審裁判所カ右第百二十條ノ規定ニ依リ併合ヲ命シ審理ノ末一通ノ判決文ヲ以テ裁判ヲ言渡シタルハ固ヨリ相當ナリ其敗訴者カ之ニ對シ一通ノ控訴狀ヲ以テ控訴ヲ提起シタルモ亦適法ナリ然ルニ原院カ之ヲ同法第四百十九條ノ形式ニ從ハサル不適法ノ控訴トシテ排斥シタルハ法律ニ違背シタル失當ノ裁判ナリ　二七　五九九

○訴ノ併合ハ原告カ同一ノ被告ニ對スル數箇ノ請求アル場合ニ限ラス又別異ノ人ニ對スル數箇ノ訴訟ト雖モ其請求カ元來一箇ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキモノナルトキハ之ヲ爲スコトヲ得　二九　六　七二

（第百二十一條）

『第百二十一條』

○當事者間ノ係爭目的物件ニ對シ其所有權ヲ主張シ之カ名義切換ヲ請求スル主參加申立アルトキハ本訴訟ノ辯論ハ民事訴訟法第五十二條第一項ニ依ルモ又ハ同法第百二十一條ノ規定ニ依ルモ主參加訴訟ノ完結ニ至ルマテ之ヲ中止スルヲ相當トス　二八　一　七一

○養嗣子カ相續人ノ資格ヲ以テ財産上ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ他ニ其相續權ノ有無ニ付キ訴訟カ繫屬シアルトキハ裁判所ハ民事訴訟法第百二十一條ニ依リ右相續權ノ有無ニ關スル訴訟ノ完結ニ至ルマテ財産上ノ訴ノ辯論ヲ中止スルヲ得ヘキモノトス　二九　一〇　一

刑

○特許權侵害ニ關スル民刑訴訟ノ進行中特許無效ノ訴カ特許局ニ提起セラレタルトキハ通常裁判所ハ其訴訟ヲ中止シ特許局審判ノ結了ヲ待テ裁判ヲ爲ササルヘカラス　三七　一六七九

○債權ノ讓受人カ債務者ニ對シ辨濟請求ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ他ニ其債務者ヨリ讓渡人ニ對シテ債權不成立確認ノ訴訟ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ其確認訴訟ノ完結ニ至ルマテ辨濟請求ノ訴訟ノ辯論ヲ中止スヘキモノトス　三八　一八一七

○民事訴訟法第百二十一條ノ規定ニ依リ辯論ヲ中止スルコトハ裁判所ノ職權ニ屬スルモ當事者ヨリ之ヲ申立テ其職權ノ行使ヲ促スコトヲ得ルヤ言ヲ俟タス　二　一〇五

○民事訴訟法第百八十九條ニ所謂此法律ノ規定ニ基ク訴訟手續ノ中止トハ同法第百二十一條ノ規定ニ基ク辯論中止ノ場合ヲモ包含スルモノナレハ當事者カ辯論ノ中止ヲ申立テタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ拒ミタルトキハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　二　一〇五

○民事訴訟法第百二十一條ハ訓示的規定ニシテ訴訟ノ裁判ニ對シ他ノ訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立カ先決的影響ヲ及ホスヘキトキト雖モ辯論ヲ中止スルト否トハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムルコトヲ得ルモノトス　二　九〇五

○民事訴訟法第百二十一條ニ依リ辯論ノ中止ヲ爲スニハ他ノ訴訟ト本訴訟ト當事者ノ同一ナルコト又ハ他ノ訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立若クハ不成立ノ裁判カ必スシモ本訴訟ノ當事者ニ對シテ羈束力ヲ及ホス場合ナルコトヲ要セス唯他ノ訴訟ノ裁判カ本訴訟ノ裁判ニ對シ先決的影響ヲ及ホス關係ニ在ルヲ以テ足ルモノトス　四　一〇六九

（同主旨）

民事訴訟法第百二十一條ノ規定ハ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立カ本訴訟ノ裁判ニ對シ先決的性質ヲ有スル場合ニハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ本訴訟ノ辯論ヲ中止スヘキ法意ニシテ苟モ他ノ訴訟カ本訴訟ニ對シ先決的法律關係ヲ有スル以上ハ二箇ノ訴訟ノ當事者カ彼此同一ナルト否トハ毫モ中止ノ必要ヲ輕重スルモノニ非ス

裁判所カ民事訴訟法第百二十一條ニ依リ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ本訴訟ノ辯論ヲ中止スヘキ場合ハ他ノ訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立ノ裁判カ必スシモ本訴訟ノ當事者ニ對シテ羈束力アルコトヲ要セス唯本訴訟ノ裁判ニ對シ先決的影響ヲ及ホスヲ以テ足レリトス　三七　七二二

○遺贈ニ基ク家屋ノ所有權取得ヲ理由トシテ之カ明渡ヲ請求シタル場合ニ於テ相手方ハ家督相續ニ因ル所有權取得ヲ主張シ且所有權取得登記抹消ヲ反訴トシテ請求シタルトキハ相手方カ家督相續人タルト否トハ　三九　一〇六三

○本訴請求ニ影響ナシトスルモ反訴請求ニ對シ必至ノ關係ヲ有シ相手方ニ對スル家督相續人廢除ノ訴ノ判決ト牴觸ヲ來スコト絶無ニ非サレハ

○民事訴訟法第百二十一條ニ依リ他事件ノ完結ニ至ル迄辯論ヲ中止スルヲ相當トス

（第百二十二條）

『第百二十二條』

○民事訴訟中刑事訴訟起リタルトキハ刑事判決ノ確定ニ至ルマテ民事訴訟ヲ中止スヘシ

○當選訴訟ノ被告カ衆議院議員選擧法違犯ノ罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケ控訴中ノ者ナルトキハ後日其刑ノ宣告確定セハ被告ノ當選ハ無效ト爲リ本案訴訟ハ自ラ解決セラルヘキヲ以テ民事訴訟法第百二十二條ニ罰スヘキ行爲カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホストキトアル場合ニ該當ス

○民事訴訟法第百二十三條ノ場合ニ於テハ罰スヘキ行爲カ果シテ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤヲ顧ミテ辯論中止ノ當否ヲ判斷スヘク其訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヤハ之ヲ斟酌スルノ要ナシ

○當事者ノ一方カ訴訟中相手方ニ犯罪行爲アリト思料シテ告訴ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判所ニ於テ罰スヘキ行爲ノ嫌疑アリト認メサルトキハ訴訟手續ヲ中止スルノ要ナシ

（第百二十三條）

○民事訴訟法第百二十二條ハ任意的規定ナレハ訴訟中罰スヘキ行爲ノ嫌疑ヲ生シ其行爲カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホス場合ト雖モ同條ニ依リ辯論ヲ中止スルト否トハ裁判所ノ意見ヲ以テ決スルコトヲ得

○民事訴訟法第百二十二條ニ依リ辯論中止ノ決定ヲ爲スニハ口頭辯論ニ於テ提出セラレタル事實ニ基キ民事訴訟中罰スヘキ行爲ノ嫌疑ヲ生シタルヤ否ヲ判斷スヘキモノニシテ口頭辯論ニ基カスシテ斯ル決定ヲ爲スヘキモノニ非ス

『第百二十四條』

○口頭辯論ノ再開ヲ命シ新期日ヲ指定シテ當事者ニ呼出狀ヲ送達シタル以上ハ縱令再開ヲ命シタル理由消滅シテ再開ノ必要ナキニ至ルト雖モ仍ホ當事者ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ判決ヲ爲スヲ得ス

○口頭辯論終結後ニ於ケル辯論ノ再開ハ裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ縱令當事者ヨリ提出シタル辯論再開ノ申請ヲ却下スルモ之ニ對シ抗告スルヲ得サルモノトス

○訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルヤ否ノ鑑定ハ其裁判所ノ見込ニ任スヘキモノナルニ付キ一旦閉チタル辯論ヲ再開スルカ如キハ全ク裁判官ノ職權

ニシテ訴訟當事者ノ權利ニ屬セス　三五　四四

○閉チタル辯論ヲ再開スルト否トハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬スルモノナレハ裁判所ハ當事者ノ再開申請ニ付キ必スシモ許否ノ裁判ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス　七　五九

（同主旨）

辯論ヲ再開スルト否トハ當事者ノ申請ヲ俟テ決スヘキモノニ非ス一ニ受訴裁判所ノ職權ヲ以テ自由ニ之ヲ決シ得ルモノトス而シテ其職權ニ屬スル事項ニ關シテハ裁判所ハ當事者ノ申請ニ付キ必スシモ許否ノ裁判ヲ爲スヲ要セス　三六　一三五七

○閉チタル辯論ヲ再開スルト否トハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス從テ裁判所ハ當事者カ爲シタル再開廷ノ申請ニ付キ一一許否ノ決定ヲ爲スノ責ナシ　三八　二七二

（第百二十九條）

『第百二十九條』

○裁判所書記カ數回ノ口頭辯論調書ヲ一貫シ裁判言渡ノ日ニ於テ作成シ毎回作成セサルモ調書ハ無效ト爲ラス　三〇　四　五六

○裁判所書記カ各期日ニ辯論調書ヲ作成セサルモ其判決ニ影響ヲ及ホサル限ハ上告ノ理由ト爲ラス　六

○法廷調書ハ各箇ノ辯論ニ付キ當事者ノ陳述アルニ從ヒ其時時書記之ヲ作成シ裁判長檢閲ノ上署名捺印スヘキモノニシテ草稿ニ依リ事後ニ作成スルコトヲ得ス　三一　三　七九

○法廷調書カ其作成ニ關スル規定ニ違背セル不法アルモ之カ爲メ特ニ不利益ヲ受ケタリトノ擧證ナキ以上ハ原裁判破毀ノ理由ト爲ルヘキモノニ非ス　三二　三　七九

○口頭辯論調書ニハ合議裁判所ノ評議ノ顚末ヲ記載スヘキモノニ非サルカ故ニ特ニ合議ヲ爲シタル旨ノ記載ナキモ之ヲ以テ裁判長カ單獨ニテ裁判ヲ爲シタルモノト論斷スルヲ得ス　三二　四　五三

○基本タル口頭辯論ト裁判ノ言渡トノ日時ヲ異ニスルトキハ其調書ハ各別ニ之ヲ作成スヘシトノ規定ナキヲ以テ右ノ二事項ニ關スル記事ニ付キ一ノ調書ヲ作成スルモ敢テ不法ニ非ス而シテ斯ル場合ニ於テハ其最尾ニ裁判長竝ニ書記ノ署名捺印アレハ足ルモノニシテ必スシモ各記事ノ終尾毎ニ其署名捺印ヲ要セス　三六　二〇四

○民事訴訟法第百二十九條ニ列記セル事項ハ唯口頭辯論調書ニ掲クヘキコトヲ注意シタルニ止マルヲ以テ縱令之カ記載ノ遺漏セルモノアルモ辯論ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ　三六　一三二九

（同主旨）

民事訴訟法第百二十九條ニ列記セル事項ハ之ヲ口頭辯論調書ニ掲クヘキコトヲ注意シタルニ

止マリ若シ其事項中掲記セラレサルモノアルモ之カ爲メ辯論ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス從テ其口頭辯論ヲ無效ナリト云フヲ得ス

○口頭辯論調書作成ノ日附ハ記載要件ニ非サルヲ以テ其有無若クハ誤脫ノ如キハ調書ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ　三六　七四二

○民事訴訟法第百二十九條第二項第一號ノ規定ニ於ケル事項ノ如キハ之ヲ欠缺スルモ其調書ヲ當然無效ト爲スヘキモノニ非ス　三七　一二九

○口頭辯論調書ニ書記ノ出廷シタルコトノ明記ナキモ其調書ヲ作成シタル書記ノ署名捺印アル以上ハ當然出廷シタルモノト認ムルヲ得ヘシ　三六　一〇〇九

○口頭辯論調書ニ列席書記ノ氏名掲記シアラサルトキハ書記ノ列席ナクシテ口頭辯論ヲ開キ以テ訴訟ノ審理ヲ爲シタルモノト看做ササルヲ得ス　三二　一九

○口頭辯論調書ニ列席裁判所書記ノ氏名ノ掲記ナキモ該口頭辯論カ證據調ノ爲メニ開カレ訊問スヘキ證人出廷セサリシ爲メ期日ヲ他日ニ指定シタルニ止マルトキハ其後ノ手續殊ニ判決ノ基本タル口頭辯論ニシテ適式ニ履踐セラレタル以上ハ原判決ヲ破毀スルニ足ラサルモノトス　三五　九

○當事者ノ氏名ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス且其記載ヲ遺脫スルモ判決ノ當否ニ付キ影響ナキヲ以テ上告ノ理由ト爲ラス　三五　四　二〇〇五　三七

（第百三十）

○訴訟代理人ノ氏名ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ縱令之ヲ記載セサルモ其調書ハ全然無效ナリト云フヲ得ス　三八　二三九

○民事訴訟法第百二十九條第二項第四號ノ規定ハ當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テ數人ノ氏名ヲ悉ク調書ニ記載スルコトヲ要スル旨趣ニ非サレハ一人ノ氏名ヲ掲ケ外幾名ト畧記スルモ妨ナキモノトス　五　四八一

○裁判言渡ハ裁判所構成法第百五條ノ規定ニ基キ常ニ公行スルモノナレハ其判決言渡ノ調書ニ公開シタル旨ノ記載ナキノ故ヲ以テ其判決言渡ハ公行セサルモノト攻擊スルハ謂レナキモノトス　二四　五　七〇

（同三月）

○判決言渡ハ常ニ公行スヘキモノナルカ故ニ辯論調書ニ其公行ノコト記載ナキモ違法ニ非ス

○受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ其訊問調書ニ證人トシテ出頭シタル者ノ氏名受訴裁判所ノ事件番號等ヲ掲クルヲ以テ足リ訴訟物及ヒ當事者ノ氏名出頭シタル當事者等ノ氏名若クハ其闕席シタル旨ヲ掲クルコトヲ要セス殊ニ口頭辯論調書ニ非サルヲ以テ公ニ辯論ヲ爲シ又ハ公開ヲ禁シタルコトヲ掲クヘキモノニ非ス　三〇　六　五

○裁判ノ對審ヲ公開シ又ハ公開ヲ禁シタルコトハ特ニ之ヲ口頭辯論調書ニ記載スヘキモノニシテ此辯論公行ノ有無ノ事實ハ調書ヲ以テノミ之　四一　一四一

ヲ證スルコトヲ得ルモノトス　三七一

○民事訴訟法第百二十九條第二項第五號ハ判決ニ接著スル口頭辯論迄ノ調書ニ記載スヘキモノタルニ止マリ判決言渡若クハ言渡期日變更ノ場合ハ該規定中ニ包含セサルモノトス　二一五

（同主旨）

民事訴訟法第百二十九條第五號ハ判決ニ接著スル口頭辯論迄ヲ調書ニ記載スヘキ規定ニシテ判決言渡ノ場合ハ該規定中ニ包含セス　二一〇

○口頭辯論調書ノ一部ニ不動文字ヲ以テ印刷シタル當該部分ヲ抹消スルコトヲ遺忘シタル瑕疵アルモ之ヲ以テ他ノ全部ノ記載ヲ虛僞ナリト妄斷スルヲ許ササルモノトス　一一〇八〇

（第百三十條）

『第百三十條』

○口頭辯論調書ノ記載ニ脫漏アリトスルモ當事者ハ其補正ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス　一四六四

○當事者ノ辯論カ民事訴訟法第百三十條ニ規定セル調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非サルトキハ其辯論カ調書ニ記載ナケレハトテ之ニ據テ判決ヲ下スモ當事者ノ申立テサルモノト爲スヲ得ス　二三七

○當事者カ辯論中下級裁判所ニ於ケル口頭辯論調書ノ記事ヲ援用スル旨ノ申立ノ如キハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス　三六

○證言ヲ援用ハ辯論調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ其記載ナキコトヲ論據トシテ直ニ當事者カ之ヲ援用セサリシモノト云フヲ得ス　三七

（同主旨）

（事實上ノ申述即チ其申立ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ屬セサルヲ以テ其記載ナキ爲メ之カ申立ナカリシモノト云フヲ得ス　三一

判決ノ事實摘示ニハ裁判所ニ於テ其判決ニ影響アリト認メタルト否トニ拘ハラス必要ト不必要トヲ區別セス當事者カ口頭辯論ニ基キ演述シタル一定ノ申立一定ノ原因證據申出證據ノ結果等ヲ盡ク載スヘキモノニシテ之ニ反シ法廷調書ニハ一一之ヲ記載スヘキモノニ非ス故ニ調書ニ記載ナキコトヲ論據トシテ其申述ナカリシモノト云スヲ得ス又隨テ事實摘示ニ記載アル事項ヲ以テ直ニ其記載ノミニ因リ心證判斷ノ標準ト爲リタルモノト云フヲ得ス　三二

證據ヲ援用シタルヤ否ヤノ如キハ辯論調書ニ載セテ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ其記載ナキヲ以テ當事者カ援用セサリシモノト云フヲ得ス　五

證言ノ援用ハ民事訴訟法第百三十條ニ謂フ口頭辯論調書ニ記載シテ明確ナラシムヘキ事項ニ非サレハ同調書ニ其明記ナキノ一事ヲ以テ直ニ其事實ナカリシモノト云フヘカラス　三四　一　六一

○當事者ノ一方カ係爭地上ニ貸家ヲ新築シタリトノ事ハ縱令法廷調書ニ記載ナキモ之ヲ以テ法廷ニ提出セラレサルモノト云フヲ得ス　三六　二　六八二

○裁判所ノ合議ハ法廷調書ニ明記スヘキ事項ニ非サレハ單ニ其明記ナキ　三八　二　五二

○一事ヲ以テ直ニ合議ヲ爲サザリシモノト云フヲ得ス　三八

（同主旨）

○口頭辯論調書中證據調ノ決定ニ付キ裁判所カ合議ヲ以テ之ヲ爲シタル旨ノ記載ナキモ合議裁判所ノ決定ハ固ヨリ合議ヲ以テ爲スヘキモノナレハ反對ノ事跡ノ存セサル上ハ合議ニ因リテ爲シタルモノト認ムヘキモノナリ　三一　一〇　一六

合議裁判所ヲ組織スル判事カ裁判前豫メ評決ヲ爲シタル事實ハ必スシモ調書ニ之ヲ明確ニ記載スルコトヲ要セス故ニ縱令其旨調書ニ記載ナキモ反對ノ事跡記錄中ニ存セサル以上ハ裁判前其評決ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス　三八　一三四五

○書證ニ對シ當事者ヲシテ認否ノ申立ヲ爲サシメ若クハ之カ辯明ヲ爲サシメタル事實ノ如キハ法廷調書ニ依リ明確ニスヘキ事項ニ非サレハ縱令調書ニ其記載ナキモ之ヲ以テ直ニ裁判所カ正當ナル手續ヲ履踐セサリシモノト推斷スルコトヲ得ス　三九　八二八

（同主旨）

證書ノ調査及ヒ認否ハ口頭辯論調書ニ記載シテ明確ニ爲スヘキ事項ニ非ス　二九　九

證據ノ認否ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス　三二　九

○調書ニ明確ニスルヲ要セサル事項ニシテ判決ニ事實トシテ摘示セラレタルモノハ縱令調書ニ其記載ナキモ明カニ之ニ抵觸スル證據ナキ限ハ事實承審官カ辯論ニ於テ之ヲ聽取シタルモノト看做スヘキモノナレハ　九四

採テ以テ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルモノトス　七

○當事者カ第二審ニ於テ第一審ニ於ケル相手方ノ自白ヲ證據トシテ引用スル申立ノ如キハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ非ス　一六九

○立證ノ旨趣ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ屬セス　三九　一一二

（聯）

○訴訟受繼ノ事實ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ニ屬セサレハ其調書ニ記載ナキ一事ヲ以テ訴訟手續ニ違背シタル不法アリト謂フヲ得ス　四一　一一七八

○民事訴訟法第百三十條中ニ所謂要領ノ中ニハ一定ノ申立ヲ包含スト雖モ其申立ヲ書面ニ基キ爲シタル事ノ記載ヲ命スルモノニ非ス　四三　一二三

○一定ノ申立ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキモノトス　二八　三　二六

（反對）

○一定ノ申立ハ辯論調書ニ記載シテ明確ナラシムルノ規定ナシ故ニ書面ノ提出アル上ハ口頭ニテモ尙ホ之ヲ申立テタルモノト爲サザルヲ得ス　三五　五　二七

○法廷調書中特ニ當事者カ一定ノ申立ヲ爲シタルコトノ記載ナキモ其末尾ニ當事者雙方カ事件全體ニ關スル辯論ヲ爲シタル旨ノ記載アリ且其○一定ノ申立ヲ掲ケタル訴狀及ヒ答辯書之ニ添附シアル以上ハ當事者ハ孰レモ該書面ニ基キ一定ノ申立ヲ爲シタルモノト認ムルヲ當然トス　二八　四　一〇三

○自白認諾拋棄及ヒ和解其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件ヲ明確ニ　四一　八九五

○セサルトキハ判文中ニ其事ノ記載アルモ之ヲ以テ適法ニ陳述アリシモノト看做スコトヲ得ス　三四　四七三

○强制執行上有價證券ノ換價價格ハ債權者ノ任意ニ定メ得ベキモノニ非ス執達吏ニ於テ規則ニ依リ處分スヘキモノナルカ故ニ縱令債權者カ其換價價格ニ付キ執達吏ニ對シテ自己ニ不利益ナル申込ヲ爲スモ民事訴訟法ニ所謂自白ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス　三八　一二七一

○民事訴訟法第百三十條ニ依リ辯論調書ニ明確ニスヘキ自白ハ當事者ノ爲シタル明示ノ自白ニ限ルモノニシテ法律ノ推定シタル自白ヲ包含セサルモノトス　四五　一七六

（同三三）

○暗默ノ自白即チ明カニ爭ハス若クハ爭フノ意思顯ハレサルノ故ヲ以テ裁判所カ自白ト推定スル事實ノ如キハ之ヲ法廷調書ニ記載スヘキ限ニ在ラス　三七　二一三

（總）

○自白ハ調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項ナルカ故ニ調書ノ記載ト判決ノ摘示ト相容レサルトキハ調書ノ記載ニ依據セサルヘカラサルモノトス　二　七七九

○民事訴訟法第百三十條第二項第一號ニ所謂自白ヲ調書ニ記載シテ明確ニスヘキコトハ同第百三十四條ニ所謂口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ニ該當セス故ニ裁判所ハ調書ニ記載ナキトキト雖モ他ノ證據ニ依リ自白ノ有無ヲ認定スルコトヲ得ルモノトス　七　一八七五

（總一百三十）

○第二回ノ口頭辯論ニ際シ判事ニ變更アリ其變更後當事者カ更ニ第一回調書ニ記載アル如キ申立ヲ爲シタル事蹟存セサルトキハ第一回辯論ノ際爲シタル申立ハ裁判所ニ於テ認メラルヘキ道理ナシ　三一　三　一九

○適法ニ調製セラレタル訟廷調書中縱令當事者ノ一方カ一旦爲シタル申立及ヒ陳述等ヲ取消ス旨記載アルモ之カ爲メ調書自體ヲ無效ニ歸セシムルコトナシ　三一　六　二四

○調書ニ記載シテ明確ニスヘキ規定アル申立及ヒ陳述若クハ自白又ハ證人及ヒ鑑定人ノ供述若クハ檢證ノ結果等ニシテ苟モ之ヲ明確ニシタル以上ハ爾後辯論數回ニ涉リ縱シヤ其間ニ於テ判事ニ交迭アルモ其交迭アル毎ニ右明確ニシタル事項ヲ更新スヘキモノニ非ス　三五　一一　一〇三

○投票用紙ノ如キ物件ヲ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ提出シ裁判所自ラ檢證ヲ爲シ且判決ヲ爲ス場合ニ於テハ判事ハ其檢證ニ依リ實驗シタル事實即チ檢證ヲ直ニ判斷ノ資料ト爲スモノナレハ檢證ノ結果ヲ調書ニ記載セサルモ違法ニ非ス　四五　二二四三

○民事訴訟法ニ依ル決定ニハ必スシモ理由ヲ付スルノ要ナク又書面ニ作

○リ調書ニ添附セサル決定ハ之ヲ調書ニ記載シテ明確ニスルヲ以テ足レリトス　四一

○裁判ノ言渡ハ調書ニ於テ明確ニ爲スヘキモノナリト雖モ單ニ之ヲ言渡シタリトノコトヲ記載スレハ足リ裁判ノ結果マテモ記載スルヲ要スルモノニ非ス　三二　二三七

○判決ノ言渡ニ關スル事項ヲ其前回ニ於ケル口頭辯論調書ノ末尾ニ續テ記載シタル場合ニ於テハ特ニ其部ニ記載セサルモノハ總テ前回ノ辯論ト同一ノ方式ヲ履行シタルモノト推定スヘシ　三三　四三

○判決ノ言渡ハ其前回ノ口頭辯論調書ノ末尾ニ之ヲ附記スルモ敢テ法律ノ禁スル所ニ非サレハ其適法ナルヤ勿論ナリ而シテ斯ル場合ニ於テハ言渡調書ハ之ニ記載シアル日時及ヒ場所ニ於テ作成セラレタルモノト認メサルヘカラス　三五　一〇　一五九

○裁判ノ言渡ハ調書ニ明確ニスヘキ事項ナリト雖モ單ニ之ヲ言渡シタルコトヲ記載スレハ足リ必スシモ主文ノ朗讀ニ依リテ判決ノ言渡ヲ爲シタル旨ヲ記載スルヲ要セサルモノトス　三六　六八二

（第百三十一條）

『第百三十一條』

○口頭辯論調書ニ於テ明確ニスルノ必要ナキ事項ハ當事者ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムルヲ要セス　四　一七四四

（刑）○民事訴訟法第百三十一條ノ規定ニ違フト雖モ其調書ハ無效ニ非ス故ニ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルモ不法ナリトセス　二八　三　二六

○調書ニ記載シテ明確ニスヘキ證人ノ供述ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムルノ手續ヲ缺クモ之カ爲メ口頭辯論調書ハ全然無效ト爲ルヘキモノニ非ス　二九　一　三四

（同主旨）

民事訴訟法第百三十一條ノ規定ニ於テ特ニ調書ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムヘキモノヲ讀聞カセス又ハ閲覽セシメサル場合其關係人ヨリ異議ノ申立アルトキト雖モ其部分ニ限リ證據力ヲ失フコトアルヘキノミニシテ之カ爲メ調書全部ノ無效ヲ惹起スヘキ筋ナシ故ニ調書ハ之ヲ讀聞カセサルモ之ヲ示ササルモ無效タルヘキモノニ非ス　三〇　四　五六

○口頭辯論調書ニ民事訴訟法第百三十條第二項第一號乃至第四號ノ事項ヲ掲ケサル場合ニ於テハ必スシモ之ヲ當事者ニ讀聞ケ又ハ閲覽セシムルコトヲ要セス　二七　一　五七七

（同主旨）

口頭辯論調書中自白其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項記載ナキトキハ當事者ニ之ヲ讀聞カセル等ノ手續ヲ爲スヲ要セス從テ其手續ノ有無ヲ記載スルノ要ナシ　三一　一二　四八

口頭辯論調書中自白認諾其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件記載ナキトキハ之ヲ關係人ニ

讀聞カセタル手續ヲ記セサルモ判決ノ當否ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス

口頭辯論調書ハ民事訴訟法第百三十條第一號乃至第四號ニ關スル部分ノ外必スシモ當事者ニ讀聞ケ又ハ閲覽セシムルヲ要セス

口頭辯論調書ハ民事訴訟法第百三十條第一號乃至第四號ノ事項ヲ掲ケサル場合ニ於テハ必スシモ之ヲ當事者ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシムルヲ要セス

○證人ノ訊問調書ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽セシメサルトキハ違法タルヲ免レスト雖モ此等ノ手續ハ當事者ニ於テ有效ニ拋棄シ得ルモノナルヲ以テ若シ當事者ニ於テ證人訊問ニ立會シ居ルニ拘ハラス之ニ對シ異議ヲ申立テサルトキハ責問權ヲ拋棄シタルモノト看做ス

(刑)○民事訴訟法第百三十一條第二項ハ同第百三十條第一號乃至第四號ニ掲ケタル調書ノ部分ハ法廷ニ於テ之ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閲覽ノ爲メ之ヲ關係人ニ示シタルコト及ヒ諾否ノ理由ヲ附記スルヲ可トスルノ法意ニシテ之カ附記ヲ爲ササルモ無效ト云フヘカラス

○臨檢調書ニ關係人ニ讀聞カセ若クハ閲覽セシメタルコト及ヒ其手續ヲ履ミタルコト等ノ記載ナキハ違法ナリト雖モ上告人カ之ニ關シ原審ニ於テ異議ヲ留ムルニ非サレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

(第百三十二條)『第百三十二條』

○口頭辯論調書ハ裁判長及ヒ書記ノ署名捺印ヲ數日ノ後ニ爲スモ其調書

二八　五　二八
二九　九　三
三一　五　三
三五　一　九三
三三　六　五四
二八　一三

○タルノ效力ヲ失ハス

○口頭辯論調書ニ於ケル裁判長ノ署名ハ書記ノ署名ト同時ニ爲スヲ要セス從テ署名ノ日時裁判長差支アルトキハ他ノ判事之ニ代リテ署名スルモ可ナリ

○口頭辯論各期日ニ作成セル數箇ノ辯論調書ニ通シ單ニ一回ノミ裁判長及ヒ裁判所書記ニ於テ署名捺印スルモ其調書ヲ無效ナリト云フヲ得ス

○二次以上口頭辯論ヲ開キタルトキ最初ノ調書ニハ裁判官書記ノ署名捺印ナク最終ノ調書ニノミ其署名捺印アルハ調書作成ニ關シ相當ノ手續ヲ欠キタルモノナルモ其記載事項ハ通シテ認證セラレタルモノニシテ且之カ爲メ調書ヲ無效タラシムル制裁ナキニ依リ調書ナクシテ裁判ヲ爲シタル不法アリト云フヲ得ス

○裁判長ノ署名捺印ナキ證人訊問調書ハ民事訴訟法ノ規定ニ適セサル調書ナルコトハ勿論ナレトモ裁判所書記ノ署名捺印アルトキハ當然無效ノモノニ非ス同法第百三十四條ノ場合ヲ除ク外其調書ニ記載シタル事項ハ裁判所ノ心證ヲ以テ採否ヲ決スヘキモノトス

○基本タル口頭辯論ト裁判ノ言渡トノ日時ヲ異ニスルトキハ其調書ハ各別ニ之ヲ作成スヘシトノ規定ナキヲ以テ右ノ二事項ニ關スル記事ニ付

二九　四　三三
二九　一〇　四六
二九　六　三〇
三一　五　二四
三四　九　一六五

キ一ノ調書ヲ作成スルモ敢テ不法ニ非ス而シテ斯ル場合ニ於テハ其最尾ニ裁判長竝ニ書記ノ署名捺印アレハ足ルモノニシテ必スシモ各記事ノ終尾毎ニ其署名捺印ヲ要セス　三六　二〇四

○民事訴訟法第百三十二條ニハ辯論調書ニ挿入削除又ハ欄外記入アルトキハ一一認印ヲ爲スヘク若シ之ニ背反スルニ於テハ其增減變更ノ效ナキ旨ノ規定アラサルカ故ニ調書中挿入及ヒ欄外記入ニ認印ナキモ無效ニ非ス　三八　五九八

○裁判長ヲシテ辯論調書ニ署名捺印セシムルハ調書ノ記事カ事實ニ違ハサルコトヲ認證セシメントスル旨趣ニ基クモノナレハ其署名捺印ナキ調書ハ證明ノ效力ヲ有セス　四一　四四九

○民事訴訟法ニハ刑事訴訟法第二十條ノ如キ規定ナキヲ以テ偶〻口頭辯論調書ノ一部ニ契印ヲ缺クコトアルモ此一事ヲ以テ直ニ該調書ノ效力ヲ否定スヘキモノニ非ス　六　八二二

（同主旨）

民事訴訟法ニハ口頭辯論調書ニ契印ヲ爲スヘキ旨ノ規定ナキノミナラス契印ヲ缺キタル一事ヲ以テ調書ヲ無效トスヘキ理由ナシ

○裁判所書記カ證人ノ供述ヲ調書ニ記載シ明確ニスル場合ニ於テ其調書ニハ所屬官署ノ印ヲ押捺スヘキモノニ非ス　六　一一五九

○口頭辯論調書ニ其作成者タル書記ノ捺印ナキトキハ調書ノ形式ヲ具備セサルヲ以テ其調書ハ證明ノ效力ヲ有セス　六　一八七九

全ナル證明ノ效力ヲ有セサルモノトス從テ斯ル口頭辯論ヲ基本トスル判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス　四二　五七〇

（同主旨）

判決言渡調書ニ作成者タル裁判所書記ノ捺印ナキトキハ調書ノ形式ヲ具備セサルヲ以テ其調書ハ方式ノ遵守ニ關シ完全ナル證明ノ效力ヲ有セス

○第一審裁判所ノ口頭辯論調書ニ書記ノ捺印ナキトキハ其調書ハ方式ノ遵守ニ關シ完全ナル證明ノ效力ヲ有セス從テ第二審裁判所カ右ノ口頭辯論ニ於ケル證人ノ證言ヲ採用シ控訴人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ナリ　五　一〇四六

○民事訴訟法第百三十二條ハ裁判長差支アルトキハ之ニ代リテ署名捺印スヘキ判事ノ順序ヲ定メタル規定ナルヲ以テ裁判長差支アリテ而モ之ニ代ルヘキ官等最モ高キ陪席判事差支アルトキハ其次席判事之ニ代リテ署名捺印スルヲ當然ナリトス　四四　八八六

（第百三十三條）

『第百三十三條』

○訊問調書ニ其取調ノ場所ノ記載ナキ欠缺ハ調書ヲ無效ナラシムヘキ瑕

○瑾ニ非サルカ故ニ之ニ記載シタル證言ヲ採用スルハ違法ニ非ス

（第百三十二條）

○民事訴訟法第百三十二條ノ規定ハ受託判事ノ審問調書ニモ亦準用セラルヘキモノトス故ニ審問調書ニ裁判所書記ノ署名ノミアリテ其捺印ナキトキハ該調書ハ同條ニ違背セルモノナリト雖モ之カ爲メ無效ヲ惹起スヘキモノニ非サルハ勿論其中ニ記載セラレタル供述ノ證據力マテ薄弱ナラシムルモノニ非ス而シテ其調書ニ如何ナル證據力ヲ付スヘキカハ一ニ裁判所ノ自由判斷ニ屬ス

（第百三十四條）

『第百三十四條』

○口頭辯論調書ハ一ノ書證タルニ過キサルヲ以テ裁判長ノ名下ニ捺印ナケレハトテ爲メニ其裁判ヲ不法視スルヲ得ス然レトモ若シ口頭辯論調書ヲ以テスルニ非サレハ證明スルコトヲ得サル事項例ヘハ自白認諾抛棄及ヒ和解（民訴一三〇條一號）ニ基キ判決ヲ爲シタル場合ノ如キニ在テハ其判決ノ基因タル事項ヲ證スル證據ヲ缺クニ至ルヘキヲ以テ從テ其判決ノ不法タルニ至ルコトアルヘキモ單ニ裁判長ノ捺印ヲ缺クカ故ニ原判決不法ナリトノ論告ハ未タ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

○口頭辯論調書ノ末尾ニ裁判所書記ノ署名捺印アルモ其辯論ニ列席シタル旨ノ記載ナキトキハ必要ノ方式ヲ遵守セサル不法アルモノトス

○裁判所書記ノ署名捺印ノミニテ裁判長ノ署名捺印ナキ口頭辯論調書ハ民事訴訟法第百三十四條ニ規定シタル證明ノ效力ヲ有セサルモノトス

○從テ該調書ニ記載シタル鑑定人ノ鑑定ヲ判斷ノ資料ニ供シタル判決ハ不法ナリ

○同一ノ法廷調書ニ列席判事ノ異動ナキ記載ト裁判長カ判事ニ異動アル旨ヲ告ケ辯論ヲ更新シタルコトノ記載ト二箇相牴觸セル記載アルトキハ其辯論ニ臨席シタル判事ヲ確知スルニ由ナキヲ以テ破毀スヘキ違法アルモノトス

○判決ノ基本タル口頭辯論ニ判事カ臨席シタル事實ヲ證明スルハ方式ノ遵守ヲ證明スルニ外ナラサレハ必スヤ調書ヲ以テスルコトヲ要ス

○自白認諾抛棄及ヒ和解其他調書ニ記載シテ明確ニスヘキ諸件ヲ明確ニセサルトキハ判文中ニ其事ノ記載アルモ之ヲ以テ適法ニ陳述アリシモノト看做スコトヲ得ス

○民事訴訟法第百三十四條ノ規定ニ從ヒ署名捺印スヘキ場合ニ署名ヲ爲シ押印セスシテ華押ヲ爲スハ該規定ニ違背スル瑕瑾タルヲ免レサルモ其瑕瑾ハ口頭辯論ノ際方式ヲ遵守セサル旨ノ攻擊アリタル場合ニ右ノ調書ヲ以テ其遵守ヲ證明シ得サルノ結果ヲ生スルニ過キス

○口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ハ調書ヲ以テノミ之ヲ證シ得ルニ依リ第一審裁判所ノ法廷調書中判決ノ言渡ヲ爲シタル記載ナキニ於テハ判決ヲ言渡シタルモノト認ムルニ由ナシ　三四　一　四六

○民事訴訟法第百三十四條ノ規定ハ口頭辯論ニ關スル方式カ遵守セラレタルヤ否ニ付キ爭アル場合ニ適用セラルヘキモノニシテ其方式カ事實ニ於テ適法ニ遵守セラレ其點ニ付テハ當事者間別ニ爭ノ存セサル場合ニ適用セラルヘキモノニ非ス　三五　四　九三

○判決言渡アリタル事實ニ付テ當事者間ニ爭ナキトキハ其調書ナキモ判決ハ不法ニ非ス　三五　四　九三

○口頭辯論調書ニ列席書記ノ氏名揭記シアラサルトキハ書記ノ列席ナクシテ口頭辯論ヲ開キ以テ訴訟ノ審理ヲ爲シタルモノト看做ササルヲ得ス　三五　九　一三四

○判事ノ評議ハ口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ニ屬セス之ヲ其方式ニ屬スト爲シ法廷調書ヲ援引シテ論難スルハ不當ナリ　三五　一　五三

○當事者ノ訴訟代理人カ辯論ニ立會ヒタルコトノ有無ハ民事訴訟法第百三十四條ノ所謂方式ニ屬スルモノナレハ單ニ調書ヲ以テノミ之ヲ證明シ得ルモノトス　四〇　二〇　二一七

○裁判言渡調書ニ當事者ノ氏名ヲ揭ケサルトキハ其調書ハ當事者カ裁判言渡ノ期日ニ出頭シタルコトヲ證明スルノ效ナキニ止マリ言渡シタル判決ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス　四四　四三五

○口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ハ調書ヲ以テノミ之ヲ證スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ其調書ニシテ火災ノ爲メ燒失シ現存セサルニ於テハ原判決ハ口頭辯論ノ方式ヲ遵守シテ之ヲ爲シタルモノト認ムルニ由ナキモノトス　四四　五〇七

○（同三三）
原審ノ訴訟記錄カ燒失シテ現存セサルトキハ原判決ハ口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ヲ遵守シテ之ヲ爲シタルモノト認ムルニ由ナキヲ以テ破毀ノ原因アルモノトス（同一判例四二年一〇一三頁）

○證人訊問調書ニ當事者若クハ其訴訟代理人ノ出頭シタリヤ否ヤノ記載ヲ缺クモ單ニ該調書ニ依リ出頭若クハ闕席ノ事實ヲ證明シ得サルニ止マリ之カ爲メニ調書ノ無效ヲ惹起シ又ハ其證據調ヲ不法ナラシムルモノニ非ス　四三　二　五四

○（同三三）
口頭辯論調書ノ記載方ノ欠缺ハ其欠缺事項ニ限リ證明ノ效力ヲ失フマテニシテ調書其モノノ無效ヲ惹起スルモノニ非ス　四五　三〇一

○裁判長及ヒ裁判所書記ノ署名捺印ヲ缺ク口頭辯論調書ハ無效ニシテ證明ノ效力ヲ有セス　四五　五三七

○判決言渡ノ方式ハ民事訴訟法第百三十四條ニ所謂口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ一ナルヲ以テ判決ノ言渡カ適式ナリヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ同條ノ規定ニ依リ調書ヲ以テノミ之ヲ證スルコトヲ得ヘキモノトス　二　七二三

○（同主旨）判決ノ言渡等ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ニ付テハ其調書ヲ以テノミ證明スヘク決シテ證人ヲ以テ證明スヘキモノニ非ス　三三　六　一七四

○裁判ノ對審ヲ公開シ又ハ公開ヲ禁シタルコトハ特ニ之ヲ口頭辯論調書ニ記載スヘキモノニシテ此辯論公行ノ有無ノ事實ハ調書ヲ以テノミ之ヲ證スルコトヲ得ルモノトス　三　三七一

○口頭辯論調書ニ其作成者タル書記ノ捺印ナキトキハ調書ノ形式ヲ具備セサルヲ以テ其調書ハ方式ノ遵守ニ關シ完全ナル證明ノ效力ヲ有セス從テ第二審裁判所カ右ノ口頭辯論ニ於ケル證人ノ證言ヲ採用シ控訴人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ナリ　六　一八七九

○（同主旨）判決言渡調書ニ作成者タル裁判所書記ノ捺印ナキトキハ調書ノ形式ヲ具備セサルヲ以テ其調書ハ方式ノ遵守ニ關シ完全ナル證明ノ效力ヲ有セス　二　五七〇

○第一審裁判所ノ口頭辯論調書ニ書記ノ捺印ナキトキハ其調書ハ方式ノ遵守ニ關シ完全ナル證明ノ效力ヲ有セス從テ第二審裁判所カ右ノ口頭辯論ニ於ケル證人ノ證言ヲ採用シ控訴人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不法ナリ　五　一〇四六

○上告裁判所カ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ第一審ニ於ケル口頭辯論調書燒失シ辯論ノ公開等方式ヲ遵守シテ第一審判決ノ適法ニ爲サレタルコトヲ知ルニ由ナキトキハ同判決ヲ廢棄シ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヲ相當トス

○民事訴訟法第百三十條第二項第一號ニ所謂自白ヲ調書ニ記載シテ明確ニスヘキコトハ同第百三十四條ニ所謂口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ニ該當セス故ニ裁判所ハ調書ニ記載ナキトキト雖モ他ノ證據ニ依リ自白ノ有無ヲ認定スルコトヲ得ルモノトス　七　一八七五

第二節　送達

○方式ノ送達ヲ受ケサルモ甘シテ之カ答辯ヲ爲スハ之ヲ受クルモノノ隨意タリ決シテ法ノ禁スル所ニ非ス又控訴ヲ爲スノ委任ヲ爲シタル以上ハ相手方ノ附帶控訴ニ對シ反對ノ意思アルコト自ラ明瞭ナルニ於テハ

民事訴訟法第六十五條第一項ニ屬スヘキモノニシテ敢テ特別ノ委任ヲ要セス

○期日呼出狀ヲ訴訟代理人ニ送達シタル後其代理人辭任スルモ呼出狀ハ當然本人ニ對シ其效力ヲ有スルモノトス

○數人宛ニテ一通ノ書類ヲ送達スルハ有效ノ送達ニ非ストスルヲ以テ本則ト爲ス

○送達受取ノ委任ニ付テハ必スシモ訴訟行爲ヲ爲ス者ニ限ルヘカラサルコトハ民事訴訟法第百三十六條乃至第百五十八條ノ規定スル所ニ由リテ明カナリトス

○訴訟ノ當事者カ訴訟ニ關スル書類ノ送達ヲ受取ルカ如キハ一般代理ノ原則ニ從ヒ何人ニ之ヲ代理セシムルモ妨ナシ

○送達ハ之ヲ受クヘキ人ニ爲シタル場合ヲ除ク外民事訴訟法第一編第三章第二節ニ規定シタル場所ニ於テ同節ニ規定シタル人ニ爲ササレハ不適法ニシテ送達ノ效力ヲ生セサルモノトス

○訴訟手續中斷中ニ爲シタル送達ハ無效ナリ

○先天的遲鈍性白痴ニシテ何等事理ヲ辨別セサル者ニ對シ支拂命令及ヒ執行命令ノ正本ヲ送達スルモ其送達ハ之ナキモノト同シク全然效力ヲ

二七　三一　五　二六八
三二　八　三
三四　八　二九
三四　一〇　一〇八
三八　一五九二
四一　二六六

有セス

○心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ對シテ爲シタル期日呼出狀ノ送達ハ無效ナルヲ以テ呼出ヲ受ケタル當事者カ辯論期日ニ出頭セサルモ期日ヲ懈怠シタルモノトシテ闕席判決ヲ爲スヘキニ非ス

（第百三十七條）

○送達ハ書類ノ交付ヲ確實ナラシムル方法ニ過キサレハ送達ヲ受クヘキ者ニ於テ其手續ノ違法ナルニ拘ハラス書類受領シ之ニ基キ訴訟行爲ヲ爲シタルトキハ送達ヲ受ケタル者ハ勿論其相手方モ送達ノ不法ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

（第百三十八條）

（同左）

送達吏カ書類ノ送達手續上瑕疵アルトキト雖モ受領者カ有效トシテ之ヲ受領シ之ニ基キ訴訟行爲ヲ爲シタル上ハ相手方ニ於テ其送達ヲ無效視スルヲ得ス

送達吏ノ送達手續上ニ瑕瑾アルモ受領者カ之ヲ有效トシテ受領シ之ニ基キ訴訟行爲ヲ爲シタル上ハ其相手方ニ於テ其送達ヲ無效トシ得ヘキモノニ非ス

○訴訟書類ノ送達ハ書面ノ旨趣ヲ通知スル行爲ニ外ナラサレハ送達ヲ受ケタル者ハ當然其書面ノ旨趣ヲ了知シタルモノト斷スルヲ得ス故ニ被告ノ住所地外ノ裁判所ニ訴ノ提起アリテ被告ノ居所不明ナルニ因リ公示送達アリタル場合ニ於テ被告カ之ヲ知ラサル爲メ故障期闕ヲ懈怠ス

四四　一一
三　九
三〇　一二　一
三三　九　七五

ルニ至リタルトキハ民事訴訟法第百七十四條第二項ノ規定ニ從ヒ原狀回復ヲ許スヘキモノトス

○執行命令正本カ債務者ノ住所ニ非サル地ニ於テ同居親族ニ葬サル者ニ送達セラレタル場合ト雖モ其債務者ニ於テ異議ナク之ヲ受領シタルトキハ其送達ハ有效ナリトス

（同三三ノ二）

○送達ハ書類ノ交付ヲ確的ナラシムル方法ニ過キサレハ送達ヲ受クヘキモノニ於テ手續ノ違法ナルニモ拘ハラス之ヲ受ケタルトキハ其送達ハ有效ナリトス

（第百三十六條）

『第百三十六條』

○執達吏カ代人ヲ以テ送達ヲ爲サシムル場合ニハ必ス其本人ノ氏名ヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ送達證書ニ執達吏代理某ト記載シ本人ノ氏名ヲ揭記セサルモ無效ニ非ス

（第百三十七條）

『第百三十七條』

○當事者ノ訴訟代理人數人アル場合ニ於テ書類ノ送達ハ其一人ニ對シテ爲ストキハ訴訟上有效ナルヲ以テ數人ノ訴訟代理人中ノ一人ニ對シテ口頭辯論期日呼出狀ノ送達アリタルトキハ他ノ代理人ニ對シテ其送達ヲ爲ササルモ不法ニ非ス

（第百三十八條）

『第百三十八條』

○未成年ノ當事者ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ爲スヘキモノニシテ之ヲ未成年タル當事者ニ爲スモ其效力ヲ生セス隨テ未成年者タル當事者ニ送達セラレタル判決ハ其儘確定スヘキモノニ非ス

○寺院ニ對スル訴訟ニ付キ住職ニ非サル者ニ爲シタル訴狀ノ送達ハ實質上送達ノ效ナシト雖モ其者ニ於テ寺院ノ代表者トシテ應訴シ裁判ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ形式上寺院ニ對シテ確定力ヲ生スルモノトス

○訴狀カ被告會社ノ法律上代理人ニ非サル雇人ニ送達セラレタリトスルモ該會社ノ法律上代理人カ其送達アリシコトヲ認メ第一二審共ニ之カ應訴ヲ爲シ來リタル以上ハ訴訟物ノ權利拘束ヲ生セサルモノト云フヲ得ス

○債務者カ訴訟能力者ト爲リタル後係爭執行命令ニ基ク債權者ノ執行ニ際シ該執行命令ノ送達ニ付キ何等異議ヲ主張スルコトナク任意ニ若干ノ金員ヲ執達吏ニ辨濟シタル事實アル以上ハ縱令該命令カ當時債務者自身ニ送達セラレ其法定代理人タル後見人ニ送達ナカリシ爲メ債務者ニ效力ヲ生セサリシトスルモ債務者ハ右事實ニ依リ該送達ノ無效ヲ理

由トシテ執行命令ニ對シ異議ヲ主張スル權利ヲ拋棄シ之ヲ喪失シタルモノナルヲ以テ執行命令ニ對スル故障ノ申立ハ之ヲ許サザルモノトス

○訴狀カ訴訟無能力者ニ送達セラレタルニ拘ハラス其法律上代理人ニ於テ辯護士ニ訴訟代理ヲ委任シ本案ノ辯論ヲ爲サシメタル以上ハ送達ノ無效ハ醫癒セラレタルヲ以テ權利拘束ヲ生スルモノトス

（第百四十條）『第百四十條』

○民事訴訟法第百四十條ハ既決囚タルト未決囚タルト將タ住所ヲ有スルト否トヲ問ハス囚人ニ對スル送達ハ總テ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲サシムルノ法意ナリ

○當事者カ訴訟中囚人ト爲リタル場合ニ於テハ縱令其届出ナキモ之ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ爲サザルヘカラス故ニ其住所ニ於テ妻ニ爲シタル送達ハ不適法ナリ

（第百四十一條）『第百四十一條』

○民事訴訟法第百四十一條ニ所謂總理代人トアルハ或特定セル箇箇ノ財産的事務ニ付テノ代理人ニ對立スルモノニシテ全部ノ財産的事務ニ付テノ場合ハ勿論或廣汎ナル範圍ニ於ケル財産的事務ヲ代理人トシテ處理セル場合ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス

（第百四十二條）『第百四十二條』

○訴訟代理人カ適法ニ復代理人ヲ選任シタルトキト雖モ復代理人ハ本人ヲ代表スルニ止マリ代理權ノ移轉ヲ受クルモノニ非サルヲ以テ代理人ハ依然トシテ代理關係ヲ離脫スルモノニ非ス故ニ口頭辯論期日呼出狀ノ送達ハ本代理人ニ之ヲ爲シタルトキハ復代理人ニ之ヲ爲サザルモ有效ナリ

（第百四十三條）『第百四十三條』

○訴訟書類ヲ假住所ニ送達シタルトキハ其場所ニ於テ相當ノ人ニ送達セルモノト推定スヘキヲ以テ其送達ノ不適法ヲ主張スル者ハ之カ證明ヲ爲スヘキ責任アリ

○訴訟當事者又ハ其訴訟代理人カ受訴裁判所ノ所在地ニ於テ現ニ住居又ハ事務所ヲ有スル場合ニハ假住所ヲ届出ツヘキモノニ非スト雖モ現ニ事務所ヲ有スルニ拘ハラス誤テ假住所ノ届出ヲ爲シ若クハ其届出ヲ爲シタル後事務所ヲ設ケタル場合ニ該事務所ニ於テ爲シタル送達ハ有效ナリトス

○假住所届出ノ效力ハ受訴裁判所カ終局ノ裁判ヲ爲シ其裁判書ヲ送達シ

○タルトキハ當然消滅ニ屬スルモノトス　三六　一〇一五

○假住所屆出ノ效力ノ存續スル間ハ當事者ハ假住所ヨリ裁判所ニ出頭シタルモノト推定スルヲ得ヘキモ其效力ノ消滅シタル後ハ本住所ヨリ裁判所ニ往復シタルモノト推定スルヲ相當トス　三六　一〇一五

○民事訴訟法第百四十三條第一項ニ依リ訴訟關係人ノ屆出テタル假住所ハ送達ニ關スル事項ニ付テノミ住所ト看做スヘキモノニシテ其他ノ事項ニ付テハ住所ト看做スヘキモノニ非ス　三八　五五八

（同三六三）

民事訴訟法第百四十三條第一項ニ則リ假住所ノ屆出ヲ爲シタルモノハ送達ニ關シテノミ其屆出テタル場所ニ住所ヲ有スルモノト看做サルルニ止マル

（第百四十三條）

民事訴訟法第百四十三條第一項ニ則リ送達ニ關シテ屆出テタル假住所ヲ以テ法律上ノ期間ノ猶豫ニ關スル假住所ノ效力アルモノト爲スヲ得ス　三四　一〇

○假住所ノ屆出ヲ爲ササル訴訟代理人ニ對シ判決ヲ送達スルニ當リ其住所若クハ事務所ニ宛テサルトキハ該送達ハ不適法ナリトス　三五　二　一三四

○訴訟代理人アル場合ニ於テハ書類ノ送達ハ本人ニ爲サスシテ訴訟代理人ニ爲スヲ原則トスルモノナルヲ以テ民事訴訟法第百四十三條第三項ニ原告若クハ被告トアルハ之ヲ廣義ニ解釋シ原告若クハ被告ノ爲メニ訴訟代理人アルトキハ右訴訟代理人ニ爲ス送達ニモ同條ヲ適用スヘキモノトス　四三　二七一

（第百四十五條）

『第百四十五條』

○書類ノ送達ニ付キ現ニ之ヲ受取ル者カ其送達ヲ受クヘキ本人ノ同居親族ナリトシテ受領スル上ハ執達吏ニ於テ特ニ其關係ヲ調査スルノ責務ナク又署名代書ノコトヲ記スルハ送達ニ付テノ必要條件ニ非ス　四五　七〇一

（刑）

○本人不在ノ節ハ送達書類ノ受取方一切ヲ委任セラレタル者ニ爲シタル送達ハ適法ナリ　二九　四　一二七

○內緣ノ妻ハ民事訴訟法第百四十五條ノ所謂同居ノ親族又ハ雇人ニ該當セサレハ債務者ノ住居ニ於テ其內緣ノ妻ニ爲シタル送達ハ無效ナリトス　三四　二　四七

（第百四十六條）

○郵便ヲ以テ爲ス送達ト雖モ送達ヲ受クヘキ本人ニ之ヲ爲スコト能ハサルトキハ民事訴訟法第百四十五條ニ則リ送達ヲ爲スヘキモノトス　四四　一三五

『第百四十六條』

○訴訟當事者又ハ其訴訟代理人カ受訴裁判所ノ所在地ニ於テ現ニ住居又ハ事務所ヲ有スル場合ニハ假住所ヲ屆出ツヘキモノニ非スト雖モ現ニ事務所ヲ有スルニ拘ハラス誤テ假住所ノ屆出ヲ爲シ若クハ其屆出ヲ爲

シタル後事務所ヲ設ケタル場合ニ該事務所ニ於テ爲シタル送達ハ有效ナリトス

○事務所ヲ有スル辯護士ニ對スル送達ハ本人不在ナルトキハ其事務所ニ在ル營業使用人若クハ筆生ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論其辯護士ヨリ特ニ送達ヲ受クルコトニ付キ委任ヲ受ケ其事務所ニ在ル者ニ之ヲ爲スモ亦有效ナリトス

○民事訴訟法第百四十六條ニ謂フ住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人トハ必ス シモ住居ト隔絶シタル場所ニ事務所ヲ有スル人ニ限ルモノニ非ス住居ト同一場所ニ事務所ヲ有シ又ハ同一家屋ト雖モ事務處辨ノ爲メ其幾部ヲ特ニ事務所ニ充テ若クハ其全部ヲ住居ト事務所トニ併用スル人ヲモ包含スルモノトス

（第百五十一條）

『第百五十一條』

○執達吏代理人ヲシテ書類ヲ送達セシムル場合其送達狀ニ執達吏代理人ノ署名捺印アルニ於テハ必スシモ執達吏本人ノ氏名ヲ記載スルノ要ナシ

（刑）○呼出狀ノ送達書ニハ送達吏ノ署名捺印アルヲ以テ足リ其所屬官署ノ印ヲ押捺スルヲ要セス

三五　九　八一

三六　一二五九

三〇　三　六四

三四　二　五八

（刑）○送達證書ニハ送達吏ノ署名捺印ヲ具備スルヲ要ス從テ其氏名ノ印刷ニ係ルモノハ無效ナリ

（刑）○訴訟記錄中ニ存在スル送達證書ニ徵シ適式ニ呼出狀ヲ送達シタルコト明カナル以上ハ辯護人ニ發シタル呼出狀ニシテ不適式ナルヤ否ヤハ上告裁判所ニ於テ審査スヘキ所ニ非ス

（刑）○送達證書ノ「送達シタル場所」トアル欄內ニ「本人宅」ト記シアル上ハ送達シタル場所ハ自ラ明カナルヲ以テ特ニ市町村ノ明記ナキモ無效ニ非ス

（刑）○送達證書ニハ送達吏ノ署名捺印ヲ爲スヲ以テ足リ必スシモ其身送達吏タルコトヲ記載スルノ要ナキモノトス從テ送達證書ニ執達吏代理タルコトノ記載ナキモ無效ニ非ス

○執達吏カ代人ヲ以テ送達ヲ爲サシムル場合ニハ必ス其本人ノ氏名ヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ送達證書ニ執達吏代理某ト記載シ本人ノ氏名ヲ揭記セサルモ無效ニ非ス

○民事訴訟法第百五十一條ハ汎ク總テノ送達ニ適用スヘキモノニシテ該規定中「之ヲ施行スル吏員」トアルハ裁判所書記執達吏及ヒ郵便配達人ヲ指稱シ又「方法」トアルハ公示送達ノ場合ニハ裁判所書記カ告示スヘ

三四　四　九

三四　六　一五

三四　一〇　六

三五　三　八九

三九　三五九　一〇〇

キ書類ヲ何レソ掲示場ニ貼附シタルヤ若シ新聞紙ニモ之ヲ掲載セシメタルトキハ何レノ新聞紙ニ何回掲載セシメタルヤヲ認メ得ヘキ程度ニ記載スルノ類ヲ云フ

○送達吏ノ署名ヲ缺ク送達證書ハ不適法ノモノナルヲ以テ被送達者ハ其受領ヲ拒ムコトヲ得ルモ異議ヲ留メスシテ一旦之ヲ受取リタル以上ハ後日ニ至リ其送達手續ニ對シテ異議ヲ主張スルコトヲ得ス

（同左）執達吏カ送達證書ニ署名セス其氏名ヲ刻シタル板木ヲ以テ之ニ代用スルハ違法ナルヲ以テ被送達者ハ送達ノ書類ヲ受取ルコトヲ拒ミ得ヘキモ一旦異議ヲ留メスシテ之ヲ受取リタル以上ハ後日ニ至リ送達ノ手續ニ對シ異議ヲ主張スルヲ得ス

（刑）○苟モ送達ヲ執行シタル者カ執達吏ノ正當代理人ニシテ送達證書ニ其署名捺印アル以上ハ縱令本人タル執達吏ノ氏名ヲ表示セサルモ其證書ヲ無效トスルヲ得ス

（刑）○送達吏ノ資格ヲ記入セサル送達證書ハ之ヲ無效ト爲ス旨ノ法規ナケレハ執達吏代理カ送達證書ヲ作成スルニ當リ誤テ其資格ヲ記入セサルモ之カ爲メニ該證書ノ無效ヲ惹起スルモノニ非ス

（刑）○送達證書中送達方法ノ欄ハ民事訴訟法第百四十五條乃至第百四十九條

三九　二〇〇
四〇　八五三
三四　五七
四一　三〇八
四一　七三二

ノ如ク異例ノ送達ヲ爲シタル場合ニ於テ其記載ヲ要スルモノトス從テ受取人ニ送達シタル場合ニハ其署名捺印アレハ足リ別ニ送達方法ヲ記載スルノ要ナシ

（刑）○送達證書作成ノ日附ハ縱令之ヲ缺クモ形式上違法ニ非サルヲ以テ其證書ノ無效ヲ惹起スルコトナシ

○送達證書ノ記載カ不適法ナル場合ト雖モ其送達カ實質上適法ニ行ハレタルモノナルトキハ其送達ハ有效ナリトス

○送達吏ノ作成ニ係ル送達證書中受取人ノ記名捺印アル部分ハ受領證書ニ該當スルモノニシテ一ノ私署證書ナリトス

（第百五十三條）『第百五十三條』

○民事訴訟法第百五十三條ノ規定ハ外國ニ在留スル本邦人ノミニ限ラス外國ニ在住スル一切ノ外國人ニモ亦之ヲ適用スヘキモノニシテ送達ヲ受クヘキ相手方カ送達ノ施行ヲ要スル外國ノ臣民ナルカ爲メニ毫モ其適用ヲ妨クルコトナシ

（第百五十六條）『第百五十六條』

○公示送達ハ民事訴訟法第百五十六條ノ場合ニ限リ之ヲ許スヘキモノナレハ本邦ニ於テ送達ヲ施行スルコト能ハサルトキト雖モ外國ニ於テ之

四一　八九五
四一　八九五
三　二二〇
四　五五六
三八　一二三

ヲ施行シ得ル場合ニハ該送達ヲ許スヘキ限ニ在ラス

第三節　期日及ヒ期間

(第百六十一條)

○民事訴訟法第百六十一條ノ規定ニ則リ期日ノ呼出ヲ爲シタル後其期日ヲ變更スル場合ニ其變更ノ決定書ヲ送達スルヲ以テ足レリト爲スコトハ各裁判所ノ慣例ナリ

(第百六十二條)

○親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リテ訴訟ノ目的タル不動産ニ關シ裁判上ノ和解ヲ爲スニ當リ親族會ノ同意ヲ經サリシ爲メ其行爲ヲ取消シ期日指定ノ申請ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ期日ヲ指定シテ更ニ辯論ヲ開クヘキモノトス

○訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於ケル期日又ハ期間遵守ノ有無ハ訴訟委任ノ範圍内ニ在ルモノハ其訴訟代理人ニ付キ之ヲ定ムルヲ當然トス

(第百五十九條)

『第百五十九條』

○當事者カ期日ヲ記入シテ期日變更ノ申請書ヲ提出シタルトキト雖モ裁判長ハ尙ホ期日ヲ定メ合式ノ呼出ヲ爲ササルヘカラス

(第百六十一條)

『第百六十一條』

○當事者カ合意上辯論期日ヲ記入セル期日變更願ヲ裁判所ニ提出スルモ適法ノ呼出狀ヲ送達スルニ非サレハ當事者ヲ以テ合式ニ呼出サレタルモノト爲スコトヲ得ス

(第百六十三條)

○在廷シタル當事者ニ期日ヲ定メテ出頭ヲ命シタルトキハ出頭セサル一方ノ當事者ニ對シテモ亦呼出狀ヲ送達スルコトヲ要セス

『第百六十三條』

○裁判言渡ノ調書ニ事件ノ呼上ヲ爲シタルコトヲ記載スヘキ旨ノ規定ナシ故ニ右ノ調書ニ其事ノ記載ナキヲ理由トシテ上告スルヲ得ス

○事件ノ呼上ハ訟廷ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ辯護士又ハ當事者ノ控所等ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニ非ス

(同三三)

開廷ニ際シ廷丁ヲシテ訴訟人控所ニ至リ之ヲ呼込マシムルカ如キ習慣ハ法廷以外ニ於ケル便宜ノ行爲ニ止マリ法律ヲ以テ規定セラレタル呼上ノ方式上何等ノ效力ヲ有スヘキモノニ非ス

○裁判所構内ニ出頭シ居リタレハトテ事件ノ呼上ニ應シ期日ノ開始ニ當リ法廷ニ出頭セサルトキハ法律上訴訟行爲ヲ懈怠シタルモノトス

(第百六十六條)

『第百六十六條』

○國葬式ノ當日ハ民事訴訟法第百六十六條第二項ニ所謂一般ノ祝祭日ニ非ス故ニ不變期間ニ算入スヘキモノトス

○一月五日カ休暇日タル所以ハ宮中ニ新年宴會ノ御催アリテ祝日タルニ因ルモノトス故ニ若シ其御催ナシトセハ同日ハ祝日ニ非ス隨テ休暇日ニ非スト云ハサルヘカラス　三五　九　九八

○年末年始ノ休暇ハ一般ノ祝祭日ニ非サルヲ以テ其日カ抗告期間ノ終ニ當ルモ之ヲ期間ニ算入スヘキモノトス　三　二

（同主旨）

年末年始ノ休暇ハ祝祭日ト認メタル法令實行ナキヲ以テ一般ノ祝祭日ト爲スヘキ理由ナシ　二六　二　三一三

○民事訴訟法第百六十六條第二項ニ所謂期間ノ末日トハ法律上ノ期間カ伸長セラルル場合ニ於テハ其伸長セラレタル期間ノ末日ヲ指稱スルモノニシテ伸長以前ニ於ケル本來ノ期間ノ末日ヲ指稱スルモノニ非ス　三　六五六

○大正四年十一月十日ハ即位禮當日ニシテ一般ノ祝日ナルカ故ニ同日カ不變期間ノ最終日ニ相當スルトキハ之ヲ期間ニ算入スヘカラサルモノトス　五　一一三九

（第百六十七條）

『第百六十七條』

○民事訴訟法第百六十七條ノ里程猶豫規定ハ其生タル期間ニ附隨シテ伸長スルモノトス故ニ其主タル期間上告ノ如ク不變期間ナルトキ同法第百六十八條第一項ニ據テ期間進行ヲ停止スヘキモノニ非ス　二六　二　一六六

○假住所ハ現實ノ住所ニ非サルヲ以テ民事訴訟法第百六十七條ノ住居地ナル文字中ニ包含セラレス隨テ假住所ヲ届出テタル者ト雖モ同條ニ依リ期間ノ猶豫ヲ受クヘキモノトス　三四　一〇　五五

（反對）

訴訟人ニ於テ假住所ノ届出アルトキハ裁判所トノ距離ハ假住所ヨリ計算ス

○鐵道線路ハ汽車ニ依ルノ外公衆ノ通行ヲ許スヘキモノニ非サルカ故ニ民事訴訟法第百六十七條ノ伸長期間ヲ計算スル根據ト爲スコトヲ得ス　二六　一　一〇八

○同條ニ謂フ伸長期間ハ所謂郵便線路ニ依リテ計算スルヲ以テ從來ノ成例トス　三六　一三〇九

○民事訴訟法第百八十八條第三項ハ訴訟事件ノ處理上便宜ノ爲メ設ケタルモノニシテ當事者ノ爲メニ設ケタル規定ニ非サレハ其一个年ノ期間ハ里程猶豫ノ規定ニ從ヒテ之ヲ伸長スヘキモノニ非ス　三六　一三〇九

○民事訴訟法第百六十七條ノ伸長期間ヲ計算スルニハ陸路ハ陸里ヲ以テシ海路ハ海浬ニ依ルヘキモノトス　四三　四三八

（同主旨）

海路ノ里程ハ海浬ヲ以テ計算スヘキモノトス　四三　五五四

○民事訴訟法第百六十七條第一項ノ期間伸長ノ規定ハ之ニ依リ伸長セラ　二九　二　一

○レタル期間ヲ以テ適法ノ期間ト爲スモノナレハ上告狀ノ提出ハ伸長期間內ニ爲スヲ以テ足リ必スシモ本然ノ上告期間タル三十日內ニ其手續ヲ爲スコトヲ要セス　四三

○當事者ノ上訴期間ヲ定ムルニハ原裁判所ノ判決送達當時ニ於ケル當事者現實ノ住所ヲ標準トシテ之ヲ決定スルコトヲ要シ其訴訟カ權利拘束ト爲リタル當時ニ於ケル當事者ノ住所ヲ基本ト爲スヘキモノニ非ス　元

○民事訴訟法第百六十七條ハ唯裁判所ノ所在地ニ住居セサル者ニ對シ法律上ノ期間ヲ遵守スルコトヲ得サル不公平ナカラシムル爲メニ外ナラサレハ二線以上ノ通路アル場合ニハ最短線ニ依ルヘキモノトス　二

（同主旨）

法令ニ特別ノ規定アラサル限ハ二線以上ノ通路アル場合ニ於テ最短線路ヲ標準トシテ民事訴訟法第百六十七條ノ猶豫期間ヲ計算スルハ當然ナリ

○民事訴訟法第百六十七條第一項ノ規定ハ當事者ノ住居地ト裁判所所在地トノ距離海陸路八里未滿ノ場合ニハ其適用ナキモノトス　三五　一　七

○民事訴訟法第百六十七條ニ依ル法律上ノ期間ノ伸長ハ原告又ハ被告ノ住居スル市町村ト裁判所所在ノ市町村トノ里程標ニ據ル距離ニ應シテ定ムヘキモノトス　四　一八〇三　五　二三一七

（同主旨）

民事訴訟法第百六十七條ノ裁判所所在地又ハ原告若クハ被告ノ住居地ハ各市町村ヲ指稱スルモノナレハ兩者ノ距離ヲ算定スルニハ裁判所所在ノ市町村ト原告若クハ被告住居ノ市町村ニ於ケル里程元標若クハ其里程元標ヨリ算定セル里程標ヲ以テ各基點ト爲スヘキモノトス　三六　一四〇四

○闕席判決ノ送達ヲ受ケタル訴訟代理人カ裁判所所在地ニ住居スル以上ハ縱令本人カ同所在地ニ住居セサルトキト雖モ其訴訟代理人ヨリ故障ノ申立ヲ爲スニ付キ特ニ期間ヲ伸長スヘキ理由ナケレハ民事訴訟法第百六十七條ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキ限ニ在ラス　五　五二四

○裁判所カ民事訴訟法第百六十七條第二項ニ依リ附加期間ヲ定ムルハ法定期間ノ經過セサル以前ニ限ルモノトス　四四　二七三

（聯）

○上訴ノ期間ニ付キ里程ノ猶豫ヲ許與スヘキヤ否ヤ又幾何ノ猶豫ヲ許與スヘキヤハ原告若クハ被告カ上訴ニ關シテ訴訟代理人ヲ選任シタル場合ニ於テモ原告又ハ被告ノ住居地ヲ基點トシテ決スヘク訴訟代理人ノ住居地ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニ非ス　七　九二三　六　八一九

（反對）

訴訟委任ノ當初ヨリ控訴及ヒ上告ニ關スル一切ノ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル訴訟代理人カ裁判所ノ所在地ニ住居スル場合ニ於テハ本人カ裁判所ノ所在地ニ住居セサルトキト雖モ上告期間ハ民事訴訟法第百六十七條所定ノ伸長ヲ許スヘキモノニ非ス

（聯）○闕席判決ニ對スル故障ノ申立ハ上訴ト異ナリテ之ヲ爲スニ付キ民事訴訟法第百六十七條ニ規定スル法律上期間ノ伸長ハ原告被告ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲ス訴訟代理人ノ住居地ヲ基點トシテ之ヲ定ムヘキモノトス　七　九二三

（第百六十九條）『第百六十九條』

○當事者間ニ口頭辯論期日ヲ變更スルノ合意アリトスルモ之ヲ裁判所ニ申出テサル以上ハ其合意ハ毫モ裁判所ヲ羈束スルノ效ナク既定ノ口頭辯論期日ハ依然トシテ其效力ヲ存續ス從テ該期日ニ出頭セサリシ當事者ハ期日ヲ懈怠シタルモノトス　三八　一〇二七

○裁判所カ口頭辯論終結ノ當時指定シタル期日ニ判決ノ言渡ヲ爲シ得サルトキハ民事訴訟法第百六十九條ノ規定ニ準シ指定期日ノ開始後ニ於テハ判決言渡ヲ延期スル決定ヲ言渡シ得ヘキモノニシテ當事者カ事實上之ヲ知ルト否トハ決定ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス　七　二二八九

第四節　懈怠ノ結果及ヒ原狀回復

（第百七十三條）『第百七十三條』

○口頭辯論ニ闕席シタルモノハ其結果トシテ總テノ抗辯ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受クヘシ　二九　六

（第百七十四條）『第百七十四條』

○流行病ハ以テ一ノ不可抗力ト爲スコトヲ得　二五　六　三三

○原狀回復ノ申立ハ民事訴訟法第百七十四條ノ規定ニ依リ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル場合ニ限リ之ヲ許スヘキモノニシテ期日ヲ懈怠シタル者ニハ之ヲ許サス　二八　三　八一

○民事訴訟法第百七十四條第一項ノ規定ハ適法ノ送達ヲ受ケタル場合ニ限リ適用スヘキモノトス　三二　九　三八

○天災其他ノ事變アルモ當事者ニ於テ不變期間ヲ遵守スルニ付キ採リ得ヘキ方法存セシ場合ハ民事訴訟法第百七十四條ノ規定ニ依リ原狀回復ヲ許スヘキ限ニ在ラス　四三　六八一

○上告裁判所ヨリ遠隔セル地ニ在ル者カ上告狀ヲ提出スル爲メ上告期間內ニ提出シ得ヘキ時期ニ於テ其地ノ郵便局ニ書留郵便トシテ遞送ヲ委託スルカ如キハ其當時遞送ノ途中事變ノ生スヘキコトヲ豫知シ得ヘカラサル場合ニハ相當ノ方法ヲ採リタルモノト云ハサルヲ得ス從テ其事變ノ爲メニ到達遲延シ期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ原狀回復ヲ許スヘキモノトス　四三　七一三

○當事者ノ訴訟代理人タル辯護士ノ事務員カ控訴判決ノ送達ヲ受ケ乍ラ其判決ノ送達ナルコトニ氣付カサリシ爲メ當事者ニ於テ決定期間內ニ

上告ヲ提起スルコトヲ得サリシ場合ハ民事訴訟法第百七十四條ノ規定ニ依リ原狀回復ヲ許スヘキ限ニ在ラス

○民事訴訟法第百七十四條第二項ハ闕席判決送達ノ不知ト其不知ニ付テ必要ナル注意ヲ缺カサリシトノ二箇ノ事實存スルトキ茲ニ始メテ原狀回復ヲ許スノ法意ニシテ單ニ訴訟代理人カ旅行不在ノ定メ闕席判決ノ送達ヲ知ラサリシ事實アルノミニテハ未タ以テ同條項ノ適用ヲ受クル能ハス

○故障期間懈怠ノ當時訴訟代理人ニ於テ如何ナル注意ヲ必要トスルヤ又其注意ヲ缺カサリシヤ否ヤハ場合ト情況トニ從ヒ事實裁判所ノ裁量ヲ以テ自由ニ判定スヘキ事項ニ屬シ法律上ノ問題ニ非ス

○訴訟書類ノ送達ハ書面ノ旨趣ヲ通知スル行爲ニ外ナラサレハ送達ヲ受ケタル者ハ當然其書面ノ旨趣ヲ了知シタルモノト斷スルヲ得ス故ニ被告ノ住所地外ノ裁判所ニ訴ノ提起アリテ被告ノ居所不明ナルニ因リ公示送達アリタル場合ニ於テ被告カ之ヲ知ラサル爲メ故障期間ヲ懈怠スルニ至リタルトキハ民事訴訟法第百七十四條第二項ノ規定ニ從ヒ原狀回復ヲ許スヘキモノトス

（同主旨）

五	三六	一五二	二一六
三	三六	二一六	三〇五

故障期間ヲ懈怠シタル者カ其過失ニ非スシテ闕席判決ノ送達ヲ知ラサリシ場合ニハ該送達ノ公示送達ナルト其他ノ送達ナルトヲ問ハス原狀回復ヲ許スヘキモノナリ

第五節　訴訟手續ノ中斷及ヒ中止

○訴訟手續ノ受繼ニ關スル抗辯ノ當否ヲ裁判スルニハ其訴訟ヲ受繼スルノ義務アリトシテ指名セラレシ者カ果シテ其受繼セラルヘキ當事者ノ承繼人タル資格ヲ有スル者ナルヤ否ヤヲ審査シテ之ヲ定ムヘキモノニシテ訴訟ノ適法ニ提起セラレタルヤ否ヤニ依リテ之ヲ受繼スルノ義務アルヤ否ヤヲ判定スヘキモノニ非ス

（聯）○判決言渡後ニ雖モ中斷ノ原因ヲ生シタルトキハ訴訟手續ハ中斷セラルルモノトス

○訴訟受繼ノ當否ハ當事者即チ相手方ノ申立ニ因リ之ヲ審査スヘキモノニシテ職權調査事項ニ非ス

（聯）○權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキ事件ニ在テハ共同訴訟人中ノ一名ニ中斷ノ原因ヲ生シタルトキハ其共同事件全體ニ付キ訴訟手續ヲ中斷スルモノトス

（同主旨）

（刑）權利關係ノ合一ニノミ確定スヘキ私訴事件ニ於テ共同訴訟人ノ一名ニ中斷ノ原因ヲ生シタル

三九	六	二三	一二〇八
三五	四	六	一〇四一
三五	四	六	一二〇〇

トキハ其事件全體ニ付キ訴訟手續ヲ中斷スルモノトス

民事訴訟法第五十條ニ該當スル共同訴訟人中ノ一人ニ中斷事由カ發生シタルトキハ他ノ共同訴訟人ノ爲メニモ訴訟ハ中斷スヘキモノトス

土地ノ共有者ニ對シ抵當權設定登記ノ抹消ヲ請求スル訴ハ權利關係カ共有者全員ニ對シ合一ニノミ確定スヘキ事案ナルヲ以テ共有者中ニ死亡者アルトキハ其訴訟手續ハ中斷セラルルモノトス

（聯）○隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ民事訴訟法中訴訟手續ヲ中斷スヘキ規定ナキノミナラス債權者ハ民法上尙ホ引續キ前戶主ニ對シテ請求ヲ爲シ得ヘキ權利アルヲ通常トス從テ訴訟手續中斷ニ關スル規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

（同三三）

隱居ハ訴訟能力ノ喪失ヲ來スモノニ非サルヲ以テ訴訟手續中斷ニ關スル規定ノ適用ナシ從テ之ヲ理由トシテ爲シタル訴訟手續受繼ノ申立ハ不法ナリトス

（反　對）

先代ノ債務ヲ訴求セラレタル者カ訴訟進行中退隱スルトキハ該退隱ハ先代ノ債務ニ關シ之ヲ死亡ト同視スヘキモノナレハ之ニ因リ訴訟手續ハ中斷セラルルモノトス

隱居ニ因ル家督相續人ハ被相續人ノ死亡セシ場合ト同シク隱居者ノ訴訟手續ヲ受繼セサルヘカラス

三八	一三〇〇	四四	三四八
四四	四八六	三八	一一六
三〇	七八	四四	七七〇
九		六	
三四	二六	三〇	二六〇
六		三	一二七八
四	七五六	三〇	八三七
九		三〇	一
六			

○入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ民事訴訟法中訴訟手續ヲ中斷スヘキ規定ナキノミナラス債權者ハ民法上尙ホ引續キ前戶主ニ對シ請求ヲ爲シ得ヘキ權利アルヲ通例トス從テ訴訟手續ノ中斷ニ關スル規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○養子カ養父ヨリ分家シテ戶主ト爲リタル以上ハ縱令兩者間ニ於テ離緣ノ確定判決アリトスルモ前者ノ家督相續ハ之ニ因リ開始セラレタルモノト云フヲ得ス從テ之ヲ理由トシテ爲シタル訴訟受繼ノ申立ハ不適法ナリ

○從參加人ト其附隨シタル當事者ノ相手方トノ關係ニ於テハ訴訟手續ノ中斷及ヒ受繼ノ規定ノ適用アルモノトス

（第百七十八條）

『第百七十八條』

○原告若クハ被告ノ死亡ニ因ル訴訟手續ノ中斷ハ受訴裁判所ニ書面ヲ提出シテ其通知ヲ爲スニ非サレハ裁判所ニ於テ其中斷ヲ爲スヘキモノニ非ス

（同三三）

訴訟手續ノ中斷ハ死亡者ノ相續人ノ利益ノ爲メ設定セラレタルモノナルニ依リ其相續人ヨリ中斷ノ通知ヲ爲スニ非サレハ訴訟手續ハ繼續スヘキモノトス

○訴訟當事者タル會社カ解散シタル場合ニ於テ其權利義務ヲ包括的ニ承繼スル者アルトキハ自然人ノ死亡ニ準シ訴訟手續ヲ中斷スヘキモノトス從テ相手方ヨリ訴訟受繼ノ申立ヲ爲シタル以上ハ裁判所ハ該承繼人ヲ呼出シ承繼ニ關スル訴訟手續ヲ進行セサルヘカラス

○訴訟當事者ノ一方カ死亡シタルトキハ其家督相續人ハ限定承認ヲ爲シタル場合ト雖モ訴訟手續ヲ受繼スルノ義務アルモノトス

○隱居シタル前戸主ニ對スル民法第九百八十九條第一項ニ依ル債務辨濟請求ノ訴訟中被告タル隱居者カ死亡シタルトキ其訴訟手續ヲ受繼スヘキ者ハ其遺產相續人ニ非スシテ隱居ニ因リ家督ヲ相續シタル戸主ナリトス

○民事訴訟法第百七十八條ニ所謂承繼人トハ訴訟手續上其手續ヲ爲シタル先代ノ權利義務ヲ承繼スル者ヲ指稱スルモノトス從テ先人ノ權利義務カ實體法上其一身ニ專屬シ相續人ニ於テ承繼スヘキモノニ非サル場合ト雖モ既ニ繫屬シタル訴訟ハ常ニ必スシモ先代ノ死亡ニ因リ當然消滅セス其訴訟ニ於テ當事者間ニ訴訟費用ノ權利義務ヲ生シタル以上ハ尙ホ之カ負擔者ヲ定ムル必要アルヲ以テ訴訟手續ハ相續人ニ於テ受繼スヘキモノトス

四一　八四四
四二　九〇二
四四　一三三八
五　二四七〇

○承繼人カ現ニ其訴訟手續ヲ受繼シテ自ラ之ヲ續行シ又ハ訴訟代理人ヲシテ續行セシメ原告被告ノ新法律上代理人其承繼人ノ法律上代理人カ自身ニ又ハ訴訟代理人ヲ以テ現ニ訴訟行爲ヲ爲シ其訴訟手續ヲ續行シタル事實アル以上ハ有效ニ訴訟手續ノ受繼アリタルモノト爲スコトヲ得ヘク特ニ受繼ノ申立ヲ爲サス又ハ任設ヲ通知セサリシノ故ヲ以テ訴訟手續ノ受繼ナシト云フヲ得ス

（反對）死亡シタル當事者ノ一方ノ相續人カ訴訟手續ノ中斷ヲ爲サス直ニ訴訟ノ繼承人トシテ出廷シタル場合ニ於テ裁判所カ相手方ニ其事實ヲ告ケス繼承人ヲ當事者トシテ裁判ヲ爲スハ不法ナリトス

（聯）○當事者ノ一方カ上訴ヲ爲スニ當リ相手方ニ中斷ノ原因生シタル場合ニ於テ上訴ノ申立ト同時ニ相手方ニ對シ受繼ノ爲メノ呼出ヲ申立テ又ハ訴訟手續ヲ續行セシコトヲ新法律上代理人ニ通知セサリシトキト雖モ口頭辯論前ニ之カ補正ヲ爲シタル以上ハ該上訴ハ其時ヲ以テ有效ニ成立スルモノト解スルヲ相當トス從テ相手方ハ口頭辯論ニ於テ責問權ヲ行使シ上訴ノ無效ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

（反對）

三〇　六
六　三七
六　二三二

第一審ニ於ケル敗訴ノ當事者カ判決言渡後ニ死亡シタルトキハ其承繼人ハ控訴裁判所ニ對シ
運クモ控訴狀提出ト同時ニ訴訟受繼ノ手續ヲ爲ササルヘカラス
第一審判決ノ送達後未タ控訴ノ提起アラサル間ニ訴訟手續中斷シタル場合ニ於テハ其中斷ノ
原因勝訴者ニ在ルト敗訴者ニ在ルトヲ問ハス先ツ受繼ノ手續ヲ完了シテ後控訴ヲ提起スルヲ
以テ通例トス然レトモ受繼ノ書面又ハ受繼ノ爲メ承繼人ノ呼出ヲ申立ツル書面ヲ控訴狀ト共
ニ提出スルトキハ其手續ヲ適法ナルモノト看做スコトヲ得

（聯）

○第一審判決ノ送達ト同時ニ訴訟手續ノ中斷セラレタル場合ニ於テ承繼人ハ受繼ニ付キ特別ノ手續ヲ爲ササルトキト雖モ先代ノ家督相續人トシテ他ノ共同訴訟人ト共ニ控訴ヲ提起シ訴訟手續ヲ實行シタル以上ハ之ニ依リ有效ニ先代ノ訴訟手續ヲ受繼キタルモノトス

○抗告手續ニ於テ相手方ノ死亡ニ因ル手續ノ中斷アリタルトキハ民事訴訟法第百七十八條ノ準用ニ依リ抗告人ハ裁判所ニ對シ相手方ノ承繼人ヲシテ手續ヲ續行セシムヘキ旨ノ申立ヲ爲スヘク裁判所ハ其申立ニ付キ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○親族會員カ其資格ニ於テ訴訟ノ當事者ト爲リ訴訟進行中死亡シタルトキハ之ニ依リ其訴訟手續ハ中斷スルモノトス

○死亡シタル親族會員ノ補缺員トシテ選定セラレタル親族會員ハ素ヨリ前親族會員ノ權利義務ヲ承繼スル意義ニ於テハ承繼人ニ非スト雖モ親

四一　六八
四二　一三
六　一六八八
七　一四七
七　一〇四七

（第百七十九條）

族會ハ未成年者ノ法定機關ニシテ其會員ハ之カ構成員ナレハ補缺會員ハ前會員ノ有シタル法定ノ地位ヲ承繼スル意義ニ於テ普通ノ場合ニ於ケル承繼人ト同一視シ訴訟手續ヲ承繼スルモノト爲ササルヘカラス

○共同訴訟人中ノ或人カ死亡シタル場合ニ於テ他ノ共同訴訟人カ其死亡シタル者ノ承繼人ヲ訴訟手續ノ受繼及ヒ本案辯論ノ爲メ呼出ノ申立ハ民事訴訟法ノ認メサル所ナリトス

『第百七十九條』

○破產管財人カ破產財團ニ關シテ訴訟ヲ提起シタル後破產宣告取消サレ破產管財人ノ資格消滅セル場合ニ於テハ破產者タリシ權利者本人其訴訟手續ヲ受繼クヘキモノトス

○民事訴訟ノ繫屬中其當事者一方ノ財產ニ付キ破產ノ開始アリタル場合ト雖モ其訴訟カ破產財團ニ關係ヲ有セサルトキハ訴訟手續ハ中斷セサルモノトス

○會社ノ清算中其財產ニ付キ破產ノ開始アリタル場合ニ於テモ破產財團ニ關セサル訴訟ニ付テハ依然トシテ會社ヲ代表スヘキ清算人之ヲ行フコトヲ得ルヲ以テ其訴訟手續ハ中斷セサルモノトス

（第百八十條）

『第百八十條』

七　一〇四七
五　二四六八
四三　三三一
四　一四五
四　一四五

（縱百八十）

○當事者ノ法定代理人タル資格ヲ以テ受ケタル判決ニ對スル上告ハ其法定代理人之ヲ提起セサルヘカラス若シ其者ノ法定代理權消滅スルトキハ民事訴訟法第百八十條ノ規定ニ依ルヘキモノトス　三四　五

○訴訟手續ノ受繼ハ訴訟カ現ニ裁判所ニ繫屬セル場合ニシテ其手續ノ中斷又ハ中止アリタルトキニ限ル隨テ法律上代理人ニ變更ヲ生シタル爲メ訴訟受繼ノ手續ヲ爲スヘキコトモ亦訴訟ノ繫屬中ニ限ラレタルモノト云ハサルヘカラス　三四　九

○合資會社ノ支配人カ法律上代理人トシテ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ會社解散シタルトキハ訴訟手續ハ解散登記ノ日ヲ以テ中斷セラルルモノトス　四〇　四一五

○民事訴訟ニ付キ國ヲ代表スル官廳カ訴訟中新官制ノ公布ニ因リ廢止セラレ新設ノ官廳ニ於テ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付キ國ヲ代表スルコトト爲リタルトキハ舊官廳ノ法律上代理人ノ代理權ハ之ト同時ニ消滅シ訴訟手續中斷スルモノトス　四一　二六六

（氏聽）（百十）

○當事者ノ法律上代理人カ訴訟代理人ニ委任シテ第二審ノミノ訴訟行爲ヲ爲サシムル場合ニ於テ其訴訟繫屬中法律上代理人ノ代理權消滅シタルトキハ爾後訴訟代理人カ第二審判決ノ送達ヲ受クルト同時ニ委任消滅シテ訴訟手續中斷スルモノトス　四一　七一〇

○株式會社ノ取締役ハ各自會社ヲ代表スルノ權限ヲ有スルモノナレハ縱令訴訟ノ局ニ當レル取締役カ解任セラルルモ他ニ解任セラレサル者アルトキハ訴訟手續中斷スヘキモノニ非ス　四九　三五八

（同三三旨）

株式會社ノ取締役ハ會社ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上裁判外ノ行爲ニ付キ各自ニ會社代表ノ權限ヲ有スルモノナレハ訴訟事件ノ法定代理人タリシ取締役カ上告提起ノ當時偶代理權ヲ喪失スルモ他ニ取締役アルトキハ訴訟手續ヲ中斷スヘキモノニ非ス　四五　一五五

○衆議院議員選擧法第八十條ニ依リ選擧長トシテ選擧訴訟ノ被告ト爲リタル府縣知事ハ國ノ法律上代理人ナルカ故ニ訴訟中ニ於テ其交迭アリタルトキハ訴訟手續ノ中斷ヲ來スモノトス　四　一六四四

○訴訟上取締役ヲ以テ代表者ト爲セル株式會社カ訴訟ノ進行中解散シタルトキト雖モ其取締役カ法定清算人トシテ就職シタル場合ニハ會社ノ法定代理人タル資格ニ何等ノ變動ナキヲ以テ訴訟手續ハ中斷セサルモノトス　五　五一三

○新法律上代理人タル者カ原審ニ於テ被上告人ノ代表者トシテ現ニ訴訟行爲ヲ爲シタルニ拘ハラス上告人ハ何等異議ヲ留メスシテ辯論ヲ爲シ判決ヲ受ケタル以上ハ上告人ハ其責問權ヲ拋棄シタルモノニシテ訴訟

手續ノ受繼ハ其效力ヲ生シタルモノトス

（聯）○承繼人カ現ニ其訴訟手續ヲ受繼シテ自ラ之ヲ續行シ又ハ訴訟代理人ヲシテ續行セシメ原告被告ノ新法律上代理人其承繼人ノ法律上代理人カ自身ニ又ハ訴訟代理人ヲ以テ現ニ訴訟行爲ヲ爲シ其訴訟手續ヲ續行シタル事實アル以上ハ有效ニ訴訟手續ノ受繼アリタルモノト爲スコトヲ得ヘク特ニ受繼ノ申立ヲ爲サス又ハ任設ヲ通知セサリシノ故ヲ以テ訴訟手續ノ受繼ナシト云フヲ得ス

（反對）訴訟手續ノ進行中會社取締役全員ノ改選アリタル場合ニ於テハ新任ノ取締役カ其任設ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ訴訟手續ヲ續行セントスルコトヲ新任取締役ニ通知スルマテ訴訟手續ハ中斷スルモノトス

（聯）○當事者ノ一方カ上訴ヲ爲スニ當リ相手方ニ中斷ノ原因生シタル場合ニ於テ上訴ノ申立ト同時ニ相手方ニ對シ受繼ノ爲メノ呼出ヲ申立テ又ハ訴訟手續ヲ續行センコトヲ新法律上代理人ニ通知セサリシトキト雖モ口頭辯論前ニ之カ補正ヲ爲シタル以上ハ該上訴ハ其時ヲ以テ有效ニ成立スルモノト解スルヲ相當トス從テ相手方ハ口頭辯論ニ於テ責問權ヲ行使シ上訴ノ無效ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

六　六　四五　六

七四　二三二　四四三　二三二

（聯）○原告被告ノ法律上代理人ノ代理權カ任期ノ滿了其他ノ理由ニ因リテ消滅シタルモ其代理人カ改選其他ノ理由ニ因リ更ニ代理權ヲ授與セラレタル場合ニ於テハ其代理人ハ其儘訴訟行爲ヲ承繼續行スルコトヲ得ヘク特ニ訴訟手續ノ中斷及ヒ其受繼ニ關スル手續ヲ踐行スル必要ナキモノトス

（同主旨）○株式會社ノ解散シタル場合ニ於テ株主總會カ前代理人タリシ取締役ヲ更ニ清算人ニ選任シ新人ニ代理權ヲ授與シタルトキト雖モ其者ハ會社ノ法律上代理人トシテ前後ヲ通シ代理權ヲ有スルモノナレハ特ニ訴訟手續ノ中斷及ヒ其受繼ニ關スル手續ヲ踐行スル要ナク其儘訴訟行爲ヲ承繼續行スルコトヲ得ルモノトス

（反對）判決言渡後當事者タル株式會社ノ法律上代理人カ株主總會ニ於テ改選セラレタルトキハ其代理權ハ一旦消滅スルモノナルヲ以テ訴訟手續中斷スルモノトス

○第一審判決正本ノ送達後法律上代理人ノ死亡ニ因リ訴訟手續カ中斷セラレタル場合ニ於テ當事者ノ一方カ控訴ヲ提起シ相手方ノ新法律上代理人ニ對シテ訴訟手續ノ續行ヲ爲サンコトノ通知ヲ爲シ新法律上代理人カ辯論期日ニ訴訟代理人ヲ出頭セシメテ現ニ訴訟行爲ヲ爲シ其訴訟手續ヲ續行シタル以上ハ訴訟手續ノ受繼アリタルモノト看做スヘク特

六　六　四二　六

二三二　一〇九　八六九

ニ形式上受繼ノ申立ヲ爲スコトヲ要セサルモノトス

『第百八十三條』

（第百八十三條）

○訴訟當事者ノ死亡シタル場合ニ其訴訟代理人ニ於テ委任消滅ノ通知ヲ爲ササルモ之カ爲メニ死亡者ノ相續人カ既ニ相當ニ爲シタル訴訟受繼ノ手續ハ無效ニ歸スヘキモノニ非ス　六

○訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ委任者ノ死亡ニ依ル委任消滅ノ通知及ヒ訴訟手續受繼ニ關スル規定ハ共ニ相手方ヲ保護スルノ旨越ニ外ナラス從テ相手方カ承繼人ノ訴訟手續ノ受繼ヲ默認シテ其手續ヲ續行シタルトキハ委任ノ消滅及ヒ訴訟手續ノ受繼ハ其效力ヲ生スルモノトス（第百八十七條三四年六卷二六頁參照）　三三　三　四一

（刑）○會社ノ解散ニ由リ其會社ノ代理人ノ代理權ハ消滅スルモ訴訟代理人ヲ以テ爲シタル訴訟ニシテ相手方ヨリ何等ノ申立ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ訴訟手續ヲ停止スヘキモノニ非ス　三三　一　五

（聯）○訴訟代理人ヲ以テ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニハ訴訟委任消滅ノ通知ニ依リ訴訟手續ヲ中斷スルモ判決言渡後ハ訴訟委任ノ消滅ト同時ニ訴訟手續ヲ中斷スルモノトス　三四　一　二一

（刑）○民事被告人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ其事件ノ第二審繫屬中ニ死亡シタルトキハ控訴判決ニ對スル原告人ノ上告期間ハ訴訟手續受繼屆ノ送達ノ日ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス　三五　四　六

○民事訴訟法第六十九條及ヒ同第百八十三條第一項ニ定メタル委任消滅ノ通知ニ付テハ一定ノ方式存セサルヲ以テ事實上其通知ノ效果アラハ相手ニ對シテ委任消滅ノ效ヲ生スルモノトス　三八　一三〇三

○訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス當事者ノ一方カ死亡シタルニ因リ委任消滅ノ通知書及ヒ訴訟受繼ノ書面ヲ同時ニ相手方ノ訴訟代理人ニ送達シタル場合ニ於テハ訴訟手續ハ一旦中斷シ更ニ直ニ其進行ヲ開始シタルモノト解スヘキモノトス　四三　八八四

○民事訴訟法第百八十三條所定ノ委任消滅ノ事由ヲ生シ未タ其通知ヲ爲ササル爲メ訴訟手續ノ中斷ヲ來ササル場合ト雖モ承繼人又ハ新法律上代理人カ進テ訴訟手續ヲ受繼スルコトハ之ヲ許スヘキモノトス　四五　五八

○如上ノ場合ニ於テ府縣知事ノ交迭ハ裁判所ニ顯著ナル事實ナルカ故ニ訴訟手續ハ訴訟代理人ノ代理權カ判決ノ送達ニ依リ消滅シタル後ハ委任消滅ノ通知ヲ待タスシテ其時ヲ以テ中斷スルモノトス（第百八十條四年一六四四頁參照）　四　一〇三二　四　一八四

○訴訟代理人カ第一審ニ於ケル訴訟行爲ノ外控訴審ノ訴訟行爲ヲ爲ス特

別委任ヲ受ケタルトキハ其代理權ハ第一審判決ノ送達ニ因リテ消滅セサルカ故ニ中斷ノ事由カ原告若クハ被告ニ生シタルトヲ問ハス委任消滅ノ通知アル迄ハ訴訟手續ハ中斷セラレサルモノトス　五　一八七

○第一審判決ノ送達ヲ受ケタル當事者カ訴訟代理人ニ控訴ノ提起及ヒ第二審ノ訴訟行爲ヲ委任シタル後訴訟能力ヲ喪失セル場合ト雖モ相手方ニ對シ委任消滅ノ通知ヲ爲ササル以上ハ訴訟手續中斷セサルヲ以テ訴訟代理人カ其委任ニ基キテ提起シタル控訴ハ中斷中ノ控訴ニ非サルモノトス　五　一二六五

（同主旨）

代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ當事者ノ中一方カ死亡シタルトキハ他ノ一方ニ對シ委任消滅ノ通知アルマテハ其訴訟手續ハ中斷セラレサルモノトス　三〇　六　三七

○訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ當事者ノ一方カ死亡スルモ裁判所ニ屆出テタル上相手方ニ之ヲ通知セサレハ訴訟手續ハ中斷セス　三三　三　一一〇

訴訟代理人ヲ以テ爲ス訴訟ニ在テハ法律上代表者ノ代理權カ消滅スルモ委任消滅ノ通知アルニ非サレハ訴訟手續ヲ中斷スヘキモノニ非ス　三三　五　九八

當事者ノ法律上代理人カ訴訟代理人ニ委任シテ訴訟行爲ヲ爲サシメタル場合ニ在リテハ爾後法律上代理人ノ代理權消滅ニ歸シタルトキト雖モ其訴訟委任消滅ノ事ヲ適法ニ通知セサル以上ハ訴訟代理人ハ依然トシテ有效ニ訴訟行爲ヲ爲シ得ルモノトス　三八　一五八九

未成年者ノ法定代理人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テハ縱令未成年者カ成年ニ達シ法定代理人ノ代理權消滅スルモ訴訟委任消滅ノ通知ヲ爲ササル限リ訴訟手續ハ中斷セラレタルモノニ非ス　二　六一四

第一審判決ノ送達ヲ受ケタル當事者カ訴訟代理人ニ控訴ノ提起ヲ委任シタル後其委任ニ基ク控訴提起前ニ死亡スルモ民事訴訟法第百八十三條第一項ノ規定ニ從ヒ委任消滅ノ通知ヲ爲ス迄ハ訴訟手續ノ中斷ヲ生スルモノニ非サルヲ以テ訴訟代理人ノ控訴提起ハ中斷中ノ控訴ニ非ス　三　四五七

○民事訴訟法第六十九條及ヒ第百八十三條ノ規定ハ破產ノ場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス　五　一四八五

（聯）

○訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ實體上訴訟手續中斷ノ原因生シ原告被告ノ承繼人其法律上代理人又ハ新法律上代理人カ訴訟手續ヲ承繼スルニハ常ニ必スシモ民事訴訟法第百八十三條ニ依リ先ツ委任消滅ノ通知ヲ發シ以テ中斷ノ效力ヲ生セシメタル後ニ爲スコトヲ要セス直ニ其訴訟手續ヲ承繼シ續行スルコトヲ得ルモノトス　六　二二一

（反對）

控訴審ニ於ケル訴訟代理人カ控訴判決ノ送達ヲ受クルニ際シテ既ニ法律上代理ノ變更アリシトキト雖モ其訴訟代理人ハ上告審ニ對シ委任消滅ノ通知ヲ爲ス權限ヲ有セサレハ該判決ノ送達ヲ受クルト同時ニ訴訟手續ハ當然中斷スルモノトス　四二　三二一

訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ當事者本人死亡シタルトキヤ委任消滅ノ通知ニ先タチ訴訟手續受繼ノ申立ヲ爲スモ受繼ノ效力ヲ生スルコトナシ然レトモ相手方カ其受繼申立ノ書面ト委任消滅ノ通知書トヲ受領シ異議ヲ留メスシテ辯論ヲ爲シ且裁判ヲ受ケタルトキハ責問權ヲ喪失シタルモノト謂ハサルヲ得ス

（聯）

訴訟代理人ニ依リ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ本人タル會社カ消滅シタルトキト雖モ委任消滅ノ通知アラサル間ハ訴訟手續中斷セサルヲ以テ訴訟手續受繼ノ申立ヲ爲スモ受繼ノ效力ヲ生スルモノニ非ス

原告被告ノ法律上代理人ノ代理權カ任期ノ滿了其他ノ理由ニ因リテ消滅シタルモ其代理人カ改選其他ノ理由ニ因リ更ニ代理權ヲ授與セラレタル場合ニ於テハ其代理人ハ其儘訴訟行爲ヲ承繼續行スルコトヲ得ヘク特ニ訴訟手續ノ中斷及ヒ其受繼ニ關スル手續ヲ踐行スル必要ナキモノトス

（同主旨）

株式會社ノ解散シタル場合ニ於テ株主總會カ前代理人タリシ取締役ヲ更ニ清算人ニ選任シ新ニ代理權ヲ授與シタルトキト雖モ其者ハ會社ノ法律上代理人トシテ前後ヲ通シ代理權ヲ有スルモノナレハ特ニ訴訟手續ノ中斷及ヒ其受繼ニ關スル手續ヲ踐行スル要ナク其儘訴訟行爲ヲ承繼續行スルコトヲ得ルモノトス

（反　對）

判決言渡後當事者タル株式會社ノ法律上代理人カ株主總會ニ於テ改選セラレタルトキハ其代理權ハ一旦消滅スルモノナルヲ以テ訴訟手續中斷スルモノトス

（第百八十四條）

『第百八十四條』

○戰爭ニ因リ訴訟當事者ノ現在地ト受訴裁判所トノ間ノ平時通常人ノ依ルヘキ交通機關カ全ク缺乏セルトキハ縱令異常ノ通路ハ斷絕セサルモ裁判所ハ訴訟手續ノ中止ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

○民事訴訟法第百八十四條ヲ適用スルニハ當事者ハ必スシモ兵役義務ニ基キ戰務ニ服スルコトヲ要セス縱令現役豫備後備又ハ補充兵役ニ關係ナク全然自己ノ志願ニ依リ戰務ニ服スル場合ニ在リテモ亦同條ヲ適用スヘキモノトス

○民事訴訟法第百八十四條ニ所謂戰時兵役ニ服スルトキトハ廣ク戰時ニ於テ兵役ニ服スル場合ヲ指稱シ必スシモ現ニ出征シテ戰爭ニ從事シ又ハ受訴裁判所ト交通ノ絕エタル地ニ在ルコトヲ要セス

○闕席判決ニ對シ故障ノ申立アリタル後訴訟手續中止ノ事由發生スルトキハ裁判所ハ之カ中止ヲ命シ得ルモノニシテ其訴訟カ代理人ヲシテ代テ進行セシメ得ルモノナルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

（第百八十五條）

『第百八十五條』

○第一審判決送達後訴訟手續中止ノ原因生シ其申請アリタルトキハ第一

○審裁判所ハ受訴裁判所ナルヲ以テ其申請ノ當否ニ付キ同裁判所カ爲シタル裁判ハ有效ナリ

（聯）

（第百八十六條）

『第百八十六條』

（聯）○如上ノ場合ニ於テ上訴其他ノ期間ノ進行ハ民事訴訟法第百八十六條第一項ニ依リ中斷ノ終リタル後即チ訴訟手續ノ明示又ハ默示ノ受繼アリタル時ヨリ開始スルモノトス從テ中斷中ニ爲シタル判決ノ送達ニ對シ書問權ノ抛棄アリタルトキト雖モ上訴期間ハ判決ノ送達ヨリ起算スルコトヲ得スシテ當事者カ訴訟手續ヲ受繼シタル時ヲ以テ更ニ其進行ヲ開始スルモノトス（第百八十三條六年二二二頁參照）

（聯）○訴訟當事者ハ相手方又ハ裁判所ノ爲シタル中斷中ノ訴訟行爲ニ對シ其無效ヲ主張スルノ權利ヲ有スト雖モ之ヲ主張スルト否トハ其自由ノ權内ニ屬スルモノトス從テ訴訟ノ進行中當事者ノ一方カ進テ中斷中ノ訴訟行爲ヲ承認シ又ハ何等ノ異議ヲ主張スシテ之ヲ續行シタルトキハ所謂責問權ノ抛棄ニ因リ其無效ヲ主張スルノ權利ヲ喪失スルモノトス

（反對）

訴訟當事者ノ一方カ第二審判決後ニ死亡シ其承繼人ニ於テ未タ訴訟ヲ受繼セサル間ニ他ノ一方ヨリ提起シタル上告ハ不適法ニシテ承繼人ニ對シ何等ノ效力ヲモ有セサルモノトス

（刑）民事被告人カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ該事件ノ第二審繫屬中ニ死亡シタルトキハ縱令委任消滅ノ通知ヲキモ訴訟手續ハ控訴判決ノ言渡以後中斷セラルルカ故ニ民事原告人ハ該判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

訴訟手續中斷中ニ爲シタル送達ハ無效ナリ

○訴訟手續中斷中ニ提起セラレタル上告ハ不適法ナリ

訴訟手續ノ中斷中ニ爲シタル抗告棄却ノ決定ハ無效ナルモノトス

第一審判決ノ言渡後訴訟當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟カ破産財團ニ關スルトキハ破産ニ付テノ規定ニ依リ手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷スルモノトス從テ其受繼前ニ爲シタル判決ノ送達及ヒ控訴ノ提起ハ無效ナリ

（聯）○訴訟代理ヲ委任スル行爲ハ訴訟行爲ヲ爲ス行爲ニ準拠行爲ニシテ訴訟行爲ニ非サレハ訴訟手續中斷中ニ爲スモ無效ニ非ス

○必要的共同訴訟人中ノ一人ノ死亡ニ因リ訴訟手續中斷シ其中斷中ニ爲シタル訴訟手續ハ無效ト爲ルヘキモノナリト雖モ相手方ハ其中斷中ニ爲シタル訴訟行爲ニ付キ何等ノ異議ヲ主張セスシテ其儘訴訟行爲ヲ踐行シタルトキハ之ニ依リ責問權ヲ抛棄シ其中斷中ノ訴訟行爲ヲ以テ無效ナリト主張スル權利ヲ喪失シタルモノトス

（第百八十七條）

『第百八十七條』

○訴訟當事者ノ一方カ死亡スルモ民事訴訟法第百八十三條ニ依リ訴訟手

續ノ中斷ヲ爲ササルトキハ同法第百八十七條ノ規定ニ從ヒ受繼ノ手續ヲ爲スヲ要セス　三〇　六　三七

○訴訟代理人ヲシテ訴訟ヲ爲サシムル場合ニ於テ委任者ノ死亡シタルトキハ其代理委任消滅ノ通知書ヲ受訴裁判所ニ差出シ之ヲ相手方ニ送達セサル間ハ中斷ノ效力ヲ生セサルモノトス　三三　二　八五

○訴訟受繼ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達セサルモ相手方カ裁判所ニ於テ之ヲ受領シ異議ナク辯論ヲ爲シタルトキハ送達ナキヲ理由トシテ原裁判ヲ批難スルヲ得ス　三四　六　二六

（聯）○訴訟手續受繼ノ書面ハ裁判言渡後ハ遲クトモ上訴狀ト共ニ上訴ヲ受クヘキ裁判所ニ提出スヘキモノトス

○訴訟受繼ハ其書面ヲ裁判所ニ差出スニ因リテ其效力ヲ生シ之ヲ相手方ニ送達スルコトハ要スルニ相手方ニ其受繼ヲ知ラシムルカ爲メニ外ナラサルモノトス　三五　四　六

○民事訴訟法第百八十七條ノ規定ハ訴訟手續ノ受繼ヲ相手方ニ知ラシメ且受繼ニ付キ後日紛爭ナカラシメンカ爲メニ外ナラス故ニ受繼者及ヒ其相手方カ連署ヲ以テ受繼ノ事實ヲ受訴裁判所ニ届出テタル場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ同條ノ手續ヲ踐行スルノ責アルモノニ非ス　三五　四　七四　三六　一二七四

○判決ノ送達ニ依リ事件カ控訴裁判所ノ繫屬ヲ離レタル後控訴ノ勝訴者死亡シタルトキハ上告セントスル敗訴者ハ其上告迄ノ間ニ未タ相手方ノ承繼人ヨリ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササルニ於テハ自ラ進テ其受繼ヲ上告裁判所ニ申立テ之カ受繼アリタル後上告ヲ爲スヘキモノトス　四一　四一〇

○訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ法定代理權ノ消滅ニ因ル委任消滅ノ通知及ヒ訴訟手續受繼ノ方法ニ關スル規定ハ畢竟相手方ヲ保護スルノ旨趣ニ外ナラス故ニ口頭辯論ノ爲メニ開カレタル法廷ニ於テ新法律上代理人ヨリ委任消滅ノ通知竝ニ訴訟手續受繼ノ申立ヲ爲シ相手方之ヲ承認シテ其旨ヲ法廷調書ニ明記セラレタルトキハ該通知及ヒ申立ハ其效力ヲ生スルモノニシテ必スシモ更ニ法定ノ方法ヲ履踐スルコトヲ要セス　四二　三五四

○民事訴訟法第百八十七條ニ所謂受訴裁判所トハ訴訟ノ現ニ繫屬シ又ハ繫屬セントスル裁判所ヲ指示スルモノニシテ一旦繫屬シタルモ既ニ其關係ヲ離レタル裁判所ノ如キハ之ニ包含セス　四五　四四三

（同左旨）民事訴訟法第百八十七條ニ所謂受訴裁判所ハ現ニ訴ノ繫屬シ若クハ將ニ繫屬セントスル裁判所ノ義ニシテ一旦繫屬シタルモ既ニ其關係ノ絶ヘタル裁判所ノ謂ニ非ス　四二　二一六

○訴訟手續中斷中控訴ノ提起ヤリタルニ際シ被控訴人ヨリ訴訟手續受繼ノ書面ヲ控訴審ニ差出シ該書面カ控訴人ノ訴訟代理人ニ送達セラレタルトキハ訴訟受繼ノ手續ハ適法ナルヲ以テ控訴期間ハ此時ヨリ進行ヲ始ムルモノトス　四

○判決ノ送達ト同時ニ訴訟手續ノ中斷セラレタル場合ニ於テハ受繼ニ關スル手續ハ上訴ノ繫屬スヘキ裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノトス　六

（同左旨）

終局判決ノ送達後訴訟手續カ中斷セラレタルトキハ承繼人ノ受繼ニ關スル書面ハ上訴ヲ受タヘキ裁判所ニ之ヲ提出スヘキモノトス故ニ相手方カ承繼人ナシテ受繼ヲ爲サシメントスル申立モ亦同裁判所ニ之ヲ爲スヘキハ當然ナリ　三九

終局判決ノ送達後訴訟手續中斷セラレタルトキハ受繼ニ關スル書面ハ其差出人カ承繼人ナル場合ト否ト勝訴者ナル場合ト否トニ拘ハラス又既ニ上訴ノ提起アル場合ト否トニ論ナク之ヲ上訴裁判所ニ差出スヘキモノトス　四〇

（第百八十八條）

『第百八十八條』

○裁判所カ指定シタル中間判決言渡ノ期日ニ當事者雙方出頭セサルモ之ニ因リテ訴訟手續ヲ休止スヘキモノニ非ス　二五

○上告裁判所カ爲シタル移送ノ言渡ニ依リ口頭辯論ノ期日ノ申請ニ付テノ期間ニ民事訴訟法第百八十八條第三項ヲ適用シタルハ不法ノ決定ナリ　六

○民事訴訟法第百八十八條ハ口頭辯論ヲ以テ終結スヘキ訴訟ノ休止ニ於ケル規定ニシテ其第二項ニハ明カニ口頭辯論ノ期日ニ於テ云云ト特記シアルヲ以テ其第三項ニ於ケル訴訟取下ト看做スヘキ規定ハ法律ニ於テ之カ適用又ハ準用ヲ許スノ明文ナキ準備手續ノ場合ニハ其適用ハ勿論準用ヲモ爲シ得ヘカラサルモノトス　三四

○民事訴訟法第百八十八條第三項ハ訴訟事件ノ處理上便宜ノ爲メ設ケタルモノニシテ當事者ノ爲メニ設ケタル規定ニ非サレハ其一个年ノ期間ハ里程猶豫ノ規定ニ從ヒテ之ヲ伸長スヘキモノニ非ス　一〇二

○控訴審ニ於テ民事訴訟法第百八十八條第三項ヲ適用スルニ付テハ控訴ヲ取下ケタルモノト看做スヘキモノニシテ訴ヲ取下ケタルモノト看做スヘキモノニ非ス　四三　四三八

（第百八十九條）

『第百八十九條』

○民事訴訟法第百八十九條ニ所謂此法律ノ規定ニ基ク訴訟手續ノ中止トハ同法第百二十一條ノ規定ニ基ク辯論中止ノ場合ヲモ包含スルモノナレハ當事者カ辯論人中止ヲ申立テタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ拒ミタ　四　六九八

ルトキハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二編　第一審ノ訴訟手續

○正當ナル要求ト否ラサルモノトヲ一齊ニ請求シタリトテ之ヲ請求ノ理由ナシト云フコトヲ得ス　二五　三　五八

○甲乙間曾テ締結セシ所ノ契約ニ基キ甲者乙者ニ對シ地所ヲ買戻サントスルニ方リ金額ノ點ニ付キ爭訟ト爲リ結局甲者主張ノ金額ヲ以テハ買戻スヲ得ストノ判決ヲ受ケタリ是ニ於テ甲者ハ判決ニ示ス所ノ金額即チ乙者主張ノ金額ヲ以テ買戻サント求メタルニ乙者之ヲ肯セス依テ甲者ヨリ再ヒ訴訟ヲ提起スルニ至リタリ此事實ニ對シ一事再理ノ原則ヲ適用セシハ不當ナリ如何トナレハ前裁判ハ金額ノ點ノミノ紛爭ヲ判決セシモノニシテ乙者主張ノ金額ニ由ラントスルモ尙ホ買戻スヲ得サルヤ否ニ付キ判決セシ事ナキヲ以テナリ　二七　六六

○契約取消ノ訴訟ハ必スシモ其契約關係者ヲ同時ニ被告ト爲ササルモ成立ツヘキモノトス　二八　五　一一

○訴訟ハ起訴當時ノ權利關係ヲ定ムルモノナレハ其後ニ發生シタル事由ノ爲メ當然消滅スヘキモノニ非ス（第一章第二節四〇年一五九頁參照）　二九　三　一二六

○共同訴訟人ハ各自ノ受ケタル損害高ヲ併合又ハ區分シテ要償スルコトヲ得　二九　四　七八

○買戻契約期限內買戻ニ付キ出訴シタルモ形式上不適法トシテ却下セラレタル者ハ買戻期限經過後ト雖モ更ニ出訴スルコトヲ得ヘキモノトス　二九　五　六七

○口頭辯論ノ續行中列席裁判官ニ變更アリ一定ノ申立及ヒ事實ノ取調ニ先チ證人訊問ヲ爲スモ訴訟手續ニ違背シタル不法ナシ　二九　六　一

○磯漁場區域ノ確定竝ニ之ニ關シ行政官廳ニ提出スヘキ書面ニ調印ヲ請求スル訴訟ハ財產ノ利益ヲ得ントスルモノニ外ナラサルカ故ニ財產權上ノ請求ニ付テノ訴ニ非スト云フコトヲ得ス　二九　一〇　九八

○犯罪ヲ原因トスル損害賠償ノ訴ハ公訴附帶ノ私訴トシテ刑事裁判所ニ若クハ單獨ノ民事訴訟トシテ民事裁判所ニ提起スルハ被害者ノ隨意ナリ　二九　一一　四九

○裏書讓渡人ニ對シ爲スヘキ償還請求ノ通知ハ權利發生ノ條件ニ過キスシテ請求ノ原因ニ非ス故ニ二个ノ訴訟カ其償還請求ノ通知ヲ爲シタル日時ニ差異アルモ前訴後訴共ニ其請求ノ原因カ振出人ニ於テ支拂ヲ拒絕シタルニ因リ償還請求ヲ爲スニ在ルトキハ後訴ハ一事不再理ノ原則ニ反スル不當ノ訴訟ナリ　三　三　七七

（同主旨）

同一事件ニテモ請求ノ目的ヲ異ニスレハ一事再理ニ非ス

日的原因及ヒ資格ニ於テ異ナルコトアルニ於テハ當事者中ニ同一ノ人アリタリトテ之ヲ以テ一事再訴ナリト云フコトヲ得ス

前訴ト同一ノ人相對人ニシテ同一ノ目的ナルトキハ縱令更ニ事由ヲ證明スルコトアルモ一事不再理ノ原則ヲ適用シテ之ヲ拒ムヘキモノトス

○小作契約ヲ原因トシテ小作米ヲ請求スルト不當利得ヲ原因トシテ其作得米ヲ請求スルトハ訴訟ノ原因同一ナラス故ニ一事再理ニ非ス

委託物ノ返還若クハ其見積價格ヲ請求シタル者カ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル後更ニ契約違背ヲ主張シ損害賠償ヲ請求シタルトキハ縱令當事者及ヒ目的物ヲ同フスルモ其原因異ナルニ依リ一事再訴ト云フヲ得ス

○今ノ訴訟ノ性質カ實質上同一ナラサルトキハ其請求ヲ證明スヘキ證據カ前後同一ナリトスルモ一事再訴ト云フヲ得ス

○契約又ハ證書ノ存否カ將來自己ノ利害ニ關係ヲ及ホス恐アリ義務者ニ於テ其存在ヲ認メサル場合ニ於テハ縱令契約上未タ實害ヲ生セサルトキト雖モ其權利者ニ於テ義務ノ確認ヲ求ムルコトヲ得ルハ一般法理ノ認ムル所ナリ

○自然ノ水路ヲ流下スル水ノ使用權ハ直接ニ水ノ必要ヲ感スル個人ニ屬スルモノナルニ依リ其權利ノ消長ニ關スル訴訟ハ個人カ主體ト爲リ提

二五　一　六四
二五　三　五八
二六　二　二〇九
二九　一〇　八八
三〇　五　九三
三一　二　一五
三一　五　五四

起スヘキハ當然ニシテ部落團體ノ代表者タル村長ニ於テ干與スヘキモノニ非ス

○民事訴訟上裁判所ノ保護ヲ求ムル目的ハ必ス私法上ノ權利關係ナラサルヘカラス而シテ譜代ナル者ハ法律上禁止セラレタル家格ニシテ私法上ノ權利關係ニ非ス故ニ譜代ニ非サルコトノ確認ノ訴ハ裁判上保護スヘキモノニ非ス

○訴答文例第二十五條ノ規定ノ如キハ民事訴訟法施行ノ日ヲ以テ當然廢止セラレタルモノナリ而シテ連借人中ノ一名ニ對シテ訴訟ヲ提起スルハ其連帶ナル場合ト否トヲ問ハス民事訴訟法上不適法ノモノニ非ス

○所有權確認ノ訴ハ當事者雙方カ自己ニ所有權アルコトヲ主張スル場合ニ非サレハ提起スルヲ得ス

（同主旨）

所有權利ノ一部タル收益權ノ確認ヲ求ムル訴權ハ獨リ其所有者ノミニ屬ス故ニ所有者ト收益者トヲ異ニスル場合ニ於テ收益者ノ權利ハ唯所有者ト收益者トノ人權上ノ關係ニ止マリ收益者ハ他人ニ對シ物權上ニテ其權利ノ確認ヲ求メ得ヘキモノニ非ス

○直接履行又ハ損害要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ト雖モ苟モ確認ノ訴ヲ提起スルニ於テ利益アルトキハ之ヲ許スヘキモノトス

三一　五　八八
三一　八　六
三二　五　一〇八
三二　七　五
三〇　一〇　六三
三三　二　七四

○一方ノ者ノ單獨所有名義ニテ共有スルコトヲ結約シタルトキ他ノ一方ノ者ニ於テ當初ノ契約ニ基キ一方ノ者ニ對シ共有權ノ確認ヲ求ムルハ其權利ヲ保全スル必要ノ訴求ニシテ無益ノ訴ニ非ス　三三七二

○公正證書ニ基ク請求ニ關シ異議ヲ主張スル場合ニ請求ニ關スル異議ノ訴ノ外ニ公正證書ノ效力ニ關スル訴ヲ提起スルノ必要ナシ　三三三一三三

○親子關係ノ如キ身分ノ確定ヲ請求スル訴ハ法律關係ノ確定訴訟ニシテ單純ナル事實ノ確定訴訟ニ非ス故ニ特殊ノ規定ナキモ之ヲ許スヘキモノトス

○或權利關係カ期限ノ到來ニ繫リ且其期限內ニ該權利ノ承繼ニ關シ爭アル場合ノ如キハ所謂權利關係ヲ即時ニ確定スルニ於テ法律上利益ヲ受クヘキモノニ該當スルヲ以テ確定ノ訴訟ヲ許スヘキモノナリ　三三四八四

○舊公證ヲ經タル抵當地カ現今ノ公簿上舊公證ト其土地ノ字番號等ヲ異ニスル場合ニ於テハ抵當權者ハ該公證ニ依リ直ニ强制執行ヲ爲スコトヲ得サルニ付キ豫メ抵當權ノ成立ヲ確定シ置クハ抵當權者ノ爲メ法律上必要ニシテ利益アルモノナレハ斯ル場合ニ於ケル抵當權確認ノ訴ハ之ヲ許スヘキモノトス　三三四一二

○抵當權確認ノ請求ヲ爲シタル後ニ至リ併セテ其抵當權ノ登記書入ヲ請求スルカ如キハ所謂訴ノ申立ノ擴張ナリト雖モ不動產登記法實施後ニ於テハ抵當權確認訴訟ノ判決ノミニ基キ直ニ登記ヲ申請シ得ヘキニ付キ別ニ之カ登記書入ヲ訴求スルノ必要之ナキモノトス　三三六

○當事者雙方カ交番法ヲ以テ年年互ニ養水ヲ引用スル權利ノ限度ヲ確定セントスル訴訟ハ其法律關係ヲ即時ニ確定スルノ利益必要アルモノナレハ給付ノ請求ヲ爲サンヨリハ寧ロ確認ノ請求ヲ爲スヘキモノトス　三三六八二

(聯)○確認訴訟中權利關係ヲ即時ニ確定スルコトニ於テ法律上ノ利益ヲ有スルモノハ給付ノ請求ヲ爲シ得ル場合ト否トヲ問ハス之ヲ許スヲ相當トス　三三一〇一八

(同三三三)

○確認訴訟ハ權利關係ヲ即時ニ確定スルニ於テ起訴者法律上ノ利益ヲ有スヘキモノナルトキハ終局ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ナルト否トヲ問ハス之ヲ許スヲ相當トス　三三一〇一四

確認訴訟ハ起訴者カ給付ノ請求ヲ爲シ得ル場合ニ於テモ單ニ當事者間ノ權利關係ノミヲ即時ニ確定スルニ於テ法律上ノ利益ヲ有シ且之ニ因リテ更ニ給付ノ請求ヲ爲スコトヲ要セサルトキハ之カ提起ヲ許スヘキモノトス　三三九八八

○民法施行後ハ物權ハ登記スルニ非サレハ第三者ニ對シ效力ナキヲ以テ地上權ノ確認訴訟ハ之ヲ許ササルモ民法施行前ニ於テハ登記ヲ爲サス

シテ第三者ニ對シ效力アリシヲ以テ確認ノ訴訟ヲ提起シ得ヘキモノトス

○起訴前競賣ニ依リ既ニ消滅シタル物件ニ付テハ之カ所有權ヲ有スル者ニ於テ其競賣代償ノ償還ヲ求ムル乎又ハ損害賠償ヲ求ムル乎孰レカ其權利ノ在ル所ニ從テ直ニ權利ノ回復ヲ請求シ得ヘキモノナレハ既往ニ遡リテ所有權ノ確認ノミヲ求ムルノ訴ハ許スヘカラサルモノトス

○被告ハ原告カ落水ノ爲メニスル水路使用權ヲ妨害スヘカラストノ訴ハ原告ノ權利保護ニシテ利益アルハ勿論其判決確定シ若シ被告之ニ從ハサレハ民事訴訟法第七百三十三條及ヒ民法施行法第五十四條ノ規定ニ依リ之カ執行ヲ爲スヘキ途アリトス

○豫メ法律關係ノ存否ニ爭アリ判決ヲ以テ其確定ヲ求メントスル場合ニ於テ確定ノ訴ト給付ノ訴ト併セテ提起スルハ適法ナリトス

○訴訟手續上ノ違背ハ後日當事者ニ於テ之ヲ補正スルコトヲ得

○權利關係確定ノ訴訟ハ獨リ積極的ノ場合ニ限ラス消極的ノ場合ニモ之ヲ提起シ得ヘキモノトス

○民事訴訟ニ於テ權利拘束發生後訴訟ノ目的物又ハ其原因ヲ增減變換シ得ルハ同法第百九十五條第三號第百九十六條第二號第三號及ヒ同法第

三三	二	五一
二四	五	一七
二四	五	一三〇
二四	九	八五
二四	九	一三一
二四	九	一八二

二百十一條ニ規定シアル場合ニ限ルモノニシテ他ノ場合ニ於テハ一般ノ手續ニ遵ヒ一ノ訴ヲ以テスルニ非サレハ新ナル請求ヲ爲スヲ得サルモノトス

○財產上ノ訴訟ハ私權ノ侵反アルニ方リ之カ救濟ヲ裁判機關ニ求ムルモノナレハ裁判上ノ救濟ヲ受クルニ付キ現時法律上ノ利益ヲ有スルモノナラサルヘカラス

○係爭山林ノ登記ヲ經サル先買者ハ均シク登記ヲ經サル他ノ買得者ニ對シ其權利ノ確認ヲ求ムルコトヲ得

○相續人選定ノ爲メノ親族會ト相續人タル未成年者ノ爲メノ親族會トハ各特別ノモノニシテ相續人選定ノ親族會ノ決議ニ對スル訴訟ハ其親族會員ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ未成年者ノ爲メノ親族會員ニ向テ之ヲ爲スヘキモノニ非ス

○相續人選定ノ親族會ノ決議取消ヲ請求スルノ權アル主體ト身分登記ノ取消ヲ求メ得ル權利者ト其人ヲ異ニスル場合ニ於テハ或ハ眞正ノ相續人ノ未定若クハ其他ノ事由ニ依リ二箇ノ請求ヲ一ノ訴ニ併合シ得サルコトナキニ非サレハ決議取消請求ノ訴訟ノミヲ獨立シテ提起セシムルノ必要ナシト云フヘカラス

三四	二	三五
三五	四	二一
三五	六	五
三五	九	一一
三五	九	一二七

○給付ノ請求ヲ爲スニ當リ其原因タル權利關係ヲ確定セサレハ請求ノ目的ヲ達シ得ヘカラサル場合ニ於テハ確認ト給付トノ訴ヲ併セテ提起スルコトヲ得ルモノトス　三五

○給付ノ訴ニ對スル判決ニ於テ其訴ノ理由タルヘキ法律關係ノ如何ニ拘ハラス請求ノ棄却ヲ言渡ヘキ場合ニ在リテハ裁判所ハ給付ノ請求ヲ却下スル判決ヲ爲スト同時ニ確認ノ訴ヲモ却下セサルヘカラス　九　一六

○起訴者ニ於テ實際損害ヲ被ムルニ至ルヘキ事實關係アリトスルモ法律上權利ト認メサル事項ニ付テハ民事ノ訴訟トシテ救濟ヲ求ムルコトヲ得ス又慣習法ニ依リ若クハ契約ニ因リ請求權アリ若シ然ラストスルモ不法行爲ニ依リ請求權アリト云フカ如キ一定セサル理由ヲ以テスル訴ハ之ヲ許サス　三六　五一〇

○振出人ヵ裏書人等ノ依賴ニ應シ支拂期日ニハ裏書人ノ一人ヨリ支拂ヲ爲スヘキ約定ヲ以テ約束手形ヲ振出シタルモノト雖モ形式上支拂義務ノ者ハ振出人ニシテ振出人ハ該手形ニ付キ支拂義務ノ存セサルコトヲ確定シ置カサレハ其負擔ヲ免レサルノ虞アルノミナラス本件ハ現ニ支拂擔當者タル裏書人ノ一人ニ於テ振出人ノ要求ニ反抗シ振出人ニ手形債務ノ存在セルコトヲ主張スル事實ナルニ因リ豫メ裏書人等ニ對シ支拂

ノ義務ナキコトヲ確定スルノ必要アリ隨テ此場合ニ於ケル消極的確認ノ訴ハ法律上利益ナシト云フヲ得ス　三六

○民事訴訟法ニ謂フ棄却ナル用語ハ對席判決ト闕席判決トヲ問ハス訴訟法上與ヘタル權利ノ伸張ヲ裁判所カ排斥スル場合ニ限リ之ヲ用ユヘキモノトス　三八　八三一

○裁判所カ民法上ノ權利救濟ヲ求ムル訴其モノ又ハ其訴中ノ請求ヲ排斥スル場合ニ於テハ對席判決ナルト闕席判決ナルトニ論ナク訴又ハ請求ノ却下ヲ言渡スヘキモノトス　三八　八三五

○裁判所カ當事者ノ請求權ノ實質如何ニ鑑ミ其意思ヲ推定シ以テ其選擇シタル訴訟手續ノ種類ヲ定ムルカ如キハ職權ヲ超越セル違法ノ行爲ナリトス　三六　一三二六

○株式申込及ヒ株金四分一ノ拂込ノ終了セサルコトノ確認請求ハ單純ナル事實關係ノ確認ヲ求ムルモノニシテ訴訟法上許スヘカラサルモノトス　三七　一五七

○給付ノ請求ヲ爲スト同時ニ權利確認ノ訴ヲ起シタル場合ニ於テ裁判所カ請求ノ原因ナシトスルトキハ給付ノ請求ヲ棄却シ併セテ確認ノ訴ヲモ却下セサルヘカラス　三七　五〇二

○分割ニ付キ共有者ノ協議調ハサル場合ニ現物ヲ以テ分割シ能ハサルモノナルトキハ其分割ヲ請求スルニ當リ之ヲ競賣ニ付シ賣得金ヲ以テ分割ヲ命セラレンコトヲ併セテ請求スルモ違法ニ非ス　三七　一五四〇

○訴訟關係カ公法上ノ關係ナルヤ又ハ私法上ノ關係ナルヤハ原告ノ主張事實ヲ基礎トシ其事實自體ニ著眼シ之ヲ決定スヘキモノニシテ國家カ果シテ係爭行爲ニ基キ民法上ノ債務ヲ負擔スルヤ否ヤニ因リ之ヲ決定スヘキモノニ非ス　三八　七六七

○不動産ノ所有名義書換ト其引渡トハ別箇ノ事項ナルヲ以テ縱令所有名義ノ書換ヲ請求スルモ其引渡ノ請求ハ當然之ニ包含スルモノト謂フヘカラス　三八　九七五

(刑)

○債務者カ强制執行ヲ免ルル爲ヲ公正證書ヲ以テ其所有財産ニ付キ假裝ノ賣買契約ヲ締結シタル場合ニハ債權者ハ强制執行ノ開始前債務者及ヒ讓受人ニ對シテ契約無效確認ノ訴訟ヲ提起シ得ルモノトス　三八　一三二九

○證書訴訟ヲ許スヘカラサルモノトシテ其訴ヲ却下セラレタル者カ更ニ通常訴訟ヲ提起シテ其請求ヲ主張スルハ違法ニ非ス　三九　四七一

○起訴者カ將來ニ於ケル私權ノ侵害ヲ豫期スル場合ト雖モ其豫期カ顯著ナルトキハ廣義ノ私權侵害ト看做シ其訴ヲ採用スヘキモノトス　三九　九二六

○原告カ確定訴訟ト履行訴訟トヲ各別ニ提起シタルニ非スシテ同一ノ債權若クハ同一ノ物件ニ付キ其權利ヲ確認シ以テ給付ヲ爲スヘキコトヲ請求スト云フカ如キ訴ハ縱令其訴名ニハ確認及ヒ分割請求ト掲クルモ一ノ訴トシテ之ヲ採用スヘキモノトス　三九　九一六

○法律行爲無效ノ確認請求ハ權利關係ヲ即時ニ確定セシムルニ於テ法律上ノ利益ヲ有スル場合ニ在ラサレハ之カ提起ヲ許ササルモノトス　三九　一五三一

○一事不再理ノ法則ハ後訴カ前訴ト當事者訴訟ノ目的物及ヒ訴訟ノ原因ヲ同ウスル場合ニ在ラサレハ之ヲ適用スルコトヲ得ス　三九　一七〇八

○自己ト何等ノ親族關係ヲ有セサル者カ不實ノ身分登記ニ基キ親族ノ如ク行動スルニ於テハ縱令自己ノ財産ニ直接ノ利害ヲ及ホス虞ナキトキト雖モ尚ホ親族權ヲ侵害セラルルモノナレハ其者ニ對シ訴ヲ以テ親族關係ノ不存在ヲ確認セシメ併セテ身分登記ノ取消又ハ變更ヲ强要スルノ權利アリ　四〇　五〇八

○不動産ノ强制競賣ニ付キ異議ノ訴又ハ抗告ノ提起ナクシテ執行手續ヲ完結シタル後ト雖モ其執行ニ關シ實體法上無效ノ原因存在スルニ於テハ該不動産ノ所有權ヲ主張スル第三者ハ尚ホ訴ヲ提起シテ權利ノ回復ヲ請求シ得ルモノトス　四〇　五六五

○相手方ノ作爲ヲ目的トスル權利ハ相手方カ任意ニ之ヲ履行セサル場合ニ於テハ裁判ヲ以テ相手方ノ意思表示ニ代フルコトヲ得ヘキ法律行爲ヲ除ク外裁判上ノ請求ヲ許スヘキモノニ非ス　四〇　六二六

○株式會社ノ株式ヲ取得シタル者ハ會社ニ對シ直ニ株主名簿ノ記載及ヒ株券ノ書替又ハ發行ヲ求ムルコトヲ得ヘキノミナラス記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルニ因リ會社ヲシテ單ニ其株主タルコトヲ確認セシメントスル請求ハ法律上許スヘカラサルモノナリ　四一　四四四

○確定ノ請求ハ權利ノ執行ヲ要セス法律關係ノ確定ノミヲ以テ完全ニ目的ヲ達シ得ヘキ場合若クハ法律關係ノ確定ノミニテハ其目的ヲ達シ得サルモ未タ權利ノ執行ヲ強要スルノ時期ニ達セス荏苒歲月ヲ經過セハ權利ヲ失却スルノ虞アルカ爲メ裁判ヲ以テ權利ノ存否ヲ即時ニ確定セシムルノ必要アル場合ニ限リ之ヲ許スヘキモノトス　四一　九四四

（同主旨）

權利存在ノ確認ヲ目的トスル確認訴訟ハ其權利關係ヲ即時ニ確定スルコトノ必要アル場合ニ非サレハ之カ提起ヲ許ササルモノトス　三二　二　四一

確認訴訟ハ當事者間ノ法律關係ヲ即時ニ確定スルノ必要ナキ場合ニハ之ヲ提起スルヲ許ササルモノトス（同一判例三二年二卷三二頁）　三二　三　二六

法律關係ノ確定ノミヲ求ムル訴ハ權利ノ執行ヲ要セス法律關係ノ確定ノミヲ以テ完全ニ目的ヲ達シ得ヘキ事件若クハ法律關係ノ確定ノミニテハ其目的ヲ達シ得ヘカラサルモ未タ權利ノ執行ヲ強要スルノ期限ニ達セス荏苒歲月ヲ經過セハ權利ヲ失却スルノ危險アルカ爲メ裁判ヲ以テ權利ノ存否ヲ即時ニ確定セシメ置クノ必要アル場合ナラサルヘカラス　三二　五　八

訴訟ハ權利ノ侵害ヲ除去スルコトノ必要アル場合ニ限リ提起スルコトヲ許スヘキモノタリ而シテ權利確定ノ存在ヲ目的ト爲ス確定訴訟ニ於テモ亦原告カ被告ニ對シ或權利ヲ有スルモ其履行ヲ請求スルコト能ハサルトキ其權利關係ヲ即時ニ確定スル必要アル場合ニ非サレハ獨立シテ之ヲ提起スルコトヲ許サス　三二　五　一四七

財産上救濟ヲ訴求スルニ當リ給付ヲ求メス單ニ權利ノ確認ヲ目的トスル場合ニ在テハ即時ニ法律關係ヲ確定スルニ於テ起訴者ニ法律上ノ利益アルヲ必要トス從テ法律關係ヲ確定スルモ起訴者ニ對シ毫モ救濟ヲ與フル所ナク給付ノ訴ヲ提起スルニ非サレハ到底其目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ在テハ確認ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ許サス　三二　一一　一一〇

確認ノ訴ハ即時ニ權利關係ヲ確定スルノミニテ訴訟ノ目的ヲ達シ得ヘキトキハ提起スルコトヲ得ルモ給付ノ訴ヲ準備スルニ過キサルトキハ之ヲ許スヘキモノニ非ス　三三　一〇　一一三

○甲者カ乙者ニ對シ自己ノ發明ニ係ル新案特許器械ヲ專ラ製造販賣セシムヘキコト及ヒ其器械ニ關スル權利ヲ一切處分セサルヘキコトヲ約定シタルニ拘ハラス漫ニ該契約ヲ解除スル旨ヲ通知シ其存在ヲ否認セル場合ニ於テハ乙者ハ該契約ノ存在ヲ即時ニ確定セシムルニ付キ法律上

ノ利益ヲ有スルモノトス

○第三者カ債務者ノ爲ヌ自己ノ不動產上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テハ債務者ハ抵當權者ニ對シ抵當權無效ノ確認ヲ求ムル權利ナキモノトス　四一　一三〇四

○確認訴訟ハ起訴者カ現在ノ權利關係ヲ確定スルニ於テ直ニ法律上ノ利益ヲ有スヘキ場合ニ限リ之ヲ提起シ得ルモノトス從テ過去ニ於ケル事實關係ノ存否ノ確定ヲ請求スルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ　四二　一三一

（同主旨）

確認訴訟ハ現在ノ權利關係ヲ確定スルニ於テ起訴者カ直ニ利益ヲ有スヘキ場合ニ限リ之ヲ提起シ得ヘキモノニシテ單ニ過去ノ事實關係ノ存否ヲ確ムルヲ目的トスルトキハ之ヲ提起スルヲ得サルモノトス　四二　一三四

被告ニ對シテ單ニ過去ニ於ケル事實ノ確定ヲ請求スルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ　三九　七二五

○甲者カ山林ノ賣主乙者ヨリ賣買代金ノ債權ヲ讓受ケタリト主張シテ買主タル丙者ニ對シ其全額引渡請求ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ丁者カ右代金ハ眞正ノ所有者タル戊者ニ其引渡ヲ求メ得ヘキ權利アリトシ戊者ニ對スル債權ニ基キ轉付命令ヲ受ケ甲丙兩者ヲ共同被告トシテ丙者ニ一部ノ支拂ヲ請求シ且甲者ニ對シテ之カ確認ヲ請求スルハ違法ニ非ス　四二　二七九

○共有者カ協議上其一人ヲシテ共有財產ヲ管理セシムル場合ニ於テ管理スヘキ財產ノ範圍ヲ爭フ管理者ニ對シ其範圍ノ確定ヲ求ムル訴ハ現在ノ權利關係ヲ即時ニ確定スルニ於テ法律上ノ利益ヲ有スルモノニシテ違法ナリ　四二　三六四

○相手方カ現ニ係爭義務ノ存在ヲ爭フトキハ其義務ノ作爲義務タリ且履行ノ時期カ將來不確定ナル事實ノ發生ニ繫ルノ故ヲ以テ法律上其存在ヲ即時ニ確定スルノ利益ナシト云フヲ得ス　四二　九八七

○借用金證書面ノ金額中其一部ノ辨濟ヲ要セサル旨ノ特約アルコトヲ原因トシテ其一部ニ對スル元利金ノ辨濟ヲ要セサルコトノ確認ヲ請求スル訴ハ當事者間ノ權利關係ヲ即時ニ確定スルノ利益アルモノニシテ適法ナリ　四三　六九

○確認ノ訴ニシテ當事者間ノ權利關係ヲ即時ニ確定スルノ利益ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ請求ヲ棄却スヘキモノニシテ訴訟ヲ不適法トシテ却下スヘキモノニ非ス　四三　六九

○起訴者カ直ニ抵當權登記抹消ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ縱令抵當權無效ノ確認ヲ得タリトスルモ登記ノ抹消ヲ爲スニ非サレハ完全ニ非ス

其目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ確認ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ許サス

○（同三四）

事件自體カ直ニ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキ性質ノモノニシテ且結局履行ヲ求メサレハ其目的ヲ達スルコト能ハサルモノニ付テハ確認ノ訴ヲ提起スルヲ得サルモノトス

○不動産登記ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪變更ノ公示方法ナルヲ以テ其物權ノ得喪變更ナキニ拘ハラス獨リ形式上ニ於テ登記ノ存スルハ不適法ナルコト勿論ナレハ之カ權利ヲ侵害セラルヘキ恐アル物權者ハ其抹消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ故ニ所有權ノ移轉ナクシテ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其抹消ヲ請求セスシテ更ニ所有權ノ登記手續ヲ請求スルハ失當ナリ

○同一ノ不動産ニ付キ抵當權及ヒ質權ト先取特權ト競合スル場合ニ於テ抵當權者カ先取特權存在セサルコトヲ確定スルヲ得ハ競賣金ハ其固有ノ權利ニ因リテ取得スルヲ得ヘキヲ以テ給付ヲ求ムルノ要ナシ

（聯）○裁判所カ原告タル債權者ノ請求ニ基キ法律行爲ノ取消ヲ命スル裁判ハ法律行爲ノ效力ヲ消滅セシムルヲ以テ目的トシ被告タル受益者又ハ轉得者ハ之ニ因リ其行爲ノ消滅ヲ認メサルヘカラサル羈絆ヲ受クルモノ

四三　一七六
三二　四三
九
四三　四三
四三　六九九

ナレハ該訴訟ハ單純ナル確認訴訟ニ非ス從テ後ニ提起スル原狀回復ノ訴ノ前提タルニ拘ハラス原告ノ爲メニ利益アル訴訟タルヲ妨ケサレハ不適法トシテ之ヲ却下シ得サルモノトス

○株式會社カ資本減少株式消却ニ關スル總會決議ノ執行ヲ阻害スル者ニ對シ該決議ニ因リ現在定マリタル權利關係ヲ確認スヘキ旨ヲ主張スル訴ハ起訴者ニ利益ナシト云フヲ得ス

○不動産ノ登記抹消ヲ要スル場合ニ於テ登記義務者カ任意ニ登記申請ヲ爲ササルトキハ訴求ノ上判決ヲ以テ意思表示ニ代フヘキモノナルヲ以テ相續人カ表見相續人ニ對シ相續回復ノ訴ト同時ニ相續財産タル不動産ノ登記抹消ヲ請求シタルハ相當ナリトス

○所有權ヲ主張シテ物件ノ引渡ヲ請求スル訴ニ在リテハ其物件ニ關スル執行手續ノ不法ニ對シ相當ノ時期ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得サリシトテ權利ノ消長ニ關係スヘキ虞ナシ

○給付ノ訴ハ其目的カ物ニ非サレハ提起スルヲ得サル法則ナシ從テ幼兒ノ引渡ヲ請求スル訴モ法律ノ許ス所ナリト云ハサルヘカラス

○債權ニ對スル差押命令及ヒ轉付命令ノ無效確認ヲ求ムルモ之ニ因リ直ニ該命令ノ目的タル債權ニ關シテ相手方ノ請求權存在セサルコトヲ確

四四　一一七
四四　四一四
四四　五〇一
四五　二四〇
元　一〇八七

定スルノ效力ナキモノナレハ斯ノ如キ請求ハ確認訴訟トシテ許スヘカラサルモノトス　二　二一

○株主總會ノ決議ハ會社意思ノ表現ナルヲ以テ會社ノ他ノ機關及ヒ株主カ其決議ニ拘束セラルル法律上ノ關係ハ私法的法律關係ニ外ナラス而シテ右法律關係ノ成立若クハ不成立ノ確定ヲ求ムル訴ハ即時ニ之ヲ確定スルニ付キ權利上利益アルトキニ限リ之ヲ許スヘキモノトス　二　五二〇

○確認訴訟ニ於ケル起訴者カ法律上ノ利益ヲ有スルヤ否ハ本案係爭ノ權利關係ヲ確定スルニ付キ起訴者ノ有スル法律上ノ利益ニ依リテ定マルモノニシテ本案ニ附隨シテ決セラルヘキ訴訟費用ノ負擔ニ關係ヲ有スルモノニ非ス　二　八七七

○確認訴訟ヲ提起スルニ付キ當事者ノ權利關係ヲ即時ニ確定スルノ利益アルコトヲ要スルハ訴訟ノ成立要件ニ非スシテ權利ノ保護ヲ求ムルニ必要ナル事項タルニ過キサレハ如上ノ利益アリヤ否ハ訴ノ適否ニ關係ヲ有スルコトナク全ク請求權ノ當否ニ關スル問題ナリトス　二　九三七

○賃貸人カ賃貸借ノ成立ヲ爭フトキハ賃借人ハ其成立ヲ確定スルニ付キ利益ヲ有スルモノナルヲ以テ賃貸人カ係爭地ノ一部ヲ他ニ賣却シタルカ爲メ其地所ニ付キ引渡不能ト爲リタルコトハ賃貸借ノ存否ニ關係ナキモノナレハ之ヲ以テ右賃貸借ノ成立ヲ確定スルノ利益ヲ有セサルモノト云フヲ得ス　三　三九二

○甲地ト乙地トノ經界線ニ紛亂ヲ生シタルトキハ甲地ノ所有者其他ノ物權者ハ乙地ノ所有者其他ノ物權者ニ對シ經界ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘク縱令兩地ト一點ニ接觸スル丙地アリテ其一點ノ所在カ甲乙兩地ノ所有者等間ニ爭アル場合ト雖モ此一事ニ依リ丙地ノ所有者其他ノ物權者ヲ共同被告トシテ訴フルコトヲ要セス　三　一一七三

○隱居ノ届出ニ因ル身分登記ニシテ存在セサル以上ハ何人モ隱居者タルコトヲ主張シ得サルヲ以テ斯ル場合ニ於ケル隱居無效ノ訴ハ法律上利益ナキモノニシテ之ヲ許スヘキモノニ非ス　三　二九八

○河川法ヲ適用又ハ準用スヘキ河川ニ在リテ法律命令等ニ違背シタル工事設備等ニ因リ私人カ損害ヲ受ケタルトキハ民事訴訟ヲ提起シ得ルモ其法律命令等ノ違背ノ有無ニ付キ爭アルトキハ先ツ訴願若クハ行政訴訟ニ依リ其違背事實ノ確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス　四　五五

○經界確定ノ訴トハ相隣者間ニ於テ兩隣地間ノ經界ノ不明ナルカ若クハ經界ニ付キ爭アル場合ニ經界線ヲ定ムル宣言的判決ヲ求ムル訴ヲ謂フ

モノトス

○經界確定ノ訴ニ於テ單ニ經界ノミカ不明若クハ爭アル場合ハ所謂不動産ノ經界ノミニ關スル訴訟ニシテ此訴訟ニ於テ言渡ス判決ハ兩隣地ノ經界線ノミヲ確定スルニ止マルモノトス　四　七〇五

○經界確定ノ訴ニ於テ經界ニ爭アルト同時ニ所有權ノ範圍ニ爭アル場合ハ範圍ニ爭アル所有權ヲ基本トシテ經界ノ確定ヲ訴求スルモノニシテ此訴訟ニ於テ言渡ス判決ハ兩隣地間ノ經界線ヲ確定スルト同時ニ相隣者ノ所有權ノ範圍ヲモ確定スルモノトス　四　七〇五

○經界確定ノ訴ニ於テハ裁判所ハ當事者ノ主張セル經界線ニ羈束セラルルコトナク自ラ進テ其眞實ト認ムル所ニ從ヒ經界線ヲ定ムベキモノニシテ唯經界ト共ニ所有權ノ範圍ヲ爭フ場合ニ於テ裁判所ハ當事者雙方ノ主張セル範圍内ニ於テ之ヲ定メサルヘカラサル制限ニ服スルノミナリトス　四　七〇五

○地所ノ所有權確認ノ請求ヲ爲シ且所有名義書換ノ登記手續ヲ請求スル訴ニ於テ第一審カ登記名義回復ノ請求ヲ排斥シタルトキト雖モ所有權確認ノ請求ニ付テハ將來地所ノ耕作收益等ニ關シテ生スルコトアルヘキ紛爭防止ノ必要存スルヲ以テ即時確定ノ利益アルモノトス　四　一九〇三

（同主旨）

確認ノ請求ト給付ノ請求トヲ併合シ一ノ訴ヲ以テ之ヲ提起スルモ其確認ノ請求ニシテ履行ノ請求ノ前提ニ非ス且事實之ヲ解決スヘキ必要アルトキハ給付ノ請求ヲ棄却スルニ拘ハラス確認ノ請求ニ對シ判決ヲ與フヘキモノトス　二　二二

○同一ノ訴訟ニ於テ或物ノ權利存否ノ確定ヲ訴求スルト同時ニ該權利ニ基キ其物ニ關スル或給付ヲ訴求セル場合ニハ裁判所ハ給付請求ノ當否ヲ判斷スルノ先決的事項トシテ權利ノ存否ヲ確定スルコトヲ要スルヲ以テ斯ル訴訟ニ於ケル確定ノ訴ハ必スシモ之ヲ排斥スルコトヲ要セサルモノトス　三八　一五七一

○繼續シタル權利關係ニ於テ現在ノ侵害ト共ニ將來ノ侵害ヲ豫期シ得ヘキ場合ト雖モ判決ニ依リ豫メ當事者間ニ權利關係ノ存否ヲ確定セシムル利益アルモノニシテ現在ノ侵害ニ對シ之カ排除ヲ目的トスル給付訴訟ト同時ニ若クハ單獨ニ確認ノ訴ヲ起スモ其訴ハ適法ノモノトシテ之ヲ許容スヘキモノトス　四　二三〇七

○占有保持ノ訴ハ客觀的ニ占有妨害ノ事實アル場合ニ妨害者ニ對シ之ヲ提起スルヲ得ヘキモノニシテ妨害カ妨害者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ出テタルト否トハ之ヲ問ハス故ニ特別ノ明文ナキ限リ故意又ハ過失ニ因リ　五　一三四五

テ占有ヲ侵害セラレタルコトヲ要件トスル占有ニ對スル不法行爲ニ基ク損害賠償ノ請求トハ其原因ヲ異ニスルモノトス　五　一五八五

○他人ニ對シ行爲不行爲ヲ請求スルニハ其請求カ一定ノ權利關係ニ基クコトヲ要スルモノトス　五　一九二三

○當事者ノ一方カ給付ノ訴ヲ提起シ得ヘキニ拘ハラス直ニ其基本タル權利關係ノ存否確定ノ訴ヲ提起シタル場合ト雖モ此一事ヲ以テ確認ノ訴ヲ不適法ナリト謂フヲ得サルモノトス　五　二〇五九

○物權其他繼續スヘキ權利關係ニ付キ當事者間ニ爭ノ生シタル場合ニ於テ基本的ニ其權利關係ヲ確定シ將來ニ繼續スヘキ爭ヲ絶止スル必要アルトキハ即時ニ其基本タル權利關係ノ確定ヲ訴求スル法律上ノ利益ヲ存スルモノトス　五　二〇五九

（同三七目）

○當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ給付ノ訴ヲ爲シ得ヘキ場合ニ給付ノ訴ヲ爲サスシテ先ツ其前提タルヘキ權利關係ノ成立不成立ノ確認ヲ相手方ニ訴求スルモ其訴ハ常ニ必スシモ利益ナキモノト斷スルコトヲ得ス　四四　四四六

○當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ給付ノ訴ヲ爲シ得ヘキ場合ニ之ヲ爲サスシテ權利關係ノ確認ノミヲ訴求スルハ常ニ必スシモ利益ナキモノト云フヲ得ス　二　二三一

○同一ノ事實ニ因リテ所謂代位訴權及ヒ直接訴權發生スル場合ニ在リテハ債權者ハ一箇ノ訴ニ依リ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノニシテ斯ル二箇ノ訴權ヲ是認シタル判決アリタルトキハ權利者ハ其何レカヲ選擇シテ强制執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　五　二二五一

○土地ノ共有ニ付キ爭アル以上ハ賣買ニ因ル持分ノ移轉ハ登記ナクシテ其賣主以外ノ共有者ニ對抗スルコトヲ得サルヲ以テ共有ノ分割請求ヲ爲スニ當リ賣主ニ對シ賣買ニ因ル持分ノ移轉及ヒ登記ヲ請求スルコトナク共有者全員ヲ當事者トシテ共有地分割請求ノ訴訟ヲ提起スルハ相當ナリトス　五　二五二四

○不動產ヲ他人ニ信託スル目的ヲ以テ實際所有權ヲ移轉スルコトナク表面上所有名義ヲ移シ其登記ヲ爲シタル者カ原狀ニ復スルカ爲メ自己ノ所有名義ニ書換ヲ請求スルハ即チ登記簿上所有權移轉ノ登記ヲ求ムルニ外ナラサルモノトス　六　一六七

○共有權ハ共有者各自ノ權利ナレハ各自獨立シテ之ヲ主張スルコトヲ得ルノミナラス他ノ共有者ノ何人ニ對シテモ各別ニ主張スルコトヲ得ルモノトス從テ各共有者ハ獨立シテ他ノ共有者ニ對シ共有權ノ確認及ヒ登記請求ノ訴ヲ提起シ得ルハ勿論他ノ共有者全員ヲ相手方トスルコトナク自己ノ共有權ヲ爭フ共有者ノミヲ相手方ト爲スヲ以テ足ルモノト

ス

○訴ノ基礎タル權利關係カ單ニ給付請求權ノミヲ其內容トスルモノニ非サルトキハ起訴者ハ給付請求ヲ爲ス以外ニ尙ホ現在ノ權利關係ヲ確定スルニ付キ直ニ法律上ノ利益ヲ有スルモノナレハ確認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス　六　一〇八三

○原告カ債權轉付命令ノ無效ナルコトヲ主張シ被告カ訴外第三債務者ヨリ取立テタル金額ノ支拂ノ無效ナルコトノ確認ヲ求メ且不當利得トシテ該金額ノ返還ヲ請求スルモノナルトキハ原告ハ確認訴訟ヲ提起スルニ付キ法律上ノ利益ヲ有スルモノトス　六　一三〇四

○民事訴訟法上ノ和解カ當事者ノ意思表示ノ瑕疵ニ因リテ無效ナリヤ又ハ取消スコトヲ得ヘキヤハ民法ノ規定ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトス　六　一三四二

○土地臺帳ハ私法上ノ關係事項ノ記載存スルヲ以テ其記載ニ誤謬アルトキハ私法上ノ權利義務ニ影響ヲ來スコトアルヘキカ故ニ名義人ハ私法上ノ權利者トシテ之カ更正ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス　六　二〇九五

○確認訴訟ハ起訴者カ現在ノ權利關係ヲ確定スルニ付キ直ニ法律上ノ利益ヲ有スヘキトキニ限リ提起シ得ルモノニシテ給付ノ訴ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ確認ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得サルモノトス　七　三五

（同主旨）

○確定判決ノ執行ヲ遲延シタルトキハ償金ヲ支拂フヘシトノ決定ハ直ニ執行文ヲ得テ執行シ得ヘキモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ權利存在ノ確定ヲ目的トスル確認訴訟ヲ提起スルヲ得ス　三二　三

直ニ履行ノ請求ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ履行ヲ求ムル訴訟ニ先タチ特ニ獨立シテ確定訴訟ヲ提起スル必要之ナキニ付キ確認訴訟ノ提起ヲ許サス　三二　四

○直ニ爲シ得ヘキ給付ノ請求ヲ爲サスシテ先ツ其確認ノ訴訟ノミヲ提起シ以テ當事者間ノ權利關係ヲ確定シタル後ニ至リ尙ホ同一ノ權利關係ニ付キ給付ノ訴ヲ提起スルカ如キハ無益ナル手數ト費用トヲ要スルカ故ニ此ノ如キ確認ノ訴訟ハ法律上必要ト認メサルヲ以テ許スヘカラサルモノトス　三四　六

確認訴訟ハ起訴者カ現在ノ權利關係ヲ確定スルニ於テ直ニ法律上ノ利益ヲ有スヘキ場合ニ限リ之ヲ提起シ得ルモノニシテ給付ノ訴ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ確認ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得サルモノトス　四四　八七七

○甲カ訴訟ノ目的タル乙丙間ノ賣買契約ニ因リテ乙カ丙ニ對シ有スル賣買代金ノ債權ヲ强制執行ノ爲メニ差押ヘ且轉付命令ヲ得タルトキハ甲ハ丙ニ對シ代金ノ支拂ヲ求ムル給付ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノナレハ其訴ヲ爲スコトナク單ニ賣買契約ノ有效ナルコトノ確認ヲ求ムル訴ハ許スヘカラサルモノトス　四八一

○公正證書ニ依ル債務名義ハ裁判上確定ノ效力ヲ有スルモノニ非サレハ

○債務者ハ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ニ依リ債務名義其モノノ無效ヲ主張スルコトヲ得ヘキヲ以テ確定判決ニ依ル債務名義ト其效力ニ於テ大ナル差等アルモノトス從テ苟モ公正證書ニ依ル債務名義ヲ有スルニ拘ハラス尙ホ訴訟ヲ提起シテ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘシ　七　六七

○責問權喪失ノ規定ハ民事訴訟法上其明文ナキモ之ヲ認メサルモノニ非ス　七　四八一

○遺言書ノ檢認ハ遺言ノ執行前ニ於テ單ニ其形式其他ノ狀態ヲ調査確證シ以テ他日ニ於ケル遺言書ノ僞造變造ヲ防止シ且其保存ヲ確實ナラシムルノ目的ニ出テタル一種ノ檢證手續ニ過キスシテ其遺言ノ效力ヲ判定スルモノニ非サレハ既ニ檢認ヲ經タル遺言書ニ對シ其遺言ノ無效確認ヲ訴求スルモ決シテ一事不再理ノ法則ニ違背スルモノニ非ス　七　七三

○別除權ヲ主張スルコトヲ得サル旨ノ消極的確認ノ訴ニ付テノ法律上ノ利益ハ破產債權者ノ爲メニ破產財團ヲ管理處分スル權限ヲ有スル破產管財人之ヲ有スルモノトス　七　一四一

○如上消極的確認ノ訴訟ニ於ケル法律上ノ利益ハ破產管財人ニ對シ主張スルコトヲ得サル別除權ヲ主張スルノ虞アル一事ニ因リテ存在スルモノトス

○特定人ノ所有不動產ニ付キ第三者カ保存及ヒ移轉登記ヲ爲ンタルトキハ其不動產所有者ノ爲メ所有權行使ノ妨害ト爲ルモノナレハ所有者ハ之カ登記ノ抹消ヲ求ムルニ付キ法律上ノ利益ヲ有スルモノトス　七　一四四一

○訴訟記錄カ裁判所廳舍類燒ノ際全部燒失シタル場合ニ於テ訴又ハ控訴提起ノ方式ノ適否ヲ調査スルニハ曩ニ裁判所ニ差出シタル訴狀其モノニ依リテノミ之ヲ爲スヲ要セスシテ訴訟ノ當事者ニ於テ訴狀又ハ控訴狀ト同一記載アリ且相當印紙ノ貼用アリタルコトニ付キ爭ナキ書面ニ依リテ其適否ヲ判定スルコトヲ得ルモノトス　七　一七九二

○境界確定ノ訴ニハ單ニ境界ノミニ不明若クハ爭アル場合ト境界ニ面シタル部分ニ爭アル所有權ヲ基本トシテ境界ノ確定ヲ求ムル場合トアリト雖モ境界確定ノ訴ニ在テハ單ニ境界線ニ面シタル土地ノ部分ニ付キ所有權ヲ主張スルニ反シ土地所有權確認ノ訴ハ境界線ニ面シタル部分ノミナラス凡テノ方面ニ於ケル土地ノ所有權即チ土地全體ノ所有權ヲ主張スルノ點ニ於テ差異アルモノトス　七　二三九二

○權利關係ノ存否ヲ即時ニ確定スルニ付キ法律上利益ノ存スル場合ニハ給付ノ訴ヲ提起セスシテ基本タル權利關係存否確定ノ訴ヲ提起スルコ

トヲ得ルモノトス

○物權其他繼續スヘキ權利關係ニ付キ生シタル爭ヲ絕止シ基本タル權利關係ヲ確定スルコトハ權利關係ノ存否ヲ即時ニ確定スルニ付キ法律上利益ノ存スル場合ニ該當スルモノトス

（參照）勸解不調ノ後ノ出訴ヲ怠リタルノ一事ノミヲ以テ直ニ出訴ノ權利ヲ失フモノニ非ス　財產權讓渡ノ命令ハ其權利ノ實體ヲ引渡サシムル主意ナレハ其命令ニ基キ其權利ノ目的タル物件ノ引渡ヲ請求スルハ相當ノ手續ナリ

○證券印紙貼用不足ノ證書ハ裁判上證據ト爲ラストノ理由ヲ以テ請求ヲ斥ケタル判決確定セル上ハ更ニ其證書ニ印紙ヲ追貼シ訴ヲ爲スハ一事再理ナリトス

七　二四〇六

七　二四〇六

二四　二　一三八

二九　二　一一六

二九　四　一〇

四　一一六五

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續

第一節　判決前ノ訴訟手續

○甲者カ乙者ノ氏名ヲ冒稱シ又ハ乙者ノ代理人ナリト詐稱シテ提起シタル訴ニ付テハ乙者ハ其訴訟手續ヲ受繼スヘキ權利義務ナキハ勿論其訴訟ニ介入シテ其進行ヲ阻止スルノ權能ヲ有セサルモノトス

○第三者ノ爲メニスル契約ニ於テ第三者ノ債務者ニ對スル受益ノ意思表示ハ民法上ノ意思表示ナリト雖モ訴訟上ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

七　二一三一

三九　一六〇八

六　二二七三

三二　九　一四三

二　四六三

第百九十條

『第百九十條』

○訴ノ提起ハ時效ヲ中斷シ且債務者ヲ遲滯ニ付スルノ效力ヲ生スルモノトス

○訴ヲ提起スル目的ノ那邊ニ在ルヲ問ハス一旦判決確定スル以上ハ既判力ヲ生シ客觀的ニハ存在シ若クハ存在セサル權利關係モ或ハ存在セス或ハ存在スルニ至ルト同一結果ヲ呈スルカ故ニ訴ノ提起ハ處分行爲ナリト云ハサルヘカラス

○民事訴訟法第百九十條ニ依リ訴狀ニ具備スヘキ要件ハ其記載ニ一定ノ方式ナシトス

○履行ノ請求ハ債務ノ履行ヲ促ス意思ノ發表ナレハ給付ノ訴ニ依ル履行ノ請求ト雖モ訴ノ提起カ履行請求ノ效力ヲ生スルモノニ非スシテ訴狀ニ包含スル債務ノ履行ヲ促ス意思ノ發表カ訴狀ノ送達ニ因リ其效力ヲ生スルモノトス故ニ訴ノ提起カ訴訟法上有效ナラサリシト否ト後ニ訴ノ取下アリタルト否トハ履行請求ノ效力ニ何等ノ影響ナシ

○甲カ乙ニ對シ兩人間ノ不動產賣買契約ノ虛僞ニシテ無效ナルコトヲ原因トシ所有權移轉登記ノ抹消ヲ求メ之ニ附帶シテ右賣買契約前後ニ於

テ乙ヨリ借受ケタル金員ヲ支拂ハンコトヲ條件トシタルハ甲ハ法律上自己ノ義務ニ屬セサルモ自ラ進テ其請求ニ乙ノ利益ト爲ルヘキ制限ヲ加ヘタルモノニ過キスシテ之カ爲メニ右登記抹消ノ請求ヲ拒否スヘキ謂レナキノミナラス其請求ニ斯ル制限ヲ加フルハ法律上禁スル所ニ非ス　七　一四九四

○訴ノ提起ト權利拘束トハ別箇ノ觀念ニ屬シ訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出スコトニ依リテ爲スモノナレハ權利拘束ヲ生セサルノ故ヲ以テ訴ノ提起ヲ無效ナリト謂フヲ得ス　七　二〇二八

○準備書面及ヒ判決ニ原告「何某外幾名」ト記載シタル場合ニ於テ其幾名ノ何人ナルヤハ訴狀添附ノ委任狀ニ總體ノ原告氏名住所等存スルヲ以テ訴狀ニ之カ表示ヲ掲ケタルモノト看做スコトヲ得ヘキカ故ニ民事訴訟法第百五條第一號第百九十條第一項第一號及ヒ第二百三十六條第一號ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス　二八　一　六〇

○訴訟當事者ノ表示ハ形式上最モ之ヲ明確ニセサルヘカラス　二八　二　四六

○形式上ニ發露セサル訴訟當事者ハ裁判所之ヲ斟酌セス從テ其者ノ訴訟代理ト訴訟委任トヲ調査スルヲ要セス　二八　二　四六

○訴狀ハ民事訴訟法第百九十條第一號乃至第三號ニ掲クル要件ノ記載アルトキハ有效ニシテ同法第百五條ニ掲クル事項ヲ缺クモ無效ト爲ラス　二九　一　一〇

○訴訟ハ不必要ナル當事者ヲ加ヘタルカ爲メ其成立ヲ妨クルモノニ非ス　三〇　四　一〇二

○一個人ノ商號ハ民事訴訟法第百九十條ノ規定ニ依リ當事者ヲ表示スヘキ名稱ト爲スヲ得サルモノトス　三四　六　十四

○當事者ハ起訴ノ當時一定スルコトヲ要シ法律ニ規定スル場合ノ外其變更ヲ許サス判決ニ對スル故障申立若クハ上訴ヲ爲スニ至テモ法律ノ認メタル參加人ノ如キモノノ外ハ其判決ヲ受ケシ者タルコトヲ要スルト同時ニ控訴裁判所ニ於テモ當事者ノ主張ニ基ク釋明等ニ依リ第一審ノ判決ニ表示セラレタル當事者ヲ左右スルコトヲ許ササルモノトス　三五　一　三六

○特別規則ニ依リ訴訟ヲ取扱フ所ノ地方長官ニ於テ其所屬官吏中國ノ代表者ヲ指定シテ爲サシメタル訴訟ナルコト明カナル以上ハ其當事者ヲ縣ト表示シタルハ不完全ナレトモ實體上利害ニ影響ナキニ付キ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス　三六　五五五

○破產財團カ訴ヘ又ハ訴ヘラルル場合ニ於テハ當事者ノ表示ハ單ニ破產管財人何某ト掲クルノミヲ以テ足レリトセス少クモ破產者ハ何人ナルヤヲ知リ得ヘキ程度ニ掲ケサルヘカラス　三七　五七六

○民事訴訟法第百九十條第二項第一號ニ規定シタル當事者ノ表示ハ其當

○事者ノ何人ニシテ如何ナル資格ヲ有スルヤヲ知リ得ヘク且判決書ノミヲ以テ之ヲ送達シ得ヘキ程度ニ掲載セサルヘカラス

（同主旨）

民事訴訟法第百九十條第二項第一號ニ所謂當事者ノ表示ハ其何人ナリヤカ分リ得ヘキ程度即チ他人ニ紛レナク一個人タル資格ナルヤ將タ代表者タル資格ナルヤチ判然ナラシメ且送達ヲ爲シ得ヘキ程度ニ掲クルヲ以テ足レリトス　三〇　一　三四

訴狀ニ當事者ノ氏名ヲ表示スルニハ一定ノ方式サキチ以テ其訴狀ノ記載カ當事者ノ誰タルヲ知ルヲ得ヘキモノナレハ之ヲ以テ當事者ノ氏名ヲ表示シタルモノト認ムルニ妨アルコトナシ　三五　四　二一

○民事訴訟法第百九十條第一號ニ於ケル當事者及ヒ裁判所ノ表示ハ當事者又ハ裁判所カ他ノ當事者若クハ裁判所ト誤認セラレ或ハ當事者ノ何人ナルヤ又何レノ裁判所ナルヲ知ル能ハサルカ如キ恐ナキ場合ニハ其記載ヲ適度ニ節畧スルモ妨ナシ　三九　六一七

○訴狀ニ於ケル當事者ノ表示ハ其訴狀ニ依リ當事者カ如何ナル資格ニ於テ訴ヘラルルカヲ知リ得ヘキトキハ之ヲ以テ訴狀ニ當事者ノ氏名ヲ記載シタルモノト認ムルニ妨ナキモノトス　五　二二四三

○府縣知事ハ法律上當然選擧長タル資格ヲ具有スルモノナレハ選擧訴訟ニ於テ知事ヲ被告トスルハ選擧長タル資格ニ於テシタルモノト解スヘキモノトス　三七　九〇三

○口頭辯論ニ於テ請求額ノ減縮シ得ヘキ旨趣ヲ表示シタリトテ之ヲ以テ一定ノ請求ナシト云ヒ或ハ訴ノ重要ノ點ヲ變更シタリト云フコトヲ得ス　五　二二四三

○數名ヲ被告ト爲シ彼ニ非サレハ是否ラサレハ全體ニ係リ請求スト云フカ如キハ不定ノ請求ナリ　二五　六　八四

○訴狀ニ請求ノ一定ノ原因ト一定ノ申立トヲ併記スルモ互ニ之ヲ識別シ得ヘキトキハ民事訴訟法第百九十條第二項ノ要件ヲ具備スルモノトス　二六　二　六九

○民事訴訟法第百九十條第二ニ所謂請求ノ一定ノ原因トハ請求即チ權利ノ因テ生スル事實ヲ指示シタルモノニシテ即チ一ノ請求ヲ爲ストキハ之ヲ發生セシムル所ノ事實ノ一定ナルヲ要件ト爲シタルモノナリ從テ一ノ請求ヲ爲スニ當リ其事實ニシテ一定セハ之ニ適應セシムル法律上ノ意見ハ幾箇主張スルモ固ト是レ其請求ヲ維持スル爲メノ攻擊方法ニ外ナラサルヲ以テ原因ノ一定ニ毫モ妨アルコトナシ　三〇　一一　六三

○訴狀ノ一定ノ申立ト標記シタル部ニ記載セル文詞中明カニ請求ノ目的物ヲ掲ケアルトキハ特ニ請求ノ目的物ト標記セシモノナシト雖モ民事訴訟法第百九十條ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス　三五　九　一一

○受取人ト爲ル行爲ト被裏書人ト爲ル行爲トハ互ニ獨立シテ成立スル事實ナルヲ以テ受取人トシテ手形ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルト被裏書人トシテ之ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルトハ之ヲ同一視スヘキモノニ非ス　三五　二一　八九

○契約ニ因ル債權關係ト不法行爲ニ因ル債權關係トハ全ク事實ヲ異ニスルモノナレハ一ノ請求ニシテ斯ノ如ク相異ナル二箇ノ原因併存スヘキ筈ナク若シ二箇ノ原因ヲ併セテ申立テタルモノトセハ請求ノ原因一定セサルヲ以テ民事訴訟法第百九十條第二項第二號ノ規定ニ違背セル不適法ノ訴ト云ハサルヘカラス　三六　二五八

○共同被告ニ對シ原告ノ請求スル金額ヲ併合シテ訴狀ニ記載スルモ各被告ニ對スル請求ノ目的物精確ナラスト云フニ止マリ目的物ノ表示ヲ缺如セシニ非サルヲ以テ民事訴訟法第百九十條ノ規定ニ違背シタルモノト云フヲ得ス　三六　四七八

○起訴者ニ於テ實際損害ヲ被ムルニ至ルヘキ事實關係アリトスルモ法律上權利ト認メサル事項ニ付テハ民事ノ訴訟トシテ救濟ヲ求ムルコトヲ得ス又慣習法ニ依リ若クハ契約ニ因リ請求權アリ若シ然ラストスルモ不法行爲ニ依リ請求權アリト云フカ如キ一定セサル理由ヲ以テスル訴

ハ之ヲ許サス

○訴ニ於テハ起シタル請求ノ一定ノ原因存スルコトヲ要スルハ勿論損害要償ノ請求ノ如キハ種種ノ原因ニ出ツルコトアルヲ以テ其何レニ基キタルカヲ一定セサルヘカラス　三六　五一〇

○宅地ノ一部ヲ賣渡シタル者カ後日分割ノ上名義書換ノ手續ヲ行フヘキ特約ヲ以テ便宜上其宅地ノ全部ニ付キ賣買登記ヲ了シタル場合ニ於テハ該契約ハ一種ノ無名契約ト云フヲ得ヘキモ敢テ法律ノ禁止セル事項ニ非ス故ニ判決ヲ以テ該契約ノ履行ヲ命セラルルトキハ其判決ハ即チ登記原因ニシテ訴狀中此他ニ登記原因ヲ表示スル必要ナシ　三七　一六八

○民事訴訟法第百九十條第二項ノ一定ノ目的物トハ定マリタル目的物ノ義ニシテ即チ他ノ事物ト混同セサルコトヲ要スルノ法意ナリトス　三八　七一七

○係爭物カ鑛石若クハ土砂ノ類ニ屬スルトキハ其物件ノ存在スル場所又ハ管理占有等ノ狀態ニ依リ他ノ物件ト混同セサル位地ヲ訴狀ニ表示スルニ於テハ民事訴訟法ノ所謂一定ノ目的物ニ適合スヘキモノトス　三八　一五七一

○保證人ニ於テ一面ニハ債權者カ主債務者ヨリ提供シタル擔保物ヲ賣却シ辨濟ヲ受ケタル事實ニ因リテ債權ハ消滅ヲ主張シ他ノ一面ニハ債權者カ過失ノ爲メ擔保物ヲ滅失セシメタル事實ニ因リテ債權ノ消滅ヲ主

張スルトキハ請求ノ原因一定セサルヲ以テ其訴ハ不適法ナリトス　三九　一二七二

○民事訴訟法第百九十條第二項第二號ノ規定ハ必スシモ一箇ノ請求ニ付キ數箇ノ原因ヲ記載スルコトヲ得サル旨趣ニ非スシテ唯請求ノ原因ヲ確定シ如何ナル特定ノ法律關係ニ基キ請求スルヤヲ明確ニスルコトヲ要ストノ法意ニ外ナラス　四一　一八

（同主旨）

民事訴訟法第百六十條ノ所謂一定ノ原因トハ明カニ定マリタル原因アルヲ要スルノ意義ニシテ一箇ノ原因ト云フ意義ニ非ス故ニ苟モ明カニ定マリタルモノナル以上ハ二箇以上ノ事實ヲ以テ順次ニ一ノ訴求ノ原因ト爲スコトヲ得ルモノトス　三一　四五

民事訴訟法第百九十條第二項第二號ノ規定ハ訴狀ニハ原告ノ主張セル請求權ノ由テ生スル特定ノ法律關係ヲ他ノ法律關係ト區別シ得ルカ如ク明瞭ニ記載スルコトヲ要スルノ趣意ニシテ一箇ノ請求ニ付テハ必ス一箇ノ法律關係ノミヲ記載スルコトヲ必要トシ二箇ノ法律關係ヲ記載シ得サルノ趣意ニ非ス　九

○訴狀ニハ請求ノ原因トシテ單ニ請求權ノ發生ニ必要ナル事實ヲ表示スレハ足ル又其事實ノ表示ハ訴狀中特ニ之カ爲メニ設ケタル標題ノ部分ニ於テ多少明瞭ヲ缺クトキト雖モ訴狀ノ全部ヲ參照シテ明瞭ナルコトヲ得レハ足ルモノトス　三八　五五八

○民事訴訟法ニ所謂請求ノ原因トハ法律關係成立ノ基本タル事實ヲ指稱スルモノトス　四一　五五八

（同主旨）

請求ノ原因トハ請求權ノ因リテ生スル直接關係ノ事實ノ謂ナリ

請求ノ原因トハ單純ナル事實關係ノ謂ニ非スシテ請求ノ權利即チ法律關係ノ由テ生スル事實關係ヲ指稱セルモノトス

訴狀ニ記載スヘキ請求ノ一定ノ原因トハ請求權ノ因ニ生シタル法律關係ノ基本タル事實ノ謂ナリ　四二　七三

○選擧訴訟ハ其目的選擧ノ效力ヲ爭フニ在ルヲ以テ原告カ其訴ノ原因トシテ選擧權ナキ者ノ無效投票及ヒ被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キ無效投票ヲ以テ有效ナリトシ當選人ト爲スヘカラサル者ヲ當選人ト爲シタルコトヲ主張シ以テ選擧ノ效力ヲ爭フハ不適法ニ非ス　三五　二一　八九

○起訴者カ訴狀ニ請求原因ヲ揭クルニ當リテハ其請求スル權利ノ因テ生シタル事實ヲ記載スレハ足ルモノトス故ニ不法行爲ノ場合ニ於テ其行爲カ加害者ノ故意若クハ過失ニ基因セル事實ヲ擧ケタル以上ハ故意過失ノ何レカ其一ニ出ツルコトヲ確定シテ主張セサルモ違法ニ非ス　四〇　四〇〇

○請求ノ原因トハ實體法ニ從ヒ請求ヲ生セシムルニ適スル具體的事實ヲ謂フモノナレハ前後兩訴ノ請求原因タル具體的事實カ相異ナルニ於テハ其法律上ノ觀念ハ一ニ歸スルモ其請求原因ヲ以テ同一ナリト謂フヲ　四一　五五八　四二　四五

得サルモノトス　四　八二四

○合資會社ノ社員ノ退社原因ハ豫告除名等種種アリ殊ニ豫告ニ依ル場合ニ於テモ前後數回ノ豫告アリタルトキハ其何レニ依ルモノナリヤニ依リ相異ナルモノナレハ其退社ヲ原因トスル持分拂戻請求ノ訴ニ於テハ請求者ハ請求原因トシテ退社事由ヲ具體的ニ表示セサルヘカラサルモノトス　四　八二四

○苟モ請求權ノ因テ生スル原因事實ニシテ特定シ其法律關係カ二箇以上併存シ互ニ牴觸セサルモノナル以上ハ二箇以上ノ法律關係ヲ請求ノ原因トシテ主張スルコトヲ得ルモノトス　六　二三〇八

（同上主旨）

起訴者ニ於テ相併立シ得サル二箇ノ原因ヲ主張シ甲ノ法律關係ニ非サレハ乙ノ法律關係ニ因リ請求ヲ爲スト云フカ如キハ不適法ノ訴ナレトモ苟モ請求ノ原因一定セル限ハ縱令二箇以上ノ原因ヲ主張スルモ併立シテ相妨ケサルトキハ之ヲ以テ不適法ノ訴ト爲スヘキモノニ非ス　三八　五五八

賃貸人カ賃貸物ノ明渡ヲ求ムルニ當リ數箇ノ理由ヲ生シタルトキハ之ヲ併セテ請求ノ原因ト爲スモ其理由カ彼此牴觸セサル限ハ敢テ違法ニ非ス又裁判所モ之ヲ併セテ許容スルコトヲ妨ケサルモノトス　四〇　五二

同一ノ請求ヲ維持スルカ爲メニ數箇ノ獨立ナル攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ハキハ民事訴訟法第百十九條ノ認ムル所ナレハ數箇ノ訴ノ原因ヲ主張スルコトヲ妨ケス　四四　九二〇

○原告カ分與契約及ヒ取得時效ニ因リ土地建物ノ所有權ヲ取得シタルコトヲ主張スルハ二箇ノ相牴觸セサル法律關係ヲ以テ請求原因ト爲スモノトス　四六　二三〇八

○請求ノ原因ハ法律關係成立ノ基本タル事實ヲ指稱スルモノナレハ別箇ノ事實ニ基ク不法行爲ヲ主張スルトキハ別箇ノ請求原因ヲ成スモノトス　四七　一四五

○訴ノ原因ハ必スシモ單一ナルコトヲ要セスシテ數箇獨立セル事實ヲ主張シテ訴ノ原因ト爲スコトヲ妨クルモノニ非ス　四七　七二

○一定ノ申立不明瞭ナル場合ニ於テ裁判所ハ民事訴訟法第百十二條第二項ニ基キ之ヲ釋明セシメス直ニ要件ヲ缺クモノトシテ其訴ヲ却下シタルハ同法第百九十條ノ適用ヲ誤リタルモノトス　四九　一〇六八

○一定ノ申立ハ起訴者カ事件ニ付キ如何ナル判決ヲ請求スルニ在ルヤ其意思ヲ表示セシムル爲メノ要件ナレハ其請求ノ主旨ヲ明記スレハ足リ必スシモ訴求ノ目的物ヲ逐一列記スルノ要ナシ　三〇　五七七

（同上主旨）

○一定ノ申立ハ起訴者カ事件ニ付キ如何ナル裁判ヲ請求スルニ在ルヤ其意思ヲ表示セシムル爲メノ要件タルヲ以テ其請求ノ主旨ヲ明記スレハ足リ必スシモ之ニ訴求ノ目的物ヲ逐一列記シ

又ハ係爭場所ヲ詳記スルノ必要アルモノニ非ス

○原告カ一定ノ申立トシテ二者擇一ノ權ヲ相手方ニ與ヘ其一ヲ履行スヘキコトヲ請求スルハ違法ニ非ス

（同三七三）

契約不履行ノ一ノ原因ニ基キ地所ヲ賣戻スカ又ハ損害金ヲ支拂フカ二者擇一ノ請求ヲ爲スハ一定ノ申立ナリ

○訴狀ニ請求ノ目的物ヲ揭ケタルトキハ一定ノ申立ハ其目的物ニ對シ如何ナル判決ヲ求ムルカヲ知ルヲ得ル程度ニ於テ記載スレハ足ル故ニ一定ノ申立中再ヒ請求ノ目的物ヲ列記スルノ要ナシ

（同三七四）

訴狀ニ請求ノ目的物ト一定ノ申立ヲ分別シテ開示スルトキハ一定ノ申立ハ單ニ事件ニ付キ如何ナル判決ヲ求ムルモノナリヤヲ開示スレハ足リ重ネテ目的物ノ何タルヲ開示スルノ必要ナシ故ニ一定ノ申立ニ某地所外何筆ト記載スルモ不適法ノ訴ニ非ス

○一定ノ申立ニ於テ賣買約定ノ取消ヲ求ムル申立ヲ爲シタル上ハ既ニ受取リタル金員返還ノ旨趣ハ自ラ其中ニ含蓄シアルニ依リ特ニ其申立中ニ之ヲ明示スルノ要ナシ

○訴ヲ以テ契約ノ解除ヲ求ムヘキモノニ非サルモ他ノ請求ト同時ニ訴狀ニ解除ノ意思ヲ併記スルハ妨ナキモノトス

三〇	二	一	
三〇	六	四四	
二九	九	五九	
三〇	九	五五	
三〇	四	一二五	
三一	三	二六	
三四	四	七三	

○一定ノ申立ハ請求事項ヲ書面ニ基キ明確ニ申立ツルヲ以テ足ルモノニシテ其表示ニ要式アルコトナシ隨テ訴狀中一定ノ目的物ヲ詳細表示シ其目的物ニ對シ權利ノ確認ヲ求ムル旨ノ一定ノ申立ハ洵ニ明確ニシテ不明ニ非ス裁判所カ之ヲ採用シタルハ相當ナリ

○共有物ノ分割スヘキモノナルヤ否ヤニ關シテ共有者間ニ爭ヲ生シ且分割ノ方法ニ付テモ爭アルカ爲メ訴訟ヲ提起スルニ當リテハ共有物ヲ分割スヘキコトト其實行トニ付キ請求セサルヘカラサルモノニシテ殊ニ分割ノ權利ヲ確定スル爲メ持分ニ關スル原告ノ一定ノ申立ハ判決ヲ求ムル要點トシテ之ヲ明瞭ニ表示スヘキモノトス

○一定ノ申立トハ起訴者カ其訴ニ於テ請求スル所ヲ明確ニ表示スルノ謂ナリ

○一定ノ申立ニシテ一箇ノ地所中其地域ノ分界ナキ若干坪ノ分筆ヲ求ムルモノナルトキハ訴狀ノ要件ヲ具備セサル不法アリトス

○甲乙及ヒ乙丙ニ對シ獨立シテ確的ニ債務ノ履行ヲ求ムルコトナク乙丙ニ對シテハ其訴求ヲ甲乙カ履行セサレハトノ條件ニ繫ラシメタル申立ハ不適法ナリ

○民事訴訟法第百九十條第二項第三號ニ謂フ一定ノ申立ハ原告カ其訴訟

三五	一	三一	
三六	一一	三二	
三七	六〇	二一	
三七	六六	六〇	
三八	二七	二一	

ニ於テ請求スル旨趣ノ表示アレハ唯其旨趣ヲ明記スルヲ以テ足リ必ス
シモ一定申立ナル標目ノ下ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス

（同主旨）

訴狀中請求ノ一定ノ目的物ト云フ題目ヲ掲ケサルモ他ニ之ヲ知リ得ヘキ記載アルトキハ訴狀ノ要件ヲ具備セサル不法アルモノト云フヲ得ス

訴狀ノ各要件ハ必スシモ標題シテ之ヲ記載スルコトヲ要セス唯之ヲ認識シ得レハ足ル

○一定ノ申立ノ記載ハ特ニ表示シタル題號中ニ於テ十分ナラサルトキハ一定ノ請求ノ原因又ハ其他ノ題號中ニ記載シタル所ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得ヘシ

○起訴者ニ於テ先ツ一定シタル物件ノ給付ヲ求メ若シ債務者ヨリ其給付ヲ爲ササレハ該物件ノ價額ニ相當スル金錢ノ支拂ヲ求ムト云フカ如キハ請求ノ旨趣明確ナルヲ以テ其申立ハ一定セサルモノト云フヲ得ス

（同主旨）

一定ノ物件引渡ヲ請求スルニ當リ若シ其物件ヲ引渡ササルトキハ之ニ代ルヘキ一定ノ金額ヲ請求ストノ申立ハ不確定ノ申立ニ非ス故ニ其申立ニ樣ニ渉ルモ一定ノ申立タルヲ妨クス

○起訴者ニ於テ先ツ一定シタル物件ノ給付ヲ求メ次ニ債務者カ其給付ヲ爲ササレハ相當價額ノ支拂ヲ求ムト云フカ如キハ請求ノ旨趣明確ナルヲ以テ其申立ハ一定セサルモノト云フヲ得ス

○債權ノ目的カ判決執行上損害賠償ニ換ヘテ强制執行ヲ求メ得ヘキ性質ヲ有スルトキハ債權者ハ初ヨリ物件給付ノ請求ニ附加シ其給付ノ履行

三九　一〇一四
二九　二　三六　四七八
三六　一二三一
四〇　三九四
二九　一〇　八八
三七　六〇二

ヲ爲サス若クハ爲シ能ハサル場合ニ損害賠償ヲ爲スヘキコトヲ一定ノ申立トシテ訴求シ得ルモノトス

（同主旨）

○債權ノ目的カ判決確定後其執行上損害賠償ニ換ヘテ强制執行ヲ求メ得ヘキ性質ノモノナルトキハ債權者ハ初ヨリ物件給付ノ請求ニ附加シ其給付ノ履行ヲ爲サス若クハ爲シ能ハサル場合ニ損害賠償ヲ爲スヘキコトヲ一定ノ申立トシテ訴求スルヲ妨ケス

○如上ノ場合ニ於テハ起訴者カ物件ノ給付ヲ求ムル原因ヲ開陳シタル以上ハ特ニ損害要償ニ付キ開陳セサルモ請求ノ原因ヲ缺ク不法アリト云フヲ得ス

○民事訴訟法第百九十條第三項ニハ訴狀ハ其他準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ作ルヘキコトヲ規定シ當事者ノ法律上代理人等準備書面ニ掲クヘキ事項ヲモ訴狀ニ掲クヘキコトヲ命シタリト雖モ是レ訓示的規定タルニ過キサレハ當事者ノ法律上代理人ハ必スシモ之ヲ訴狀ニ掲クルヲ要セス又當事者ノ未成年者タルコトヲ掲クルコトノ如キハ準備書面ニ在リテモ法律ノ要求セサル所ナレハ此等ノ事項ヲ掲ケサルモ訴狀ノ要件ヲ缺クモノト謂フヲ得サルモノトス

四〇　七
三九四　二〇二八

（第百九十一條）

【第百九十一條】

○民事訴訟法第百九十一條ニ規定スル所ノ訴訟ノ併合ハ特ニ目的物ノ併合ヲ許スニ止マリ同法第四十八條ノ場合ノ如ク訴訟主體即チ當事者ノ併合ヲ許セルモノニ非ス仍ホ之ヲ詳言スレハ第百九十一條所定ノ併合ヲ爲スニハ單ニ裁判所カ管轄權ヲ有スルト訴訟手續ノ同種類ナルトノ條件ヲ具備スルノミヲ以テ足レリトセス必ス常ニ同一被告ニ對スルモノタルヲ要ス

○民事訴訟法第四十八條ニ依リ共同訴訟ヲ許サレタル共同被告中其一人ノミニ係ル同一性質ノ請求ハ之ヲ共同訴訟ニ併合スルコトヲ禁シタル規定ナキヲ以テ同法第百九十一條ニ依リ之ヲ併合シ得ヘキモノトス

○地上ノ工作物ヲ收去シテ之ヲ明渡スヘキコトヲ請求スルカ如キハ固ヨリ一ノ訴ヲ以テスルヲ許スノミナラス斯ル請求ハ其性質上之ヲ分離シテ二箇ノ訴ト爲サンヨリハ寧ロ一ノ訴ヲ以テスルヲ相當トス

（第百九十二條）

『第百九十二條』

○送達後ニ爲シタル補正ノ申請ニ對シ被告カ異議ヲ唱フルトキハ補正ハ無效ナリ然レトモ其補正ニ對シ被告カ異議ナク答辯シ既ニ辯論ヲ經過シタル上ハ裁判官之ニ干渉シテ其補正ヲ無效タラシムヘキモノニ非ス被告モ亦後ニ至リテ其補正ニ異議ヲ唱フルヲ得ス

○不適法ノ訴狀ハ權利拘束ノ發生前ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ差戻シ得ヘキモ口頭辯論ヲ經タル後判決ヲ以テ之ヲ却下スルヲ得ス

（同旨）

要件ニ缺漏アル訴狀ノ送達後補正ヲ許ス規定ナシ

（第百九十三條）

『第百九十三條』

○呼出狀ニハ一定ノ方式ナシ故ニ其記載事項ニシテ訴訟者カ其訴訟ノ爲メニ呼出サレタルコトヲ知リ得ヘキトキハ呼出ノ效力ヲ有スヘキハ勿論ナリ

（第百九十五條）

『第百九十五條』

○如上ノ場合ニ在テハ前ノ假差押ハ當然强制執行上ノ差押ト爲リ訴訟中目的物ノ狀態ニ變更ヲ來シタルモノニ外ナラスシテ其目的物ノ前後同一ナルコトニ於テ毫モ妨クル所ナケレハ本件ニ於ケル權利拘束モ亦假差押不許ノ訴ノ當初ヨリ繼續スルモノトス（第六編第四章假差押及ヒ假處分五年三九七頁參照）

○訴ノ提起ト權利拘束トハ別箇ノ觀念ニ屬シ訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出スコトニ依リテ爲スモノナレハ權利拘束ヲ生セサルノ故ヲ以テ訴ノ提起ヲ無效ナリト謂フヲ得ス

○訴狀カ訴訟無能力者ニ送達セラレタルニ拘ハラス其法律上代理人ニ於テ辯護士ニ訴訟代理ヲ委任シ本案ノ辯論ヲ爲サシメタル以上ハ送達ノ無效ハ醫癒セラレタルヲ以テ權利拘束ヲ生スルモノトス　七

○權利拘束ノ生シタル後訴訟ノ目的物ヲ被告カ他ニ讓渡スルモ爲メニ原告ノ請求權ニ變動ヲ生スヘキモノニ非ス　三四

○基本債權ニ關スル訴訟ト其利息ニ關スル訴訟ハ其間ニ牽連アリトスルモ之ヲ以テ同一ノ目的ヲ有スル同一ノ訴訟ナリト云フヲ得ス　元

○權利拘束ノ抗辯ハ新舊訴訟共ニ當事者カ同一ナル場合ニ限リ提出スルヲ得ヘク新訴ニ於テ舊訴ノ當事者ノ一方ト第三者トヲ當事者トスル場合ニ於テハ提出スルコトヲ得サルモノトス　五

○訴狀送達ニ因ル權利拘束ノ效力ヲ生シタル後ニ於テ爲替訴訟ヲ通常訴訟ニ改ムルハ民事訴訟法第百九十五條第二項第二號ニ所謂管轄ヲ定ムル事情ノ變更アル場合ノ一ニ該當ス故ニ受訴裁判所ノ管轄ハ此事情ノ變更ニ因リテ變換スヘキモノニ非ス　三十

○變更シタル訴ニ對シ其本案ノ口頭辯論前ニ對手者カ異議ヲ述ヘサルニ於テハ訴ノ變更ハ有效ナルモノトス　三三

○訴狀ニハ被告カ論地ニ對シ故障スルノ權利ナシトノ判決ヲ求メ訴狀訂正申立書ニハ所有權ノ實行ニ對スル妨害タルヘキ棒杭ヲ取除クヘキ義務アリトノ判決ヲ請求シタルモノナルトキハ之カ訂正申立ハ訴ノ變更ニ非ス　二六

○訴名竝ニ一定ノ申立ヲ變更スルモ訴ノ原因ヲ變更セサレハ相手方ニ於テ之ヲ不當トスルヲ得ス　二八

○民事訴訟法ニ所謂訴ノ變更トハ訴ノ原因即チ原告ノ主張スル權利ノ因テ生シタル法律關係ノ變更ヲ云フ　二九

○契約履行ノ訴ヲ同一ノ義務確認ノ訴ニ變更スルカ如キハ訴ノ原因ニ變更ナシ　三〇

○訴狀ニ於ケル取消ノ二字ヲ一定ノ申立書ニ依リ解除ノ二字ニ改メタルトキト雖モ其起訴ノ精神定約ノ解除ヲ求ムルニ在ルコト明瞭ナルニ於テハ其用語ヲ改メタルカ爲メ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス　三〇

○當初相手方ハ違約ヲ理由トシテ手附倍還ノ請求ヲ爲シタルモノ後ニ至リ當事者間ノ契約解除アリタリトシテ手附金ノ返還ヲ請求スルハ訴ノ原因タル契約ノ不履行ヲ變更シテ不當利得ト爲スモノニシテ訴ノ變更ナリトス　三一

○當事者ノ變更ハ訴ノ變更ハ一ニシテ法律ニ於テ其承繼ヲ認メ又ハ其脫

退ヲ認ムル明文アル場合ノ外ハ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス　三四　九　三七

○民法上地上權ノ地代ニ付テハ賃貸借ニ關スル規定ヲ準用スヘキ法規アレトモ元來地上權ト賃貸借トハ法律上之ヲ同一視スルヲ得ス故ニ賃貸借ノ關係ヲ原因ト爲シタル訴ヲ地上權ノ關係ニ變更スルハ訴ノ變更ト云ハサルヘカラス　三四　九　六九

（聯）○訴ハ原因ト目的ト相竢テ成立スルモノナルカ故ニ民事訴訟法第百九十五條第三號ノ規定中ニハ自ラ訴ノ變更ヲ包含シ第四百十三條ノ規定中ニハ自ラ訴ノ原因ヲ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス　三五　九　三一

○原告カ訴ヲ變更シタルトキハ元來ノ訴ノ外一ノ新訴ヲ提起シタルモノナルヲ以テ新訴ノ提起ハ元來ノ訴ハ取下ケタルモノト看做サレ消滅スヘキモノト看做サレ消滅スヘキモ其新訴ノ許サレサル場合ニ於テハ原告カ被告ノ承諾ヲ得テ特ニ元來ノ訴ヲ取下ケサル限ハ其訴ハ依然トシテ存在スルモノトス　三六　一　二三一

（同主旨）原告カ訴ヲ變更シタルトキハ舊訴ノ外一ノ新訴ヲ提起シタルニ外ナラサルカ故ニ其新訴ノ提起ニシテ法律上許サルルトキハ舊訴ハ取下ケタルモノト看做サレ消滅スヘキモ其新訴ノ許サレサル場合ニ於テ原告カ被告ノ承諾ヲ得テ特ニ舊訴ノ取下ヲ爲ササルトキハ舊訴ハ依然存在シ新訴ノミ終局判決ヲ以テ棄却セラルヘキモノトス　三四　一〇　九九

○訴ノ變更ヲ許ササル場合ニ於テハ裁判所ハ直ニ訴訟全體ヲ終局セシムルコトヲ得サルモノニシテ先ツ判決ヲ以テ新訴ヲ却下シ元來ノ訴ニ關シテハ更ニ相當ノ手續ヲ經テ判決ヲ爲ササルヘカラス　三六　二三一

○裏書ニ因ル手形ノ所持人タルコトヲ請求ノ原因トスル訴訟ニ於テ其裏書カ普通ノ裏書ナルヤ又ハ裏書人ノ署名ノミニ因ル裏書ナルヤハ請求ノ原因ニ附隨セル事實ニ過キサルヲ以テ縱令其事實ノ主張ヲ變更スルモ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス　三六　一〇七一

○訴訟提起ノ後原告カ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト認ムヘキ申立ヲ爲シタル場合ト雖モ直ニ此申立ヲ以テ新訴ノ提起ト看做スヘキモノニ非ス故ニ舊訴ノ取下ト同時ニ新訴ヲ提起シタルモノトシテ之ヲ許ス場合ノ外縱令原因ヲ變更セルモノト認ムヘキ申立アルモ其辯論ニ依リテ權利拘束ノ效力ヲ生スルコトナシ　三七　四二

○當事者間ニ未タ地代ノ定ナキ場合ニ於テ新ニ之ヲ創定スルト既ニ定メタル地代ヲ變更スルトハ自ラ其請求原因ヲ異ニシ之ヲ同一視スヘキモノニ非ス　三九　一〇七四

○起訴者ノ請求原因ニシテ不法行爲ヲ成ス事實關係アル以上ハ故意ニ非

○ストスルモ過失ニ因ル不法行爲アリト認ムルニ妨ナキモノトス　四〇　六八五

○金錢ノ貸借契約ヲ請求ノ原因トスル場合ニ在リテハ其關係ノ由テ生シタル事實ノ如キハ請求原因ノ範圍ニ屬セスシテ唯其由來ヲ明カニスルモノタルニ過キサレハ必スシモ起訴者ノ主張ニ於テ之ヲ特定明示スルヲ要セス又後ノ辯論ニ於テ便宜之ヲ附加若クハ更正スルコトヲ妨ケサルモノトス　四一　七一〇

○民事訴訟法第五百四十五條ノ異議ノ訴提起ノ當時債務者カ數箇ノ異議ヲ有シ同時ニ主張スルコトヲ得ヘカリシモノヲ主張セスシテ其訴訟中之ヲ追加スルカ如キハ訴ノ原因ヲ變更スルモノトシテ許スヘキニ非スト雖モ被告ニ於テ何等ノ異議ヲ留メサルトキハ之ヲ追加スルコトヲ妨ケス　四三　一七九

○土地收用法ニ依リ提起スル損失補償請求ノ訴ハ補償スヘキ損失カ收用ニ因ルモノナルヤ將タ移轉ニ因ルモノナルヤハ既定ノ事項トシテ一ニ收用審査會ノ裁決ニ從ハサルヘカラス故ニ當事者カ初ハ收用ニ因ル損失ナリト主張シ後更ニ移轉ニ因ル損失ナリト主張スルモ原因ノ變更ヲ以テ目スヘキモノニ非ス　四四　六〇九

○訴ノ原因トハ請求權ノ發生スル法律關係ノ成立事實ヲ指スモノナレハ原告カ法律關係ノ成立事實ニ屬セサル主張事實ヲ變更スルモ之ヲ以テ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス　五　四三四

○當事者カ訴訟ノ目的物ニ付キ裁判外ニ於テ示談ヲ爲シ債權者ノ權利ヲ消滅セシムルノ行爲ハ本訴訟ノ權利拘束ノ效力ヲ消滅セシムヘキ合意ヲモ當然包含スルモノト解スヘキモノニ非スシテ之ヲ包含スルヤ否ヤハ一ニ各案件ノ性質ニ從ヒ判斷スヘキ事實問題ナリトス　七　二三

（第百九十六條）

『第百九十六條』

○一定ノ申立ノ變更ハ民事訴訟法第百九十六條ノ規定ニ於ケル事項ヲ除ク外一定ノ原因ノ變更ト均シク同法第四百十三條所定ノ訴ノ變更ニ該當セルモノトス　三七　一〇三三

○第一審ニ於テ債務者數名ニ對シ單ニ債務辨濟ノ申立ヲ爲シ第二審ニ至リ更ニ連帶辨濟ノ申立ヲ爲スハ法律上ノ申述ヲ補充シタルモノニシテ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス　三〇　三一

（同上）

第一審ニ於テ單ニ辨濟ノ請求ヲ爲シ第二審ニ於テ連帶辨濟ヲ求ムルハ法律上ノ申述ヲ補充スルニ止マリ訴ノ原因ヲ變シタルモノニ非ス　九

○原告カ第一審ニ於テ被告ノ或行爲ヲ以テ契約違反ノ行爲ト主張シテ違　二九　九三

○約金請求ノ申立ヲ爲シ第二審ニ至リテハ更ニ他ノ行爲ヲ以テ均シク同契約違反ノ行爲ト爲シ併セテ之ヲ主張シタルトキハ民事訴訟法第百九十六條ニ所謂訴ノ原因ヲ變更セスシテ事實上ノ申述ヲ補充シタルニ外ナラサルモノトス　三一

○土地所有者カ借地契約ノ滿期後借地人ニ於テ故ナク其地所ヲ使用シ居ルトノ事實ニ基キ之カ明渡ヲ請求シ控訴審ニ至リ明治三十三年法律第七十二號ニ依リテ地上權者ト推定スルモ滿二个年間ノ地料ヲ支拂ハサル爲メ該地上權ハ全ク消滅ニ歸シタリトノ新事實ヲ提出シ同裁判所カ之ヲ認容シ地料不拂ノ新事實ニ因リ其請求ヲ至當ト爲シ地所ノ明渡ヲ命シタル裁判ハ違法ナリ　九

○金錢ノ消費貸借關係ヲ訴ノ原因トスル者カ第一審裁判所ニ於テハ單ニ貸借關係存在ノ事實ノミヲ陳述シ其目的タル金錢ハ現實ニ之ヲ授受シタルモノナルヤ又ハ現存ノ債務ヲ消費貸借ノ目的ト爲シタルモノナリヤニ付テ詳細ノ申立ヲ爲サス第二審裁判所ニ至リ始メテ之ニ關スル詳細ノ事實ヲ供述スルハ事實ノ補充ニシテ訴ノ變更ニ非ス　三七　四

○選擧訴訟ノ原告カ其訴ノ原因トシテハ選擧ノ規定ニ違背シ當選人ト爲スヘカラサル者ヲ以テ當選人ト爲シタルコトヲ終始主張シタル場合ニ

○在テハ其訴狀ニ於テ選擧權ナキ者ノ爲シタル投票ヲ有效トシタルハ不法ナリト記述シ口頭辯論ニ至リ該選擧ニ於ケル或投票ハ被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノナルニ之ヲ有效トシタルノ不法アルコトヲ追加主張スルハ民事訴訟法第百九十六條ニ所謂訴ノ原因ヲ變更セスシテ事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充セルモノニ外ナラス　四二　一二七

○株式會社創立總會ノ決議ヲ訴ノ原因トシテ主張シタル者カ後ニ至リ第一回株主總會ノ同一決議ヲモ併セテ之ヲ主張スルハ單ニ事實上ノ申述ヲ補充シタルニ止マリ之ヲ以テ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス　四四　五二七

○消費貸借ノ成立シタル事實關係ヲ以テ訴ノ原因ト爲シタル場合ニ於テ其關係ハ代理人ニ依リテ成立シタル旨主張シタルヲ後ニ至リ縱令其代理權限ナシトスルモ本人ノ追認ニ因リテ效力ヲ生シタル旨附加シタレハトテ原因ノ一定ヲ缺キ若クハ新原因ヲ附加シタルモノト爲スヲ得ス　元　八四九

○贈與契約ニ基キテ不動產ノ移轉登記及ヒ其引渡ヲ請求スル訴訟ニ付キ前後等シク訴ノ原因トシテ單純ナル贈與契約ヲ主張セル場合ニ於テ其契約カ直接ニ當事者間ニ成立シタリト主張スルモ將タ原告ノ先代ト被告トノ間ニ契約成立シ原告ハ相續ニ因リテ先代ノ權利ヲ承繼シタリト

主張スルモ贈與契約ノ成立事實ニ何等ノ變更ナケレハ斯ル主張事實ノ變更ハ民事訴訟法第百九十六條第一號ニ所謂事實上ノ申述ヲ補充更正シタルモノニ外ナラス　五　四三四

○民事訴訟法第五百四十九條ニ依ル假差押ニ對スル執行異議ノ訴ハ第三者カ原告トシテ執行ノ目的物ニ付キ所有權其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張シ以テ相手方ノ權利ノ實行ヲ否認スルニ外ナラサレハ訴訟中假差押カ强制執行トシテ存續スルニ至リタルトキハ原告ハ假差押ヲ許ササル旨ノ判決ヲ求ムル申立ヲ强制執行ヲ許サザル旨ノ判決ヲ求ムル申立ニ訂正スルコトヲ得ルモノトス而シテ斯ル訂正ハ民事訴訟法第百九十六條第一項第一號ニ所謂申述ノ更正ニ該當シ申立ノ變更若クハ其擴張ニ屬セス　五　一七八六

○親族會ノ決議ニ對スル不服ノ訴ハ一个月ノ期間内ニ提起スヘキモノナリト雖モ一个月内ニ非サレハ不服ノ事由ヲ主張スルコトヲ得サルモノトシ又ハ數箇ノ事由アルトキハ之ヲ同時ニ主張スヘキ規定ナケレハ一个月内ニ訴ノ提起セラレタル以上ハ其訴ニ於テ訴狀ニ記載シタル事由ノ外ニ補充トシテ他ノ不服ノ事由ヲ主張スルコトヲ妨ケサルモノトス　六　四四八

○一定ノ期限ヲ定メタル賃貸借契約ニ付キ賃借人カ賃料ノ支拂ヲ爲ササルニ因リ賃貸人ヨリ賃借人ニ對シ賃料並ニ損害金ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ賃貸借ノ期間内ハ賃料又其期間後ハ賃料ニ相當スル損害金ノ支拂ヲ求ムルノ旨趣ト解スルヲ相當トス從テ原告カ第一審ニ於テハ賃料ノ名稱ヲ用ヒ又第二審ニ於テハ期限ノ前後ヲ區別シテ賃料及ヒ損害金ノ名稱ヲ用ヒタリトテ之ヲ以テ直ニ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス　七　二二七六

○辯論ノ進行中請求金額ヲ增減スルハ民事訴訟法第百九十六條第二號ノ所謂訴ノ擴張又ハ減縮ニ外ナラス之ヲ訴ノ變更ト云フコトヲ得ス　二六　一　一四

○控訴審ニ至リ利息ノ辨濟ヲ添加シ請求スルハ民事訴訟法第百九十六條第二號ニ該當スルモノニシテ訴ノ變更ニ非ス　三一　八　二六

○債權者カ詐害行爲取消ノ訴訟ヲ提起シ最初債務者ヨリ第三者ニ讓渡シタル債權ノ讓渡行爲ノ取消ヲ請求シタルモ其讓受人カ既ニ債務者ノ債務者ヨリ債權ノ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テ最初ノ請求ニ附加シテ讓受人カ辨濟ニ因リテ得タル金額ヲ債務者ニ返還スヘキコトヲ求ムルハ請求ノ擴張ニ外ナラスシテ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス　三六　一三二〇

○手形ノ受取人カ支拂人ニ對シ引受手續履行ノ請求ヲ爲シタル後其申立ヲ擴張シ若シ直接履行ヲ得ル能ハサレハ損害金ノ支拂ヲ受ケントノ請

求ヲ爲シタル場合ニ裁判所カ唯手形ノ滿期日後ニ其引受ヲ求ムルハ不當ナリトノ理由ノミニ依リ損害賠償ノ請求ヲ排斥シタルハ不法ナリ　三六　一四八九

○數回ノ株主總會ニ付キ其無效ヲ請求スル場合ニ於テハ其各總會ヲ明示スルコトヲ要ス故ニ當初提出セシ一定ノ申立ニ掲ケサル別箇ノ總會決議ノ無效ヲ追加スルハ訴ノ擴張ニ非スシテ新ナル訴ノ提起ナリトス　三七　三九六

○第一審ニ於テ地所賃貸借ノ無效ヲ原因ト爲シ登記ノ抹消及ヒ收益賠償ヲ請求シタル後第二審ニ至リ同一ノ原因ニ基キ更ニ無效確認ノ請求ヲ附加スルカ如キハ即チ訴ノ申立ヲ擴張シタルモノニ外ナラス　三八　四一

○第一審ニ於テ數名ノ被告ニ對シ債務分割履行ノ請求ヲ爲シ分割請求ヲ爲ス所以ノ事實關係ノミヲ陳述シ第二審ニ至リ更メテ各被告ニ對シ連帶債務履行ノ申立ヲ爲シ連帶債務ノ事實ヲ陳述セル場合ト雖モ若シ其係爭債務カ元來連帶債務ナルトキハ第二審ニ於ケル連帶事實ノ供述ハ事實上ノ補充ニシテ其請求額ノ增加ハ申立ノ擴張ニ外ナラス　三八　一〇三〇

○原告カ第一審ニ於テ單ニ轉付命令ノ無效確認ヲ求メ第二審ニ至リ該轉付命令ニ基キ被告カ支拂ヲ受ケタル金圓ノ返還請求ヲ追加シタルトキハ民事訴訟法第百九十六條第二號ニ所謂本案ノ請求ニ付キ訴ノ申立ヲ擴張シタルモノニシテ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス　六　三〇四

○民事訴訟法第百九十六條第三號ハ訴訟提起後ニ生シタル出來事ノ爲メ執行不能ト爲リタル場合ニ民法ノ原則ニ從ヒ賠償ノ責ヲ盡サシムルコトヲ許シタル規定ニシテ單ニ其物件ノ代價ニ限リ請求ヲ許スカ如キ狹隘ナル意義ニ解スヘキモノニ非ス　二九　六　一〇

○請求物件ノ滅盡又ハ變更ニ依リ求ムル賠償ハ債務者ノ善意又ハ惡意ニ從ヒ其賠償金額ニ等差ヲ生スルコトアルモ其請求ハ最初求メタル物件ノ代用ナルヲ以テ訴ノ原因ニ變更ナシ　二九　六　一〇

○質權者ハ其債權ノ滿期ニ至ラサル間ハ質物ノ差押及ヒ公賣ヲ拒ムノ權利アリ故ニ債務者ノ他ノ債權者ヨリ不法ニ其占有ヲ奪ハレタル場合ハ訴追ヲ以テ異議ヲ主張シ之カ返還ヲ請求シ得ルハ勿論若シ公賣等ニ依リ現物ノ返還不能ニ至リタル場合ハ民事訴訟法第百九十六條ニ依リ直ニ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得　二九　一〇　七五

○請求ノ目的物カ新法令ノ規定ニ因リテ給付不能ト爲リタル場合ニ於テハ請求者ハ民事訴訟法第百九十六條第三號ノ規定ニ依リ賠償ヲ求メ得ルモノトス　三九　八七〇

○民事訴訟法第百九十六條第三號ノ最初求メタル物トハ同第百九十條第百九十五條等ニ於ケル請求ノ目的物又ハ訴訟物ト同シク請求ノ目的タ

ル事物ヲ謂ヒ物(有體物)ヲ請求スル場合ニノミ限定セル法意ニ非ス故ニ確認ノ訴ニ付テモ亦同號ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第百九十六條第三號ニ所謂最初求メタル物トハ同法第百九十條第百九十五條等ニ於ケル請求ノ目的物又ハ訴訟物ト同シク請求ノ目的タル事物ヲ指稱シ物(有體物)ヲ請求スル場合ニノミ限定セル法意ニ非ス

四〇　八八六

○民事訴訟法第百九十六條第三號ニ所謂物ノ滅盡トハ不法行爲ニ因ルト將タ其他ノ原由ニ因ルトヲ問ハス被告ノ責任ニ歸スヘキ事由ニ因リテ最初求メタル物ノ滅盡シタル場合ヲ指稱スルモノトス

三九　六八四

○債務者カ强制執行ノ完結前請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シタル以上其訴ノ進行中ニ執行完結シテ異議ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ民事訴訟法第百九十六條第三號ノ規定ニ依リ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

四一　二七五

○民事訴訟法第百九十六條第三號ノ賠償ニハ損害賠償ノミナラス最初求メタル物ノ代償ヲ請求スル場合ヲモ包含スルモノニシテ從テ其物ニ因リ相手方ノ受ケタル不當利得ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

五　二〇九

○原告カ民事訴訟法第百九十六條第三號ニ依リ申立ヲ變更シタル場合ニ於テ損害賠償ニ基ク請求ナリト主張シタルトキハ裁判所ハ此範圍ニ於テ審理裁判スヘク進テ不當利得ノ有無ニ付キ審理裁判ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

六　一七九

○民事訴訟法第百九十六條第一項第三號ニ基キ損害賠償ヲ求ムルハ最初ノ訴ト獨立シテ之ヲ請求スルニ非スシテ最初求メタル物ニ代ヘ補充的ニ之ヲ請求スルモノナレハ訴訟代理人ニ更ニ特別ナル授權ヲ必要トスルモノニ非ス

六　二二六一

○民事訴訟法第百九十六條第三號ハ請求事物ノ滅盡又ハ變更カ訴訟提起後ニ生シタル場合ハ勿論訴訟提起前ニ生シタルトキト雖モ苟モ原告カ之ヲ知ラサリシトキハ最初求メタル事物ニ代ヘ賠償ヲ求ムルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス

七　一六四三

(第百九十七條)

『第百九十七條』

○第一審裁判所カ訴ノ原因ニ變更ナシト裁判シタル件ニ付キ第二審裁判所カ更ニ訴ノ變更アリタルモノト爲シ其訴ヲ却下シタルハ不法ナリ

三〇　四　六〇

(同主旨)

訴ノ變更ナシトノ裁判ハ民事訴訟法第百九十七條ノ規定ニ依リ一審級ニ於テ直ニ確定シ爾後審査ヲ許スヘキモノニ非ス故ニ上告審ニ於テ訴ノ變更ナシトシタル判斷ニ反シ控訴裁判所カ

更ニ訴ノ變更アリト裁判シタルハ該法條ヲ無視シタルノ不法ヲ免レス

○訴ノ變更ナシトスル中間判決ハ形式上ノ確定力ヲ生スルノミニテ固ヨリ當事者間ニ實質上何等ノ確定力ヲモ有スルモノニ非ス

○第二審裁判所ニ於テ訴ノ原因ニ變更ナシト裁判シタル場合ハ縱令同裁判所カ不適法ノ控訴ヲ受理シタル不法アルニモセヨ該判決ニ對スル上告ハ法律上許スヘカラサルモノトス

○訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルヲ以テ其裁判ハ直ニ確定シ其裁判所ヲ覊束スルハ勿論當事者ハ上訴ニ依リ更ニ之ニ反スル裁判ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

（第百九十八條）

『第百九十八條』

○一ノ訴ヲ以テ獨立セル二箇以上ノ請求ヲ爲シタル後其一箇ノ請求ヲ全然取下ケタルトキハ訴ノ一部取下ト稱スヘキモノナリ

○訴ノ取下ハ第一審口頭辯論ノ終結シタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ經タルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ス故ニ上告審ニ至リ當事者雙方ノ連署シタル書面ヲ以テ訴ヲ取下クルモ其效ナキモノトス

○當事者カ訴訟ノ目的物ニ付キ裁判外ニ於テ示談ヲ爲シ債權者ノ權利ヲ消滅セシムルノ行爲ハ本訴訟ノ權利拘束ノ效力ヲ消滅セシムヘキ合意

三〇	三	一六二	
三六		一三八二	
三		七六九	
七		一四九四	
三七		三七八	
四二		九四二	

ヲモ當然包含スルモノト解スヘキモノニ非スシテ之ヲ包含スルヤ否ヤハ一ニ各案件ノ性質ニ從ヒ判斷スヘキ事實問題ナリトス

（第百九十九條）

『第百九十九條』

○答辯書ノ提出ハ提出者自ラ裁判所ニ出頭シテ之ヲ爲スコトヲ要スルニ非スシテ郵便其他ノ方法ヲ以テモ亦之ヲ爲シ得ルモノナレハ單ニ答辯書カ提出シアル事實ノミニ依リ提出者ハ其住所ヨリ裁判所マテ往復旅行ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得ス

（第二百條）

『第二百條』

○强制執行上ノ訴ト雖モ其訴訟手續ハ通常訴訟手續ナルヲ以テ其訴訟手續ニ於テ反訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス

（第二百一條）

『第二百一條』

○反訴ニ依リ義務ノ相殺ヲ求メタルモノニ對シ法律上ノ相殺ヲ主張スルモノトシテ其申立ヲ排斥シタルハ申立以外ニ於テ裁判ヲ爲シ申立ニ付テ裁判ヲ爲ササル不法ヲ免レス

○訴訟ニ於テ被告ノ地位ニ立ツ者カ或契約ヲ詐害行爲ナリトシテ廢罷セシメントスルニハ之ニ因リ不當ニ利得シタル者ニ對シ尙ホ債務者ヲ參加セシメ更ニ訴ヲ提起シテ判決ヲ受クルカ又ハ其行爲カ事件ノ裁判ニ

七		二三	
三七		五三七	
四		二一	
二九	三	一〇四	

影響ヲ及ホス場合ニ於テハ第一審ノ審理中右ト同一ノ訴訟手續ヲ履ミ反訴ヲ提起シテ判決ヲ受クヘキモノトス　三〇　九　五八

○反訴ニ由リ詐害行爲ノ廢罷ヲ主張セス單ニ之ヲ抗辯方法トシテ主張シタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ採用シテ原告ノ請求ヲ斥ケタル裁判ハ不法ナリ　三〇　九　五八

（聯）○民事訴訟法第二百一條第二項ハ訴訟手續ノ遲滯ヲ避ケンカ爲メニ設ケラレタル公益規定ナリトス從テ期間經過後ノ反訴ハ縱令相手方ヨリ何等ノ異議ヲ述ヘスシテ口頭辯論ヲ終了スルモ有效ニ成立スルコトヲ得ス　三九　四八二

（反對）期間後ニ提起セル反訴ニ付キ對手人カ異議ナク口頭辯論ヲ完結スルトキハ其反訴ハ有效ニ成立ス

（聯）○證書訴訟ヲ通常訴訟ニ引直シタル場合ニ於テ被告カ反訴ヲ爲スニハ民事訴訟法第二百一條第二項ニ準據シ其引直ノ時ヨリ二週間内ニ之ヲ提起セサルヘカラス若シ此期間ヲ經過シタルトキハ自己ノ過失ニ因ラサリシコトヲ疏明セサレハ裁判所ハ其反訴ヲ許容スヘキモノニ非ス　二八　二　六九

○區裁判所ノ訴訟手續ニ於テハ反訴ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ル迄何時ニテモ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス　四　一八〇

○反訴ハ被告カ本案ノ辯論前ニ妨訴抗辯ヲ提出シテ本案ノ辯論ヲ拒ミタル場合ト雖モ民事訴訟法第二百一條第二項ノ制限ニ從ヒ提起スルコトヲ要スルモノニシテ之ニ違背シテ起シタル反訴ハ不適法ナリトス　七　六一五

○裁判所カ被告ノ過失ニ因ラスシテ答辯書差出ノ期間以前ニ反訴ヲ起スヲ得サリシコトニ付キ疏明ノ未タ足ラサルモノト認ムルハ其自由ナル心證ヲ以テ判斷スヘキ職權ノ範圍ニ屬スルモノトス　七　六一五

（第二百六條）『第二百六條』

○妨訴ノ抗辯トハ民事訴訟法第二百六條ノ列記ニ限ルモノトス　二六　二　七四

○村長ハ個人ニ關スル訴訟ヲ提起スルノ權利ナシトノ抗辯ハ唯妨訴ノ抗辯ニシテ民事訴訟法ノ所謂無訴權ノ抗辯ニ非ス　二七　二六一

○或事件ニ付キ仲裁契約ノ成立スル以上ハ當事者ハ其契約ニ羈束セラルヘキヲ以テ該事件ニ關シ裁判所ニ出訴スヘキモノニ非ストノ抗辯ヲ爲シ得ヘキモノトス　三三　一〇　一四一

○無訴權ノ抗辯ノ當否ハ原告ノ申立テタル事實及ヒ請求ニ基キ判定スヘキモノニシテ被告ノ主張事實ヲ根據トシテ之ヲ爲スヘキモノニ非ス　三六　四九一

○被處分者ニ非サル一己人カ國家ニ對シ其機關ノ爲シタル行政行爲ニ因

リ私法上ノ債權ヲ有スル旨主張スル訴訟ヲ無訴權ノ抗辯ニ基キテ却下センニハ須ラク該訴訟ハ直接又ハ間接ニ行政行爲ノ取消又ハ變更ヲ求ムルモノニシテ公法上ノ權利關係ヲ其原因トスル事實ヲ認ムルカ若クハ私法關係ヲ其原因ト爲スモノナルモ特ニ法令ヲ以テ之ヲ司法裁判所ノ權限ヨリ除外シタルモノナルコトヲ判定セサルヘカラス

○司法裁判所カ裁判權ヲ有スルヤ否ヤハ專ラ原告ノ主張事實ヲ基礎ト爲シ其事實自體ニ依據シテ之ヲ決定セサルヘカラス故ニ裁判所カ之ヲ究明スルコトナク漫然原告ノ主張スル所ハ全ク私法的關係ヲ以テ請求ノ原因ト爲シ其目的モ亦私法的救濟ニ在リテ毫モ公法的關係ヲ原因ト爲シ行政行爲ノ取消若クハ變更ヲ求ムルモノニ非スト斷定シタルハ不法ナリ

（明三九・一・一〇）

○訴訟關係カ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルヤ否ヤハ專ラ原告ノ主張事實ニ基キ之ヲ定ムルヲ當然トスルモ其訴名又ハ言語文字ノ上ニ表現スル事項ニノミ拘泥スヘキモノニ非スシテ該主張事實ノ實體如何ヲモ參酌セサルヘカラス

○土地ノ境界査定ニ因ル無訴權ノ抗辯ノ當否ヲ判斷スルニハ原告ノ訴旨ニシテ若シ被告抗辯ノ如キ有效ノ境界査定處分アリタルモノトセハ其

（第二百六條）

三八　七六七

三九　一〇二二

四三　三八五

査定處分ヲ變更セントスルニ歸著スルニ於テハ裁判所ハ先ツ以テ有效ノ境界査定處分ノ有無ヲ確定スヘキモノトス

○仲裁契約ノ抗辯ハ本來司法裁判所カ裁判權ヲ有スル爭訟ニ付キ之ヲ除斥シタルニ基クモノナレハ本來裁判權ヲ有セサルニ基ク無訴權ノ抗辯ト同一視スルヲ得スト雖モ司法裁判所ノ裁判ヲ求ムヘカラサルコトヲ抗議スルニ於テ一ナレハ無訴權ノ抗辯ニ準シ妨訴抗辯ノ性質ヲ有スルモノト解スルヲ相當トス

（同三三・一・一〇）

○仲裁契約ニ基ク抗辯ハ民事訴訟法第二百六條第二項第一號ニ所謂無訴權ノ抗辯ナリ仲裁契約ノ成立ヲ理由トシテ應訴ヲ拒ム抗辯ハ妨訴抗辯ニ屬スヘキ性質アリテ無訴權抗辯ノ一ナリトス

○民事訴訟法第二十九條ニ所謂管轄ニ關スル合意ノ存在ヲ主張シ第一審裁判所ノ管轄ヲ否認スル妨訴抗辯ハ係爭事項カ通常裁判所ノ權限ニ屬スルコトヲ爭フモノニ非サレハ所謂管轄違ノ抗辯ニ該當シ無訴權ノ抗辯ヲ以テ目スヘキモノニ非ス而シテ專屬管轄ニ關スル規定ニ違背セルコトヲ理由トスルモノニ非サレハ裁判所ノ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬セサルモノトス

四　一四九八

六　七七六

三三　一〇一四

二　八

五　一九一六

○訴訟ヲ提起シタル當時ハ權利拘束中ナルモ判決ヲ爲ス時ニ至リ其事由消滅シタル場合ニ於テ妨訴ノ抗辯カ理由ナキニ歸スヘキコトハ第一審ト第二審トニ依リテ異同アルコトナシ

（同三三）

權利拘束ノ抗辯ハ訴ヲ絶對ニ不適法ナリトスル事由ニ基クニ非スシテ唯權利拘束ノ期間ナルカ故ニ不適法ナリト云フニ過キサルヲ以テ訴ヲ提起シタルトキハ縱令權利拘束中ナリトスルモ判決ヲ爲ストキニ於テ權利拘束ノ事由消滅シタルトキハ其抗辯ハ理由ナキニ歸スルモノト云ハサルヲ得ス

（刑三七）

（刑三四）

（刑八四）

○受寄者カ擅ニ寄託物タル土地ヲ他人ニ賣渡シタル場合ニ於テ寄託者ヨリ民事ノ訴ヲ提起シ所有權移轉登記ノ抹消ヲ求メタル後更ニ民事原告人トシテ其登記抹消ノ私訴ヲ提起シタルトキハ訴訟ノ原因ハ敦レモ委託契約ニ存スルヲ以テ民事被告人ハ權利拘束ノ抗辯ヲ主張シ得ルモノトス

（刑三八）

○合資會社ノ社員カ前後時ヲ異ニシテ爲シタル豫告ニ基ク退社ヲ原因トシテ二箇ノ持分拂戻請求ノ訴ヲ提起シタルトキハ其兩訴ハ互ニ請求原因ヲ異ニスルモノナレハ被告ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スヲ得ス又前訴ノ判決カ後訴ノ理由ナキコトヲ證スル場合アリトスルモ其判決ノ確定力カ當然後訴ニ及フノ關係ヲ有スルモノニ非ス

○民事訴訟法第二百六條第四號ニ所謂法律上代理欠缺ノ抗辯ハ被告ヨリ其相手方即チ原告ノ法律上代理人ニ對シ代理權限ナキコトヲ爭ヒ得ヘキ規定ニシテ被告タル會社ノ代表者トシテ指名セラレタル者カ自ラ其代理權ノ欠缺ヲ爭フ如キハ同法上妨訴ノ抗辯トシテ之ヲ提出シ得ル規定アルコトナシ

（民三六）

○民事訴訟法第二百六條第二項ニ所謂前訴訟費用未濟ノ抗辯ハ原告カ一旦取下ケタル訴訟ヲ再ヒ提起シタル場合ニノミ之ヲ主張シ得ルモノトス

（民二九）

○取下ケタル訴ヲ再ヒ提起セル者カ第二審ニ至リ始メテ前訴訟費用ヲ辨濟シタル場合ト雖モ妨訴抗辯ノ理由ナキニ歸スルハ當然ナリ

（民四〇）

○地所買戻ノ訴訟ニ付キ代金ノ提供ヲ要スルト否ハ相手方カ有效ニ拋棄シ得ヘキ抗辯ノ一方法ニ屬シ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ非ス

（民二九）

○訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯ハ職權調査ニ屬スル事項ナルヲ以テ當事者ハ其過失ニ非スシテ第一審ニ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルノ要ナク第二審ニ於テ之ヲ提出シ得ヘキノミナラス決シテ

之ヲ抛棄スルコトヲ得サルモノトス

○損害賠償ノ訴ヲ管轄違ナリトスル妨訴抗辯ハ民事訴訟法第二百六條ニ所謂有效ニ抛棄スルコトヲ得ヘキ抗辯ナリトス從テ其抗辯ヲ棄却シタル第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲ササル以上ハ之ヲ抛棄シタルモノト看做ササルヘカラス　三九

○被告カ當事者間ノ定期米賣買取引ニ關スル紛議ニ付テハ某米穀取引所ノ仲裁判斷ニ任スヘキ契約アルコトヲ理由トシテ無訴權ノ妨訴抗辯ヲ爲シタルトキハ其抗辯事項ハ即チ契約ノ存否ニシテ裁判所ノ職權上審判ヲ爲スヘキモノニ非サレハ該妨訴抗辯ハ有效ニ抛棄スルコトヲ得ルモノトス　五

○仲裁契約ノ抗辯ハ之ヲ抛棄スルコトヲ得ヘシト雖モ仲裁契約ノ當事者ノ一方カ仲裁判斷ニ付スヘキ爭訟ニ付キ假處分ヲ爲シタル場合ニ其相手方カ之ニ對シ起訴ヲ命スヘキコトヲ裁判所ニ申立テタルコトハ未タ以テ豫メ仲裁契約ノ抗辯ヲ抛棄シタルモノト爲スコトヲ得サルモノトス　六

○（參照）民事訴訟法第二百六條第七號ニ延期ノ抗辯ヲ妨訴ノ抗辯ナリトスル規定ハ實體法即チ民法債權擔保編第二十四條ニ基クモノトス故ニ其實體法ノ實施ナキ日ニ在テハ延期ノ抗辯ヲ主張スルヲ得ス

三四　五　七三

（第二百七條）

『第二百七條』

○訴訟委任欠缺ノ爭アルモ後ニ其欠缺ナキ事實明瞭シ當事者間異議ナキトキハ特ニ之カ中間判決ヲ爲ササルモ可ナリ　二九　三　八四

○妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ本案ノ判決ト同時ニ之ヲ言渡シタルト否トヲ論セス上訴ニ關シテハ終局判決ト看做スヘキモノナルヲ以テ之ニ對シ特ニ上訴ヲ爲ササレハ該判決ハ法定期間ノ經過ニ因リ自ラ確定スルモノトス　二八

（第二百九條）

『第二百九條』

○行政官ノ土地官民有區分ノ査定ニ不服ナレハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ヘキモ其不服ノ理由ハ普通訴訟ニ對スル防禦方法ト爲スコトヲ得ス　四〇　五　七〇一

○既判力ニ因ル不受理ノ抗辯ハ訴訟ノ審級如何ヲ問ハス又一旦抛棄シタルニ拘ハラス判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ提出スルコトヲ得　二八　四二

○祕密證書即チ反對證書ノ效力ハ其結約當事者間ニ限ラス其證書存在ノ　二九　二　七九

事實ヲ知レル特定權原ノ承繼人及ヒ當事者ノ債權者ニ對シ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ　二九　三一

○起訴後ニ生シタル事實ト雖モ一ノ攻擊若クハ防禦ノ方法ト爲スコトヲ得ルハ判例ノ認ムル所ナリ　三一　三三

○不法ノ原因ニ基ク請求ハ之ヲ許スヘキモノニ非サルモ請求ノ不法原因ニ基クコトヲ主張シ之ニ應スヘキ義務ナシトノ抗辯ヲ提出スルハ違法ニ非ス　三九　一〇九三

（第二百六）

○債務者カ債權者ヨリ辨濟ノ請求ヲ受ケタルトキハ答辯書又ハ口頭辯論ニ於テ相殺ノ意思表示ヲ爲スト同時ニ之ヲ抗辯方法ト爲スコトヲ得而シテ債權者カ訴訟代理人ヲ以テ訴訟行爲ヲ爲サシムル場合ニハ債務者カ之ニ對シテ爲シタル如上ノ意思表示及ヒ抗辯ハ本人ニ對シテ爲シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノナリ　四一　二六一

○被請求者ハ其權利ヲ防衛センカ爲メニ縱令矛盾相容レサル主張ト雖モ抗辯方法トシテ同時ニ之ヲ提出スルコトヲ妨ケス　四一　六〇七

（第二百十）

（同三七三）

防禦方法ハ請求原因ノ如ク必スシモ一定スルコトヲ要セサレハ數多ノ防禦方法中時ニ彼此牴觸スル事項アルモ妨ナシ　三七　一

抗辯方法ハ請求ノ原因ノ如ク必スシモ一定ノモノタルコトヲ要セスシテ數多ノ方法中時ニ彼此牴觸スルコトアルモ妨ナシ　三七　七九五

○民事訴訟法カ訴訟當事者ニ認許スル相殺ノ抗辯ハ相手方ノ請求ニ對スル防禦ノ方法ニシテ一ノ訴訟行爲タル性質ヲ有スルモノトス從テ訴訟代理人ノ代理權中ニハ相手方ニ對シテ此抗辯ヲ提出スルノ權限竝ニ相手方ヨリ其抗辯ヲ對抗セラルルノ權限ヲ包含スルモノトス　元　一〇七五

○確定判決ニ基ク一事再理ノ抗辯ハ確定判決ヲ經タル請求ニ付キ再訴アリタル場合ニ限リ被告ヨリ之ヲ提出シ得ヘキモノトス　三　七一五

○訴訟上相手方ノ請求債權ニ對スル相殺ノ意思表示ハ反訴ノ形式ヲ以テスルノ外抗辯方法トシテ之ヲ提出スルコトヲ得ルモノトス　五　一六九九

（同三七四）

權利拘束中ノ債務ニ對スル相殺ノ意思表示ハ反訴ノ手續ニ依ルニ非サレハ爲シ得サル旨ノ法則ナキヲ以テ抗辯ニ依テモ之ヲ爲シ得ヘキモノトス　三五　九　一一八

相殺ノ意思表示ハ民法上ノ法律行爲ナルモ法律行爲ノ解除若クハ取消ノ意思表示ト均シク訴訟上之ヲ爲シ以テ防禦方法トスルコトヲ得ルモノトス　三九　三二八

（反　對）

請求ヲ受ケタル金額ニ對シ別途ノ貸借ニシテ返濟期限ノ約定ナキ金額ヲ以テ相殺セント欲セハ須ラク反訴ノ方法ニ依ルヘク抗辯ノ方法トシテ之ヲ求メ得ヘキニ非ス　二六　六一

法律上ノ相殺ハ現行法中之ヲ認メス故ニ相殺ノ抗辯ハ民事訴訟法第二百一條ニ從ヒ反訴ノ方法ニ依ルニ非サレハ之ヲ提出スルコトヲ得ス

○民事訴訟法第二百九條ノ制限タル同第二百一條ノ規定ハ反訴ノ形式ヲ以テスル場合ノミニ關シ抗辯方法トシテノ相殺ノ意思表示ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出シ得ヘキモノトス　三〇　五　一六九九

○借主カ民法第五百九十一條ノ抗辯權ヲ行使シ貸主ノ請求ヲ拒否スル場合ニハ裁判所ハ貸主ニ於テ相當ナル期間ヲ定メテ返還ノ請求ヲ爲シタルヤ否ヲ審理判決スヘキモノナリト雖モ借主ニ於テ之ヲ行使セサルトキハ裁判所ハ職權上此等ノ點ヲ調査スルノ責務アルモノニ非ス　七　三〇〇

（同三言）

○無期限ノ消費貸借ニ付キ貸主カ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ請求ヲ爲スコトハ返還請求權行使ノ絶對的必要條件ニ非スシテ借主ニ屬スル一ノ抗辯方法タルニ過キス從テ裁判所ハ借主ノ抗辯アリタル場合ニ限リ之ヲ審判スルヲ以テ足リ職權ヲ以テ此點ノ調査ヲ爲ス責務ナシ　二　八七

民法第五百九十一條第一項ノ催告ハ返還請求權行使ノ必要條件ニ非ス寧ロ其催告ナキ場合ニ於テ借主ニ抗辯權ヲ發生セシムルニ過キス從テ裁判所ハ貸主ノ返還請求權ノ存否ヲ判斷スルニ當リ借主ニ於テ抗辯ヲ提出セサル以上ハ職權ヲ以テ有催告ノ有無ヲ調査スヘキモノニ非ス　三　一九一

○縱令當事者カ被告トシテ正當ナル抗辯方法ヲ有シタル場合ト雖モ前訴訟ニ於テ事實ヲ主張シ得ヘカリシ口頭辯論前ニ生シタルモノナルトキハ新ナル訴訟ニ於テハ確定判決ノ效力トシテ其判決ノ旨趣ニ反シ該抗辯ヲ提出スルコトヲ得サルモノトス　七　一三五二

○原告カ自己ノ土地所有權ヲ主張シテ損害賠償ノ請求ヲ爲ス訴訟ニ於テ被告ノ抗辯ニ依リ原告カ隱居シ其相續人カ家督相續ヲ爲シタルコトヲ認ムルモ隱居當時相續人ヨリ贈與ヲ受ケ更ニ所有權ヲ取得シタリト主張セルハ是レ請求原因タル事實ヲ補述シタルニ止マリ當初ノ請求ヲ維持スル理由ト爲スノ妨ト爲ルモノニ非ス　七　一七八七

（第二百十一條）

『第二百十一條』

○給付ノ訴ニ於ケル判決ノ理由タルヘキ法律關係カ起訴ノ當時既ニ爭ト爲ルトキハ其確認ヲ求ムル訴ヲモ併セテ提起スルコトヲ得ヘシト雖モ此場合ニ於ケル確認ノ訴ハ民事訴訟法第二百十一條ニ規定シタルモノト全然其旨趣ヲ同フスルヲ以テ給付ノ訴ノ當否ハ之ニ因リテ決セラルヘキモノナラサルヘカラス　三（第二百十）　三六　三四七

○賣買ヲ原因トシテ所有權移轉ノ登記手續ヲ請求スル訴訟ニ於テ代金ノ支拂アリタルヤ否ヤノ爭ハ該訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホスヘキ權利關係ニ關スルモノニ外ナラサルヲ以テ其判斷ハ判決主文中ニ包含スルモノニ非ス　二（第二百十一）　元　七六五

（第二百十二條）

『第二百十二條』

○民事訴訟法第二百十二條ハ口頭辯論中ニ生シタル適法ノ請求ニシテ當然許スヘキモノニ關スル規定ナレハ訴ノ提起トシテ許スコトヲ得サル請求ニ付テハ同條ヲ適用スルノ限ニ在ラス　三七

（第二百十三條）

『第二百十三條』

○身代限ノ事實ヲ申立ツル者ニ於テ其證據ヲ提出セサル以上ハ之ヲ非認スル者ニ於テ擧證ノ責任アラス　二四　一　一四

○明示ヲ受ケサルモノハ擧證ノ責ナシ　二五　一　五二

○見本ノ爭點ニ係ルコトヲ認メ乍ラ之ヲ遺却シテ何等ノ排斥ヲ示サス反對立證ノ責任ヲ歸シタルハ違法ノ裁判ナリ　二五　二　八六

（第二百十四條）

○貸借ノ關係ナキ者ヨリ金圓ヲ受取リタルカ爲メ爭ヲ生スルトキハ先ツ其送金ヲ受クヘキ理由即チ他人ノ代償金トシテ受取リタル等ノ確證ヲ擧ケサルヘカラス　二五　五　五六

○債務追認ノ證書アルモ他ニ同一ノ主趣ニテ債務ノ關係アルトキハ其證書ハ他ノ債務ノ追認ニ非スシテ此債務ノ爲メナルコトノ擧證ハ之ヲ提出シタル者ノ責任タル論ヲ俟タス故ニ其擧證ノ責任ヲ盡ササルトキハ之ヲ理由トシテ排斥スルハ當然ナリ　二六　二　一〇一

○船籍ニ登錄シアル船舶ハ法律上現存スルモノト推測スヘキハ當然ナルヲ以テ該公簿ニ記載ノ船舶ニシテ現在セサルモノトセハ其反對主張者ニ於テ擧證ノ責ヲ負ハサルヘカラス　二六　二　二四七

○凡ソ訴訟當事者ニ於テ物ノ所有權ヲ爭フニ方リテハ之ヲ占有セサル者ハ現ニ之ヲ占有スル者カ所有ノ權利ナクシテ之ヲ占有スルコトヲ證明スル責任アリ之ヲ占有スル者ヨリ先ツ自己所有ノ權利ヲ證明スルノ責任ナキヲ法則トス　二八　六　二八

○能力者間ノ金錢授受ハ法律上一應正當ノ原因アリタルモノト推定スル事實ノ主張者ハ其主張ヲ證明スヘキ一應ノ證據力ヲ有スル證據ヲ擧ケサレハ自ラ立證ノ責ヲ盡シ相手方ニ擧證ノ責ヲ負ハシメタルモノト云フヲ得ス　二八　二　三六

○裁判ハ適法ニ爲サレタルモノト推定スヘキハ當然ノ條理ナリ故ニ訴訟手續ニ違背シタル不法アリト論告スル者ハ其主張ノ事實ヲ證明セサルヘカラス　二八　二　五〇

○婦ハ其夫ト共棲スヘキ義務アルモノナレハ其夫家ヲ立出テタルハ自己ノ任意ニ非スト主張スル婦ハ之カ立證ヲ爲スノ責任アリ　二九　二　三二

○公共河水ノ使用者カ他ノ新工事ヲ差止ムルニハ其河水ノ分量ト工事ノ　二九　三　八八

爲メ用水ノ減少スヘキ事實ヲ證明セサルヘカラス　二九　三　九二

○一件記錄燒失シ原審訴訟手續上ノ違法ヲ調査スル道ナキ場合ニ於テハ其違法ヲ攻擊スル者ヨリ之カ立證ヲ爲ササルヘカラス　二九　五　六三

○無的ノ事實ハ之ヲ證明シ能ハストノ原則ナシ故ニ契約ニ原因ヲ缺クコトヲ主張シ其成立ヲ爭フモノハ之ヲ證明スルノ責任アリ　二九　八　八二

○地所ノ取戻ヲ請求スル者ニ於テ其地所カ自己ノ所有ナリトノコトヲ立證シ得サルトキハ對手者ノ主張セル原因カ虛無ニ屬スルコトヲ證シ得タリトスルモ取戻ノ權ナシ　三〇　一　一三

○貸借契約ニ於テ當事者カ一年毎ニ元利金ヲ精算シテ借用證書ヲ書改メ利金ヲ元金ニ組込ムハ普通有リ得ヘキ事柄ナルニ之ヲ異常ノ事柄ナリトシテ其事實ノ主張者ニ立證ノ責ヲ負ハシメタルハ不法ナリ　三〇　六　七四

○檢眞ヲ經タル私署證書ト雖モ未タ其裁判確定セサル以上ハ之ニ關スル擧證ノ責任ハ普通ノ場合ト毫モ異ナルコトナシ故ニ其證書成立ノ眞正ナルコトヲ主張スル者先ツ之カ擧證ノ責ヲ負フヘキハ證據法上當然ノ順序ナリトス　三〇　一〇　五〇

○母ノミ存在スル幼者ノ後見人ト爲リタル者ハ其母カ後見人ノ選定ヲ承諾シタル事實ヲ立證スルノ責任ナリ　三一　八　二四

○印影盜用證書僞造ノ如キ異常ノ事實ヲ主張スル者ハ自ラ其擧證ノ責ニ任セサルヘカラス　三一　一〇　二一

（同三三）

立證ノ責任ハ異常ヲ主張スル者ニ在リ

例外ノ事ハ通常明示スヘキモノトス之ヲ推定スルヲ得サルハ一般普通ノ法理ナリ　二五　三　三五

請求者ハ其主張ヲ證明スル責任アリ異常ノ事實ヲ主張スル者モ亦擧證ノ責任アルモノトス　二五　五　四二

異常ノ事實又ハ既存ノ狀態ニ反スル事實ヲ主張スル者ハ擧證ノ責アリ　二八　四　七一

○不當利得ノ返還ヲ請求スル者ハ其相手方カ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ得タル事實ヲ立證セサルヘカラサルノミナラス尙ホ之カ爲メ自己ノ被フリタル損失ノ事實ヲモ立證スルノ責アリトス　三〇　八　四四

○官署又ハ公署ニ在ル證書カ眞實ニ非サルコトヲ主張スル場合ニ於テ之カ反證ヲ許スヘキハ論ヲ俟タス　三二　六　五二

○同居ノ場合ニ於テ一家ニ二人ノ戶主アルモ其家屋內ニ在ル物品ニシテ同居者ノ所有ニ屬スルコト判然セサルモノニ付テハ主タル居住者ノ所有ト推定スヘキモノトス　三二　九　八九

○拒絕證書カ拒絕者ノ營業所又ハ住所以外ニ於テ作成セラレタルモノナルヤ否ヤヲ爭フトキハ被拒絕者ニ於テ其場所ハ拒絕者ノ營業所又ハ住

所ナルコトヲ證明スルノ責任アルモノトス　三四　一　六三

○選擧ニ關スル運動費ト稱スルモノノ給付ナレハ即チ不法ノ原因ニ出テタル給付ナリトハ概言スルコトヲ得サルヲ以テ其金錢給付ノ目的不法ナリシコトヲ主張スル者ニ證明ノ責任アリ　三四　二　七五

○民法實施以前ニ於テハ詐害行爲取消ノ訴ニ付キ原告カ債務者ノ害意ヲ證明シ得タルトキト雖モ立證ノ責任受益者ニ移轉スル旨ノ規定ナキヲ以テ普通ノ場合ノ如ク債務者ノ害意ヲ知リテ債務者ト取引シタリト主張スル原告ニ於テ其立證ヲ爲スヘキモノトス　三五　二　二六

○契約ノ成立ヲ證書調製ノ條件ニ繫ラシメ意思表示ハ證書ニ記載シテ之ヲ爲スヘク證書ノ調製ナキトキハ意思表示ナシト云フカ如キ特約アル場合ノ外當事者ハ人證ヲ以テ契約ノ成立ヲ證明スルコトヲ得　三五　三　八四

○後見人ハ財產上ノ事ニ付キ被後見人ニ代リ他人ト法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナレハ後見人ノ代表行爲ハ一應相當ナルモノト看做スヘキハ當然ノ條理ナルニ付キ其行爲ヲ以テ權限外ナリト主張スル場合ニハ其主張者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス　三五　四　一四一八

○金錢ノ給付ヲ請求スル者ハ漠然金錢上ノ債權ヲ有スルコトヲ證明スル　三五　一六　一六七

モ其數額ヲ證明セサルトキハ未タ充分ニ其證明ノ責任ヲ盡シタルモノニ非サレハ其數額ヲ證明セサル理由ヲ以テ敗訴ノ裁判ヲ受クヘキハ當然ナリ　三五　一〇　四九

○事實上債務ノ存在セサリシ場合ニ債務ノ辨濟トシテ或給付ヲ爲シタル者アルトキハ反證ナキ限ハ債務アリシモノト誤信シテ其辨濟ヲ爲セシモノト推定スヘシ　三五　一一　六三

○寄託者カ寄託シタル特定物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ受寄者ハ中等ノ物質ヲ有スル物ヲ以テ返還スヘキモノナリトノ法則又ハ寄託物ハ中等ノ物質ヲ有スルモノト推定スヘシトノ法則アルニ非サレハ寄託者ハ寄託物ノ品質ヲ證明スルノ責任ヲ免ルルコト能ハス　三五　一一　一一〇

○請求ノ原因ト其數額トニ付キ爭アリ之ヲ分離シテ裁判ヲ爲ストキト雖モ請求者ニ於テ其原因及ヒ數額共ニ證明スヘキ責任アルモノトス　三六　八

○詐害行爲取消ノ訴ニ於テ受益者又ハ轉得者ノ惡意ナリシコトニ付テハ債權者ニ立證ノ責任ナク法律上之ヲ推定セラルヘキヲ以テ受益者又ハ轉得者ヨリ自己ノ善意ナリシコトヲ證明セサルヘカラサルモノニシテ此等ノ者ノ立證責任ハ自己ヨリ先ニ他ノ債權者カ債務者ト行爲ヲ爲シタルヤ否ヤノ事實ヲ調査スル方法アルト否トニ依リ異ナルコトナシ　三六　九七〇

○當事者ノ委任狀ヲ携帶セル代理人カ公證役場ニ出頭シテ契約締結ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ該委任狀ノ眞否ハ公證人ノ敢テ關知セサル所ナレハ其署名者ナリト主張セラルル者ニ於テ之ヲ否認スル以上ハ之カ眞正ヲ主張スル相手方ニ擧證責任ノ歸スルコト當然ナリ　三六　一四一九

○當事者カ或場所ヲ其住所ナリトシテ自己ノ所有家屋ナルコト及ヒ同所ニ自己ノ本籍アルコトヲ立證シタル場合ニハ他ニ何等特別ノ事情ナキ以上其所ヲ以テ住所ト見ルヘキハ當然ナリ　八

○原告ニ於テ被告カ一タヒ其所有物ヲ不法ニ占有シタル事實ヲ證明シタル以上ハ他ニ反證ナキ限ハ被告ニ於テ引續キ之ヲ占有スルモノト推定セサルヘカラス故ニ被告カ現ニ之ヲ占有セサルコトヲ主張シテ其返還ノ義務ヲ免ルルニハ自ラ占有喪失ノ事實ヲ證明スルノ責任ヲ負フモノトス　三八　一三九

○取引所仲買人カ買建ノ委託ヲ受ケ乍ラ之ヲ履行セサルニ付キ注文者ヨリ委託契約ヲ解除シ證據金ノ返還ヲ請求スル場合ニ仲買人ニ於テ其委託ノ事實ヲ爭ハサル以上ハ之ヲ正當ニ履行シタルコトニ付テハ先ツ立證ノ責ニ任セサルヘカラス故ニ注文者カ其不履行ノ事實ヲ敘スルニ當リ仲買人ニ反則行爲タルヘキ呑込ノ事實アルコトヲ述フルモ之カ爲メニ立證責任ノ移動スヘキ謂レナシ　三八　三三六

○證明責任ヲ移轉セシムルニハ當事者一方ノ證明ニシテ一應其結果ヲ得タルモノト認メ得ヘキ場合ナラサルヘカラス　三八　四九四

○相手方ノ故意又ハ過失ヲ主張シテ責任ヲ負ハシメントスル場合ニハ法律ニ特別ノ規定アルモノノ外主張者ヨリ其證據ヲ擧示スヘキハ當然ナリ　三八　九九二

○相殺ノ事實ヲ立證セントスル者ハ自己ノ主張スル債權ノ成立スルコト竝ニ其債權ノ辨濟期既ニ到來シ適法ニ相殺ヲ爲シタルコトヲ證明セサルヘカラス從テ債權ノ成立ニ付キ證據調ノ申請アルモ同債權ノ辨濟期ニ到達シタルコトニ付キ何等立證ノ申出ナキトキハ裁判所ハ該申請ヲ不必要トシテ却下スルコトヲ得ヘシ　三八　一〇四二

○被告タル者ト雖モ利益ヲ主張スルニ於テハ立證ノ責任ヲ負フモノトス　三八　一六三九

○或事實ヲ主張スル者ニ擧證ノ責任アル場合ニ於テ其擧證ニ依リ一應右ノ主張ヲ眞實ナリト推定スルヲ當然ト爲ストキハ擧證ノ責任ハ反對ノ事實ヲ主張スル相手方ニ移轉スヘキモノトス　三八　一六七五

○擔保附消費貸借ヲ賣買契約ノ名義ニ假裝セル場合ニハ當事者間ニ於テ

○之ヲ必要トスル事由ナカルヘカラス從テ債權者ナルト將タ債務者ナルトヲ問ハス其賣買ヲ以テ假裝ノ契約ナリト主張スル者ハ之カ立證ノ責ニ任スヘキモノトス　三九

○貸借ヲ證スヘキ證書アル場合ニ該證書カ債權者ノ手裡ニ存在セサルトキハ正當ノ原因ニ依リ其債權消滅ニ歸シタルモノト推測セサルヘカラス　三九　二六八

○係爭不動產カ原告不知ノ間ニ所有權移轉登記及ヒ抵當權登記ヲ受ケタリトシ被告ニ對シテ登記ノ抹消ヲ請求スル訴訟ニ於テハ原告ハ所謂利益ヲ主張スルモノナルヲ以テ第一ニ立證ノ責任ヲ負フモノトス　三九　九〇九

（同三七四）

舉證ノ責ハ某權利ヲ有スト主張スル原告ニ在ルモノトス

○裁判所ニ於テ當事者間ニ延期貸ノ存在セシ事實ヲ認ムル以上ハ縱令債權者ヨリ各延期貸期間ノ終始ヲ證明セサルモ貸借ニ關スル計算ノ不能ヲ惹起スヘキモノニ非ス　二六　二　四四一

○有夫ノ婦カ原告タル場合ト被告タル場合トヲ分タス其意思表示ニ因リテ權利ヲ取得シタリト主張スル者ハ相手方カ夫ノ許可ヲ受ケタル事實ヲ立證スヘキ責任アルモノトス　三九　九五六

○執行異議ノ訴ハ强制執行ノ當否ヲ爭フモノナレハ執行債權者ニ於テ先ツ其執行ノ正當ナルコトヲ證明セサルヘカラス　四〇　二四六

○不法行爲ヲ原因ト爲シ損害賠償ヲ請求スル訴訟ニ於テ其損害カ被告ニ過失アルニ非サレハ通常生セサルヘキ事情存スル場合ニハ一應被告ノ過失ニ基因シタルモノト推定シ得ルモ斯ノ如キ事情ノ存スルコトハ先ツ原告ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス　四〇　三二八

○登記ハ登記官吏カ法律ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スヘキモノナレハ現ニ登記ノ存スル場合ハ一應適法ニ行ハレタルモノト推定セサルヘカラス隨テ反對ノ事實ヲ主張スル者ハ之ヲ證明スヘキ責任ヲ負フモノトス　四〇　六七二

○手形ノ所持人カ之ヲ呈示シタル事實ハ拒絕證書作成義務ノ免除セラレサル場合ニハ法律上該證書ニ依リテノミ之ヲ立證スルコトヲ得故ニ拒絕證書ニシテ適法ナル以上ハ所持人ハ之ニ因リテ呈示ノ事實ヲ立證シタルモノトス　四〇　八五〇

○債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ニ因リテ成立スルヲ原則トシ舊債務者ノ意ニ反シテ之ヲ爲ス場合ハ例外ナレハ例外ノ場合ニ該當スルコトヲ主張シテ更改ノ效力ヲ爭フ者ハ其事實ヲ證明スヘキ責任アリ　四一　三七一